

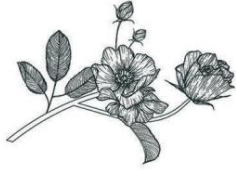


私の猫が私に言いました

BrambleBerry Roseの魔法の旅

アンバー・アークエンジェル著





ウェブ | www.mycattoldme.com フェイス

ブック | <https://www.facebook.com/profile.php?id=100063484482690> インスタグラム | [@mycattoldme](https://www.instagram.com/mycattoldme)

私の猫が私に言いました BrambleBerry Roseの魔法の旅

アンバー・アークエンジェル著

この作品はフィクションですが、私の人生における実際の出来事や実在の人物に基づいています。入っているものすべていくつかの出来事は結合されたり、省略されたりしていますが、この物語は私に起こりました。私が初めて好きになったのは詩、特に俳句でした。この物語には、その初期の作品からの影響がいくつか見られるかもしれませんが、私にとって重要な単語は大文字にしました。句読点も気に入っているのでいくつか使用しています。人の名前はプライバシー保護のため変更されていますが、動物の名前は当時も今もそのままです。

Copyright © 2019 by Amber Archangel 全世界の著作

権を保有します。本書またはその一部は、書評での短い引用の使用を除き、著者の書面による明示的な許可がない限り、いかなる方法でも複製または使用することはできません。





特にブランベリー・ローズを含む、彼女の家族の好奇心旺盛で最愛の猫たちとの彼女の人生を美しく書かれたこの物語の中で、著者は彼女の楽しい思い出や経験を、読者を座って酒を飲みたくなるような心のこもった熱心な声で語ります。彼女があなたに彼らについてすべてを話している間、玄関で彼女と一緒にアイスティーマーの背の高いグラスを飲みます。

物語は最初から最後まで魅力的です。この本は、彼女の愛する猫たちが、一匹の猫の生涯中、そしてその後も著者と共有している知恵と価値観を感謝の気持ちを含めて強調しています。芸術家であり動物愛好家である著者は、数十年にわたって30匹以上の迷子猫を引き取り、家族の一員として世話をしてきましたが、彼女が最も密接な絆を築いたのは、最初の子猫であるアースと、彼女がこう表現する猫ブランベリー・ローズでした。「私の魂、私の心」は、14年以上にわたって彼女の変わらぬ猫の相棒であり、著者との関係がこの本の中心テーマです。

この愛らしく価値のある作品は、捨てられていたブランベリー・ローズの救出を追ったものです。生後1日の子猫が、動物たちの活動と健康を中心に生活を営む緊密な家族の中で、輝かしい成猫になるまでを育てます。著者の家族は、著者、著者の夫で人生のパートナーであるクリストファー、そして3人の年上の「兄弟姉妹」で構成されています。保護的で真っ黒な雄猫のナバル・スター、愛らしくて気さくな雄猫のハックルベリー・ムーン、そして静かな雄猫のハックルベリー・ムーンです。謎の雌猫ガール・グレイ、そしてその後、家族の中でブランベリー・ローズと仲良くできない唯一の元気な赤ちゃんの雌猫ヘイリー・スカイウォーカー。

著者は動物の性格、好きな活動、癖を熱心に観察しています。あらゆる種類の動物を愛する人は、動物の内面と外面の美しさを伝える描写に共通点を見出します。著者は、自分と BrambleBerry Rose には一度の生涯を超えたつながりがあることを知るようになります。たとえば、彼女は地球と BrambleBerry Rose の間に不気味な類似点を感じています。著者を深い悲しみと心痛に陥れた最愛の猫の死の後、著者はブランベリー・ローズから愛と慰めの思考コミュニケーションを受け取って驚いた。著者は、このコミュニケーションが、他の兆候の中でも特に、ブランベリー・ローズの喪失に対処するために不可欠であり、彼女と彼女の最愛の猫がこの世かあの世で再会できるという彼女の確信を強めるものであると説明しています。著者は、彼女の物語が同様に痛みを伴う喪失に苦しんでいる人々を慰め、助けることを望んでいます。

これは、本好きや動物の友達にきっと気に入っていただける、心温まる感動的な物語です。
読む。

—Simon & Schuster の編集者によるレビュー—





他の著者からのレビュー 愛をありがとう	5.
う…	6.
各章を記念し	7.
て献呈	8.
1. 以前からあなたのことを知って	9.
ます 2.これはもしかして本当ですか?	31.
3.お願いします、いいえ!	34.
4. さて。 。犬を連れてくる人もいますよね?	40.
5. あの赤ちゃんを見てください!小さなボブキャットのように見える	49.
6. そして彼女はまだ消えていた 7. オ	61.
レオ、パンダ、リコリス 8. あなたの猫は	83.
とても賢そうだ 9. 大丈夫、ママ 10. 心に	102.
愛を持って生きよう 11.	106.
大きくて赤いプレデター 12. 犬にはスーパ	111.
ーパワーがある 13. 愛は勝つ。損	113.
失は損失です。	116.
	122.
14. ミステール	124.
15. I Know How to Say I Love You 16. 終わり?	127.
	129.
17. 彼女の名前 18.	130.
物語を語る写真を見つけました 19. 私の癒しを助	131.
けてくれたリソースの一部のリスト 著者についての愛する人からのメ	133.
ッセージの日記	134.
	135.





My Cat Told Me: The Magic Journeys of BrambleBerry Roseのレビュー

「私は特に猫が好きではありません（ただし、数匹の猫が私を「飼っていた」という過去の経験から、それは嘘です）。私は涙を誘うものはあまり好きではありません（ただし、この素敵な物語はより合理的に「スピリチュアルな反演者」として適格です）。気分を良くする本は、また別のものです。そして、猫が好きな人、愛する人（二本足または四本足）を亡くした人、そして単純に猫を抱えている人にとって、明らかに完璧な贈り物である本に抵抗できる人がいるでしょうか。または必要です）呼吸を続けて、将来何が起こるであろうと一度に一歩ずつ踏み出す勇気はありますか？ Amber Archangel の美しく詩的な文章により、『My Cat Told Me: The Magic Journeys of BrambleBerry Rose』は小さな宝石となり、友人の、あるいはあなたの読書リストに加えられるに値する愛らしい作品となっています。」

ーヒューゴ・N・ガストル、 『Scribe』、 『Assassin』、 『Against All Odds』、 『The Wrecking Crew』の世界的ベストセラー作家

「あなたが動物を愛したことがあれば、それが初めての子犬であれ、あなたを侮辱したオウムであれ、あなたの体の上によじ登るネズミ、あるいはあなたの膝の上にほとんど住んでいた子猫 - そうすれば、あなたはアンバー大天使の物語を気に入るはずですよ。

動物は愛の塊であり、本当に私たちとコミュニケーションをとっており、私たちを愛しています。どのような。

アンバー大天使、シンプルでありながら同時に深い、心のこもった読書をありがとう。私たち全員がブランブルベリーローズのような愛を持てたらいいのに！」

ージェラルド・ローズ、 『終わりへの戦争』、 『ボーイ・キャプテン』の著者、そしてハミルトンとエグバータ

「おそらく、これまでに語られた最も偉大な知恵の言葉は、あの有名な匿名の教祖、トゥガンによるものでしょう。彼は空中からこう言いました。『動物への愛を知って初めて、充実した人生を送れたのだ。』この人は、地球に降りてきたとき、「人間と猫が行方不明」と書かれたバンパーステッカーを貼ったゴルフカートに食料品を乗せて走り回った人でした。

猫へのご褒美。はい、彼はネコ科動物について真剣に考えていました。そして、嬉しいことに、アンバー・アークエンジェルも同様です。彼女の人生の多くは、地球上で最も賢い種族の1つから学ぶことに費やされてきました。彼女は、あなたの日々を明るくするおいしい物語、My Cat Told Me: The Magic Journeys of BrambleBerry Roseで彼らの啓発された考えと心からの気持ちを共有しています。」

ートニー・シートン、受賞歴のあるジャーナリスト、 『フランシー・ルヴィラード・ミステリーズ』著者





愛をありがとう…

まず私の心の中には、私の人生を共にしてきたすべての猫や子猫のことがあります。私は永遠にあなたを愛しています、そしてまたあなたを見つけることを約束します。

素晴らしい夫がいなかったら、私は今の私ではありません。素晴らしい長い年月、私たちが暮らし、訪れたこの世界の場所、そしてその過程での笑顔と愛に感謝します。あなたの愛は私の最高の部分です。

ランディ（ウィリアム）・オラグの愛と高く評価されたことに、どれだけ感謝したらいいでしょうか。教える？あなたは何十年も私の親友です。あなたは私の心と心を宇宙の知恵と創造主の愛に対して開いてくれました。あなたのおかげで、BrambleBerry Roseの声は続きます。

期間中、BrambleBerry Roseを愛し、気にかけてくれたすべての人々に心から感謝します。彼女の生涯。

友人や隣人が私に語った、愛する動物についての魔法のような物語について彼らは出て行った後、明らかに自分の選択で家に戻った。

BrambleBerry Roseを私に連れ戻す電話に出てくれた地元の素敵な警察に、どうやって感謝すればいいでしょうか？

私の地元の悲しみ回復グループは、私が人生で最も困難な転換期に直面したとき、バスケットにいっぱいの愛情と支援的な指導を与えてくれました。

そして私たちの宇宙の創造主へ、毛皮を着た人に対してでも、人としてでも、愛についてのレッスンをしてくれてありがとう。それ以外のものは最後にはすべて吹き飛ばされます。愛だけがすべてです。





この本はラブストーリーです。それは、すべての鳥、トカゲ、猫、犬、馬、象に捧げられています。すべての生き物は、空気を呼吸するか水を呼吸するか、毛皮や羽毛を持っているかにかかわらず、飛んだり、這ったり、歩いたり、走ったり、飛び跳ねたり、穴を掘ったりするために、仕事をするために意図されています。野生であれ、ペットであれ、あるいは（悲しいことに）消費または非合法的な目的であったとしても。彼らは、心の中にある愛をもって、私たちとこの地球を癒すためにここに来ました。そのことに私は彼らに感謝しています。私は彼らを尊敬しており、彼ら全員を愛しています。

獣たちに尋ねれば、この地球の美しさを教えてくれるでしょう。

—アッシュジの聖フランシスコ

私の愛ある物語を読んでいただきありがとうございます。の代替品ではないことに注意してください。あなたの愛する動物の死や病気について個人的な援助を受けること。





『My Cat Told Me, The Magic Journeys of BrambleBerry Rose』は、愛する友人を亡くした動物愛好家を助けるために書かれた作品でもあります。あなたの大切な友人の名前を以下にメモしておくといでしょう。

私

(あなたの名前)

はあなたを愛し、永遠に大切にします。

私はあなたを探すことを約束します。そして、こちら側でも向こう側でも、また会えることを知っています。

愛に満ちた永遠の記憶の中で

(あなたの最愛の人の名前)





1. 以前からあなたを知っていました

生後8週間の真新しい子猫を手を抱えてソファの羽毛の枕に沈み込むと、夕方の光は静かでした。私が彼女を見ると、彼女は音もなく振り返った。思いがけず、私は自分自身が「以前からあなたのことを知っていた」と言っているのを聞きました。彼女には何かがあった。それが何なのか私には分かりませんでした。彼女の金緑色の目を見つめたとき、私は何か見覚えのあるものに気づきました。

読者の皆さん、はっきりさせておきたいのは、これです。持っていた。ない。起こりました。に。自分。前に。確かに。過去に私は時々何かについて奇妙な感覚を覚えました、そしてそれは起こりました。友人のことを考えていると電話が鳴り、それが友人だったり、コーヒーショップで会ったりしていました。

私たちの多くはそのような経験をしたことがありますが、これはどうでしょうか？これは新しい領域でした。

彼女を胸に抱きしめながら、私は夫のクリストファーのオフィスに入りました。私を助けてくれるかもしれない。彼はいくつかのハイテク住宅の図面を見ていました、そして、私たちのもう一人の女の子の子猫、ガール・グレイは、私たちの庭を見下ろす高い窓の1つの近くで眠っていました。「私は彼女を以前から知っていました。それは可能ですか？

"うん。"彼は顔を上げて私たちの生まれたばかりの赤ちゃんを見つめました。「それは珍しいことですが、可能性はあります。」

女の子のグレイは目を覚まさないで、新しい子猫の妹がいるとは知りませんでした。

「彼女は、すでに私たちと一緒に暮らしている猫の1匹に似ていると思いませんか？」

"多分。"

「彼女を知っていますか？」

"彼女はとてもかわいいです。"彼は椅子に座り直し、手を伸ばして彼女の頭頂部を撫でた。「しかし、そうではありません。彼女のような人を今まで見たことがありません。」

写真アルバムを取り出して、そう、昔のことだけど、リビングルームに広げた敷物の上で何年もの思い出、私と人生を共にしたすべての猫や子猫たちを眺めました。その中には私がクリストファーを知る前からのものも含まれていました。

「あなたは彼らの誰にも似ていません。」私は新しく飼った子猫に言いました。

しかしその気持ちは消えず、その夜遅くにもう一度クリストファーに尋ねました。「彼女が誰であるかをどうやって知ることができますか？」

「もしかしたら、そのうちに、あるいは夢の中でやってくるかもしれない。」

彼女の名前？そう、彼女はとらのべつ甲で、薄めの三毛猫でした。略してタビー三毛三毛猫。

あるいは、ある人が私たちの新しい子猫に会ったときに熱心に述べたように、アップルジャックです。彼女はまるでブランブルベリー畑に迷い込んだかのように見え、濃い灰色の縞模様と金色の斑点がすべてごちゃ混ぜになっていました。頭頂部の毛皮はとげがあり、ほとんどの子猫のように絹のように柔らかくはなく、耳の先には繊細で濃い色の毛の房がありました。それは明らかでした。彼女の名前はミステールではなく、ブランブルベリーでした。それで、彼女が家に帰ってきた日、私がその暖かい毛皮のボールを手のひらのクッションに抱いたとき、彼女の名前はブランブルベリー・ローズになりました。私は彼女に自分のミドルネームを付けましたが、これは他の猫にはしたことがありませんでした。

「ブランブルベリー・ローズという名前は好きですか？」

「ミステールじゃないの？あなたは彼女にミドルネームを付けました。」クリストファーの目は輝いていました。"おお、男、それは彼女に似合っていますか！彼女はとても小さくてかわいいです。。。小さなバタースコッチの赤ちゃん。ナバルとハックルベリーはどう思うだろうか？」

ハックルベリーは私たちの3歳のかわいい子猫でした。彼は後で私たちの家に迷い込んだときに彼女に会うでしょう。彼は隣に猫の友達のアンナを訪ねていました。あの二人は最高の相棒だった。そして、私たちのスティックで大きな黒人の少年であるナバルは、私たちの家族の年長の子猫でした。時々、リスが寝るまで裏庭でぶらぶらしていることもありましたが。クリストファーと私は、彼が子猫たちを守っているのを10年以上見ていたので、私たちの木に巣を作っているリスも守っているのではないかと考えました。



ハックルベリーが私たちに加わったとき、ほぼ暗くなっていた。

私たちはリビングルームの敷物の上に座って、生まれたての小さな赤ちゃん子猫と一緒に何匹か遊んでいた鈴の付いたおもちゃ、彼女が大好きだった羽根物、子猫のトンネルなど。少女グレイは目を覚まし、リビングルームに迷い込んでいた。彼女はソファの後ろに飛び上がり、安全な見晴らしの良い場所から見ていましたが、近づきたくないようでした。

ブランブルベリーは、新しい弟猫を見たとき、急いでトンネルに逃げ込みました。彼は彼女よりも夕食に興味があった。彼女は少しだけ彼の後を追って、安全な距離から静かに彼が食事をするのを眺めました。彼は彼女のことをあまり気にしていなかったが、彼女にあまり近づきたくないようだった。

「ハックルベリー、新しい妹に会いたい？」

ハックはクリストファーを見たが、それ以上近づけなかった。少女グレイは高い視点からその様子を眺めていた。

「彼女の名前はあなたの名前と一致します。 。 。彼女はブランブルベリーです。もしかしたら二人は友達になれるかもしれない。」

私は彼女を抱きしめ、クリストファーはおもちゃで遊び、ハックルベリーをなだめました。彼はシューツという音を立てたり、逃げたりしませんでした。彼は新しい虫を熱心に研究しているかのように彼女を見つめ、それから窓の外が見えるお気に入りのベッドに横になりました。

「ああ、それは私が期待していたものではありませんでした」とクリストファーは言いました。

ナバルが少し遅れてやって来て、興味津々だった。彼は彼女に近づき、大きな黒い鼻を彼女の小さな小さな鼻の隣に置きました。

"うわあ。彼女はとても勇敢です。"

ハックが去った後、私は彼女を敷物の上に戻しましたが、ナバルが近づくと彼女は体を押しつぶしました。かなり低かったが逃げなかった。ナヴァールは大きな黒い足を伸ばして優しく彼女に触れようとしたが、彼女はあまりそれに乗り気ではなかった。彼女が少し怖がっているのが分かったので、もう一度抱き上げました。

「彼はあなたのもう一人の兄です。 。 。彼はナバルで、あなたを愛しています。」彼女は振り返って見た。彼女は理解していたようです。「彼はあなたを守り、見守ってくれるでしょう。約束します。」

私が彼女の小さな顔にキスをすると、彼女はゴロゴロと喉を鳴らしていました。

クリストファーは、より多くの食べ物を手に入れるために、ナバルとガール・グレイと一緒に出発しました。ブランブルベリーと私は暗くなるまでもう少し遊びました。

「うまくいきました」最初の夜に向けてみんなを落ち着かせているときにクリストファーが言いました。一緒に。ハックルベリーはまだ私のオフィスの窓側の席でお気に入りのフランネルベッドに座っていて、彼の隣では女の子のグレイがふわふわのベッドにぴったりと寄り添っていました。ナバルはすでにベッドの足元で丸くなっており、ブランブルベリーは私たちを追って寝室に入ってきました。私が彼女をベッドに寝かせたとき、私が寝ている場所ならどこでも彼女にとって良い場所だと判断したのだと思います。

ブランブルベリーが私の隣で丸くなったとき、クリストファーは「彼女はとても小さい」と静かに言いました。「こんなに大きなベッドがあるのはいいですね。」

眠りにつく前に、初めて子猫をもう一匹飼おうと考え始めたときのことを思い出しました。それは今日から約5年前のことでした。その静かなメッセージは数日後に戻ってきて、まるで子猫がどこかで私を待っているかのように私の頭の中に残り続けました。

当時、クリストファーと私は州の南部に住んでいて、北の小さな町に引っ越し計画を立てていました。当時、保護された3匹の猫を含めた飼い猫たちを連れて行動を起こしたら、おそらく新しい猫の家族に出会えるだろうと思っていました。

サーカスの動物を使用せず、「太陽のサーカス」としても知られる、受賞歴のあるシルク・ドゥ・ソレイユのショーについてご存知かもしれません。同時期にラスベガスでも演奏されていました。親愛なる読者の皆さん、私がこれについて言及する理由は、私が彼らの幻想的な作品について知ったときだからです。

空中曲芸をするとき、どういうわけか、新しく生まれた子猫の名前は、彼らの最新かつ最も長く続いているショー「ミステール」と同じになるだろうと思っていました。

数か月後、クリストファーと私はラスベガスを訪れ、彼らのパフォーマンスを見ることができました。

「彼らはとても高いところにいます。。。」私たちは二人とも驚いて見ていました。

「彼らの飛び方。。。」ある空中ブランコから別の空中ブランコへ。」

「彼らはとても繊細にバランスをとっているんです」とクリストファーは語った。「しかし、彼らは強いアスリートでなければなりません。」

「ミステール。それが彼女の名前だと確信しています。」

"ほんとに?なんで?"

"わからない。彼らが飛び回っているのを見ていると、いつも彼女のことを思い出します。」



サウスランドに引っ越してすぐに出会った最初の猫は、ナバル・スターでした。

我が家のハンサムで全身真っ黒の大きな猫は、あまりにもクールだったので、親しみを込めてナバル、ネイヴィー（ジャジーに似た響き）、またはザ・フォonzとして知られていました。（テレビ番組『ハッピーデイズ』で、ザ・フォonzは黒い革のモーターサイクルジャケットを着た反逆者で、クールの本質だったということを知っているかもしれません。）私たちが彼をブラッシングしたとき、彼の胸の黒い毛皮を分けてみると、隠れた小さな白い毛皮の斑点 - それが彼の名前のスターの由来です。

私たちが彼に会ったとき、彼は小さかった。彼は街灯の光のプールの中に立っていた。我が家の前。

「そこにいる黒い子猫を見てください。」クリストファーは二階のガラス戸にもたれかかっていた。

「彼は何をしているのだろう。。。」彼は一人で外出するのは少し苦手です。」

クリストファーはその小さな子猫を見つめるのをやめられませんでした。「ああ、彼はかわいいよ。」

ルトガー・ハウアーがナバル大尉役、ミシェル・ファイファーが彼の恋人イザボー・ダンジュー夫人役を演じた中世ファンタジー映画『レディホーク』を見終えたところだった。二人の恋人たちは、毎日、日が沈むときと昇る時に消える数秒の瞬間を除いて、決して一緒にならないように呪われていました。彼らはそれぞれ、その半光の間に変身しました - ナバラは夜には黒い狼に、レディ・イザボーは日中は鷹に姿を変えました。

私たちの小さな黒い子猫の友人は、次の夜と次の夜に戻ってきました。私たちは彼の近所の人たちを知っていたので、彼らが彼に恋をしているかどうか尋ねました。

「あなたの小さな黒い子猫。。彼のために家を探していますか、それとも彼を飼うつもりですか？」クリストファーは彼らと友人であり、会話は私たちが予想していたよりもうまくいきました。

「そうですね、彼の猫のお父さんが彼を殴りたいようなので、ちょっと心配です！」

「彼はほぼ毎晩私たちの家にやって来ます。彼を家に連れて行ってもよろしいでしょうか？」

「もし望むなら、彼を引き留めてもいいよ。。」

こうして私たちの大切な息子、ナベイが誕生し、彼の名前がナヴァールになったのです。

ナバル・スターの父親であるブーツは、とても大きな黒猫でした。違いは、彼が白いブーツを4本持っていたことです。私たちは彼が威嚇できる他の子猫や猫を探して近所を巡回しているのを何度も見ました。彼は積極的に彼らのスペースに侵入し、彼らにそっとあくびをし、喧嘩をしようとしました。彼らが立ち去ろうとすると、彼は彼らを止めた。とても意地悪な猫でした。

ある日、私たちはブーツが子猫の前に立って、意地悪で威嚇的な態度を取り、子猫を見つめているのを見ました。彼を怖がらせ、小さな猫を怖がらせます。

"あなたはあれが見えますか？"クリストファーは私を見た。「あの子猫を助けに行きます。ブーツは彼を傷つけるかもしれない。」

クリストファーは通りに出てブーツに近づきました。若い猫は動かず、ブーツはクリストファーが近づいていることを気にしていないようだった。彼は小さな猫を見つめるのをやめたり、立ち去らせたりしませんでした。

クリストファーはついに彼に向かって走り、足を踏み鳴らし、腕を振りました。「あの子を放っておいて一人で！」しかし、ブーツさんはただ子猫を見つめ続けました。

ついに、クリストファーが彼からほんの数センチに近づいたとき、ブーツはゆっくりと歩き去った。彼はまるで「待ってください」と言っているかのようにクリストファーを振り返り続けました。ただ待ってください！

「猫がそのような行動をするのを見たことはありません。」私は首を振っていました。「近所の子猫たちにも気をつけます。」

「彼の目を見ましたか？」

「そう、彼は凶悪そうな顔をしていました。」

クリストファーさんは、年下の猫が安全に歩き去るのを見ながら、「彼は本当に私をそこに連れてほしくなかった」と語った。「でも、彼は私を怖がらなかった。」



ある暖かい夏の夜遅く、クリストファーは私たちの二階のバルコニーに座っていました。「何が起きているのか調べてください。」とささやきながら私に呼びかけました。ブーツが何をしているかを見てください。」

そして、素敵な読者の皆さん、信じられないかもしれませんが、これは本当です。

ブーツが家の前の通りで別の小さな若い猫に近づいてくるのを、私たちは見晴らしの良い場所から驚いて見ていました。近所の街灯の月明かりの中で、私たちは観客のような景色を眺めていました。小型の猫は夏の夜の散歩に出かけ、誤ってブーツの縄張りに迷い込んでしまったようだ。

大きな黒猫が近づいてくるのが見えたときには、もう手遅れでした。

彼女が歩くのをやめ、ブーツの射程から抜け出そうと後ずさろうとしたとき、通りの向かい側の隣人の庭にある影の茂みから細いキタキツネが飛び出してきました。キツネは、大きくて威嚇するあざとい猫を、怖がる子猫から追い払い、私たちの敷地内の茂みの中へ、峡谷の方へ追いかけました。あっという間にキツネはいなくなり、ブーツはどこにも見えず、子猫はその場で凍りつきました。彼女はひげ一本動かすこともできなかった。

彼らは、私たちがこの動物正義の場面を見ているとは知りませんでした。

「キツネが戻ってきて、あの子を追いかけてくると思いますか？」

"知るか？それにしても彼らはどこへ行ったのでしょうか？裏庭を見てください。」クリストファーは、家の裏の暗い庭に何か見えるかどうかを調べるために出発しました。キツネとブーツは藪を抜けて私たちの敷地の裏に逃げていった。しかし、カサカサ音は止み、すべてが再び静まり返りました。

「外には何も見えません。」クリストファーは座って見ている。小さな猫はまだ街灯の中で固まったまま立っていた。

数分間同じ姿勢で呆然とした後、彼女はゆっくりと体を震わせた。後ろ足を1本、次に前足を1本。さらに1分後、彼女はもう一方の前足を振りました。

「彼女は足の使い方を思い出そうとしているのだと思います。」クリストファーの楽しみ方彼らは私にとって愛おしかったです。「彼女はおそらくキツネが自分を迎えに戻ってくるかどうか疑問に思っているでしょう。」

ちょうどその頃、キツネは庭の茂みから小走りで通りに出てきました。

「ほら、キツネが帰ってきたよ！」

子猫のことが心配でした。しかしキツネは彼女をちらりと見て歩き続けました。彼は渡った
通りに出て、それから隣の家の柔らかい草の上で丸まって眠りました。

「ああ、あの子は動けないんだ。キツネは彼女のことをまったく気にしていないようです。それは
それはブーツのカルマに違いない」とクリストファーは言った、「彼はブーツを追い払うためだけに出てきたのです。」

子猫はついにすべての足を同じ方向に動かし、音もなく走り回りました。
離れて。

"あなたは彼女を知っていますか？"

私は通りにいる子猫の多くを知っていました。「うーん、彼女は行くと思います。。。いいえ、彼女を見たことはありません。どこ
か？」

「おそらく二度と離れることのない家になるでしょう！」

私たちはもう少し見ていました。子猫は無事にいなくなり、救世主フォックスは柔らかい草の上で眠り続けました。

救世主フォックスを再び見ることはできませんでしたが、ブーツが他の子猫に嫌がらせをする様子も見られませんでした。私たちは
私たちの近所に守護天使のキツネがいて、彼を列に並べているのだろうか疑問に思いました。



私たちがグレイまたはグレイグレイという愛称で親しまれているガールグレイに出会ったとき、ナバルは私たちと一緒に数年経っていました。彼女は
子猫のときにクリストファーと私を見つけくれました。私たちは当時ハワイに住んでいました。
クリストファーは注文住宅を設計して建て、私はインテリアデザイナーで、私たちはオアフ島の伝説的なノースショアで働いていました。私たちは、ハレイワのクラ
イアントのために伝統的なハワイアンスタイルの家を建てていました。この家は、有名なサーフィンビーチの1つに近い、水辺の住宅街にありました。

私が初めて彼女に会った夜、彼女はとてもゆっくりと我が家の木製の玄関ポーチに入ってきました。私は中において、クリストファーに「この子猫を見
てください」とささやきました。

私たちは二人とも彼女が探検するのを見ていました。まるで今にも怪物が飛び出してくるのを予期しているかのように、とても慎重に動いていた。

「彼女はお腹が空いているようだ。彼女に食べ物を買って行ってもいいですか？」

「そうだ、ピザも食べよう。」

私たちは食料を調達するために出発し、子猫と人々の食べ物を持って戻りました。彼女はいなくなったが、私たちは玄関に座っていた。とても静かなこと。

「彼女は私たちを見ているよ」しばらくしてクリストファーがささやいた。「二時、藪の下です。」

私は子猫の餌をスプーンで小さな皿に入れましたが、猫はそれ以上近づきませんでした。

"中に行こう。"

私たちは食べ物が入ったボウルを残して、静かに網戸の中に滑り込みました。

「ああ、彼女は何か食べているよ。わーい。」私はとても幸せでした。彼女はとても小さかったです。

それから彼女は、私たちが住んでいた島の別荘の木の玄関ポーチで私に餌をやらせてくれるようになりました。彼女はまだ小さな子猫で、首にはプラスチックのノミ取り首輪が巻かれていました。彼女は間違いなく少し乱暴で、私に触らせようとはしませんでした。そして、すぐに首輪が外れてしまい、死に至る可能性があることは明らかでした。

彼女は夕食を楽しんでいる間、ゆっくりと私を近くに座らせ、私は計画を立て始めました。

「彼女からその首輪を外さなければなりません。」

「首輪を掴んでもらえますか？」

「はい、でも彼女はあまりにも小刻みに動くので、切り取ることができません。」

それで、ある晩、彼女が私が彼女の隣に座ることになり慣れてきた後、私はハサミを取り出し、それを私の後ろに隠しました。彼女が食事をしている間、私は彼女の首輪を掴んで切り落とし、首輪ごとハサミを落としました。

"わかった。"私は興奮していましたが、それ以上音を立てずに動かずに座っていました。

彼女は逃げ出し、数日間行方不明になりましたが、ついに戻ってきました。その後、彼女は我が家の島猫になりました。

女の子のグレイはハワイアンサトウキビの子猫でした。明らかな兆候は彼女の尻尾の端の縮れでした。どこで曲がったのか、あるいはクリストファーがふざけて言ったように、「方向が変わる」。島の友人たちは、サトウキビ畑で見つかった、尻尾の短い野生の猫についての話をしてくれました。彼らは、それは遺伝学の一部であり、何世代も後に猫の尻尾の縮れとして現れたと私たちに言いました。

私たちはホノルルにいるカフナを知っていて、スピリチュアルなリーディングを依頼するために彼女に連絡しました。「あなたの猫のガール・グレイはとても敏感で、火山と火の女神ペレが大好きです。ハワイの宗教では、ペレはハワイ諸島の創造者です。」

「多くの猫がそう感じているのですか？」

「いいえ、それほど多くはありませんが、以前にカフナ・キャッツで見たことがあります。。神秘的な。。深く霊的な生き物。猫というより妖精ですね。」

「それはかなりユニークですね。彼女は島と深いつながりがあるのですか？」

「はい、彼女の猫の DNA は何世代にもわたってサトウキビ猫であり、彼女はカウルを含む古代の神々と交信しています。彼のことを聞いたことがありますか？」

「いいえ、でも私たちはビッグアイランドの火山まで歩いて行きました。そこにペレが住んでいると聞きました。」

"はいはい。来てくれて本当に嬉しいです。あなたが訪れたときは噴火していましたか？地域や活動とのつながりを感じましたか？」

「はい、噴火していました。私たちは自分たちが立っている土地と、今起こっていることに対して深い敬意を感じました。溶岩が流れます。海の端。なんという光景でしょう。」。いやあ、暑いですね。。そして新しい土地が形成されつつある

「私たちはその上を飛んでいきました」とクリストファーさんは思い起こす。

「あなたはパイロットですか？」

「はい、それで私は真っ赤に熱した溶岩が噴出する場所に近づくことができました」
海。空中に立ち上る蒸気は、これまで飛行したことがなかったものでした。」

「これがあなたの小さな猫を理解するのに役立つことを願っています。彼女はあなたが言ったことすべてに関係しています。彼女は、私が言及したもう一人のハワイの神、カウルとも関係があります。伝説によれば、彼は不死であり、年をとりません。彼は戦闘中に傷つけられることはありません。私はあなたの子猫が戦闘機だと言っているわけではありません。実際、彼女はとても静かで瞑想的なようです。また、あなたが悲しんでいたか動揺しているとき、あるいは他の猫が怪我をしたり病気になったりしたときも、彼女は助けたいと思うかもしれません。」

「彼女は秘密を知っているような気がします。」

クリストファーもカフナもそっと笑った。

「彼女は秘密を知っています。。そして彼女はそれらを自分だけのものにしておきます。彼女は深く認識しており、物事を観察したり考えたりすることに時間を費やしています。時々、彼女はよそよそしく、よそよそしいように見えるかもしれませんが、彼女は物事を処理しており、時間をかけて取り組んでいます。彼女はほとんどの猫よりもさらにテレパシーでコミュニケーションをとります。」

「私は猫たちに言葉の考えやイメージを送るように言われました。それが最善の方法ですか？彼女とコミュニケーションを取りますか？」

「はい、彼女は話し言葉に圧倒されてしまうことがあります。彼女は自分自身を守り、観察者になるかもしれません。彼女はちょっと愛らしいトリックスターで、他の猫がやらないことをするのもかもしれないし、変身者である可能性さえあります。」

「ああ、私たちの大きな黒猫ナバールが変身するのを見ました。私たちが本土に住んでいる家には、屋外の地上にホットタブがあります。ある午後、私たち二人が外に出たとき、誰かが家に入ろうとしているかのように門の掛け金がガタガタと鳴りました。ナバールは大きな黒ヒョウになりました。」

「二人ともそれを見ましたか？」

"はい。それはほんの数秒しか続かず、私たちはお互いを見つめました。」クリストファーの目が少し見開かれた。「私たちはお互いに『あれを見ましたか？』と尋ねました。」誰かが庭に入ってきた場合に備えて、彼が私たちを守ってくれているのだと思いました。」

数か月後、私たちが本土に戻ったとき、賢くて優しくてこっそり女の子のグレイが、毛布とお気に入りの子猫のおもちゃをいくつかと一緒に犬小屋にまとめて私たちと一緒に飛行機に乗っていました。彼女はロシアンブルーのような色をしており、その名前が示すとおり、全身が銀灰色で、緑の黒縁の目でした。彼女はただ美しかった。



ハックルベリー ムーンはハックまたはハックルベリーとも呼ばれ、途中のどこかでバグズまたはバグジーというニックネームが付けられました。彼はこれまでに生まれた中で最も優しい男の子猫のひとつで、ガール・グレイの数年後、子猫だったときに私たちのところにやってきました。彼は近所の家に住んでいて、人間の母親と猫の母親と兄弟に加えて、数匹の中型のヘビ、2匹の桃色のコンゴウインコ、2匹の大型の愛情深い犬、ネズミのコロニーと3人の活発な子供たち。彼が私たちと一緒に住むようになったとき、ハックルベリーは、私たちが持っているものは何でも使えるという印象を私たちに与えました。しかし、彼の出身地である陽気でサーカスのような動物園が私たちに訪れることはありそうにありませんでした。釣り竿を肩に掛けたハックルベリー・フィンの冒険が頭に浮かんだので、彼をハックルベリーと名付けました。彼には古典的なノルウェー・フォレスト キャットの独特の模様がありました。トラの縞模様があり、白いブーツを履いていました。大きくなるにつれて、口と鼻の白い模様が顔に満月の形をしているように見えました。。

彼に会った日、クリストファーと私はサウスランド地方の前庭に座って、少女グレイと近所の猫ジレットと遊んでおり、ナバールは家の屋根に座って私たちを守っていました。近所の子供たち数人が私たちに加わり、その後、別の素敵な大人の隣人が立ち寄りました。彼女は子猫を飼っていて、私たちと遊んでいかどうか知りたがっていました。

私たち全員が草の上に座って、猫たちがおもちゃを追いかけている間、クリストファーが家に入ろうと立ち上がったとき、小さな子猫が彼の後ろをのろのろと歩いていました。私たちはその小さな子が出ていくのを見て驚きました。なぜなら私たちはみんなで遊んでいたのに、彼は知らない誰かと一緒に出て行って、入ったことのない家に入っていったからです。

クリストファーが戻ってきたとき、彼は子猫を抱いていました。「私は彼を引き留めたい。もう一匹猫が欲しいですか？」

「確かに、彼は可愛いよ。」

それは少女グレイがハックと出会った日だった。彼女はハックルベリー・ムーンより数歳年上で、彼らは親友になった。彼女は、彼らが特別な二人であること、柔らかく、優しく、愛らしい小さな魂であることをすぐに理解したようでした。

ナバールはハックルベリーを観察した。彼は彼やガール・グレイとは遊ばなかった。ナバールは自分自身を小さな猫たちの監視者であり指導者だと考えていたように感じました。当時ハックは生後数カ月で、ネイヴィーはその何年も前に、私たちが彼女を家に連れて帰った最初の瞬間から、女の子のグレイを受け入れていました。彼はそれらが好きでも嫌いでもなかった。彼はそれらが自分の責任であるという印象を私に与えた。彼らの個々の性格と彼らがお互いにどのように暮らしているかを見るのはとても興味深いものでした。

クリストファーと私は猫を家族だと考えており、生活の中に猫がいることを光栄に感じていました。私たちは彼らを心から愛し、彼らの予想外の行動に何度も笑いました。彼らは全員同時に同じ食べ物を与えられ、いくつかの異なる場所にそれぞれ専用のふわふわのベッドがあり、年少の子供たちは遊ぶためのおもちゃがいっぱい入ったかごを持っていました。

彼らには、通りの向かいに住んでいるジレットという名前の猫の友達がありました。静かでとても人懐っこい、真っ白な猫で、キャットドアから我が家に入ってきました。

私たちはそれを猫ドアと呼んでいましたが、これまで見たことのないヴィンテージの作り付けの配置でした。聞いたところによると、それは家の後ろの壁にある、高さ約4フィートの昔ながらの牛乳配達用のドアだったそうです。それは実際には2つの小さな金属製のドアで、内側と外側の表面に1つずつあり、その間の壁には空洞がありました。高さ約7～8インチの楕円形の各ドアにはスライド式のラッチが付いていましたが、ロックはありませんでした。遠い昔、そこに住む人々にはガラス瓶に入った新鮮な牛乳が届けられていました。そのため、ドアは内側からも外側からも開けることができました。どちらかまたは両方のドアを閉めて、ラッチをスライドさせて、子供たちを中に入れ、生き物を入れないようにすることができました。

そうですね、友人猫のジレットは、あの小さなドアから家に入ってきて、歩いていました。キブルを通り過ぎて、子猫のおもちゃが住んでいるリビングルームに行きました。彼はおもちゃがいっぱい入ったかごをチェックして、欲しいものを手に入れ、同じ猫のドアから飛び降りて、新しい宝物を家に持ち帰りました。彼が何をしたのかを知ったとき、私は笑いが止まりませんでした。時々、私は彼のお母さんを訪ねて、おもちゃの隠し場所を取りに行きました。彼はまた始めなければならなくなるだろう。

晴れた朝は、私と3匹の子猫、ジレット、そしてマタタビの日の出に参加したい他の人たちと一緒に過ごすことが多かった。我が家には玄関につながる丸い飛び石があり、人懐っこい猫がたくさんいたので、各段に新鮮な小さな山ほどのニップを置きました。私はベランダに座って彼らを観察しました。

穏やかな朝には、ナバールは他の子猫たちと合流しましたが、他の時には玄関ポーチで家の警備をしていたり、屋根の上で近所の他の猫たちをマインドコントロールしていたりしていました。彼は、家の屋根に座って、自分のテリトリーに入ろうとする猫を黙って見つめるという、とても魅力的なことをしていました。彼は大きな緑の瞳を彼らに集中させた。

通りを歩いていると、音も立てずに彼らは空中に浮かぶ彼を見て、歩くのをやめて、後ずさりしていました。

一步一步。

そして彼らは背を向けて小走りで去っていきました。

再び彼らに会うことはめったにありませんでした。愛しい読者の皆さん、おそらくこの魔術師のことを覚えているでしょう。キャメロット物語に登場するマーリン。ネイヴィは私に彼のことを思い出させた。

彼が私たちのポーチに座っているとき、他の猫は誰も彼に加わることを許可されませんでした。彼らはただ、その時そこに座ってはいけないことを知っていました。彼は決してシューツという音を立てたり、自分のスペースを強制したりすることはなく、ただ黙ってルールを設定し、それは魔法のように従ったのです。先ほども言いましたが、私たちは彼が若い猫たちを仲間ではなく、自分の課題として見ているのだと思いました。

少女グレイは音の出るものを見つける不思議な方法を持っていました。彼女は飛び上がるだろう玄関ポーチにある幅約12インチの手すりの棚に座り、前足で昔ながらの郵便受けのカバーを開けました。格子を作ってそれを覆っていたので、たどり着くのは簡単ではありませんでした。彼女はそれを開けて落とし、カタカタと低い音を立てました。私が声を聞いて玄関のドアを開けるまで、彼女はそうしていました。それから彼女はベランダに飛び降りて家の中に入りました。私は彼女がどうやってそんなことを知っていたのかに興味をそそられました。誰も彼女を見せたことはありませんでした。うちには郵便物を入れるかごがあったので、リビングルームにある装飾的なレトロな箱に手紙を入れる郵便ポストは、郵便担当者ですら使われませんでした。

私は高さ約3インチの、小さくてカラフルなテディベアの缶をコレクションしていました。彼らはリビングルームの床にあるカゴの中で暮らしていました。女の子のグレイは、ほぼ毎日その隣に座り、前足でブリキのクマと遊んでいました。彼らは一緒にカチッと音を立てると、軽くて音楽的な音を出しました。

ハックとナバルは、テディベアの缶や玄関のドアを開けることができる魔法の郵便受けのカバーには興味がありませんでした。

時々彼女は家を出ました。愚かな少女は隣の家に行き、ガレージの屋根裏に登ってそこに一日かそれ以上滞在しました。なぜ？誰かわかったね？彼女は休憩時間に自分のスペースが欲しかったように感じました。彼女は壁の通気口を通して私に話しかけましたが、家に帰りたと思うまでは帰ろうとしませんでした。



引越しの日が近づくにつれ、私は新しい子猫のミステールのことをより頻繁に思い出しました。どうすれば彼女を見つけられるだろうかと考えました。

セントラルコーストの新しい家までは車でわずか7時間で、3人の子供を連れて旅行するのはそれほど難しいことではないと考えました。クリストファーはどんな車でもトラックでも運転でき、利用できる最大の商用移動バンをレンタルしていました。私たちは彼がキャリアにナバールを乗せられるように計画しました。ガール・グレイと末っ子のバグズをキャリアに乗せて車の前部座席に乗せるつもりでした。彼らはそれぞれ自分のお気に入りの毛布をキャリアに入れており、もう1枚はそれを覆うものといくつかのおやつを持っていて、私たちは彼らのために水を用意しました。携帯電話が登場する前の時代、私たちはトランシーバーで効率的に通信していました。彼は大きな仕事でそれらを使用しました。

"お元気ですか？"

「さて、また旅行中ですよ？」

クリストファーは、1年以上私たちの美しい新しい町で働き、通勤していましたが、家族がそこで彼と一緒に住むことになったことを喜んでいました。

最初の10〜20マイルはすべてうまくいきました。

「ネイビーはどうですか？」

「彼は眠ってしまったと思います。彼はキャリアバッグの中で丸くなっています。赤ちゃんたちの様子はどうですか？」

「グレイは元気です、窓から通りや木々が通り過ぎるのを眺めています。バグはちょっとある心配している。彼は少し話していて、時々キャリアのドアから足を伸ばしています。」

「やあ、坊ちゃん、大丈夫だよ。」私は彼の足をそっと撫でようと手を伸ばしました。「そう長くはかからず、新しい家に着くでしょう。」それはあなたにとってとても楽しいことでしょう。そこには新しい子猫の姉妹も加わる予定ですが、それについてはどう思いますか？」

私はグレイちゃんにお気に入りの柔らかい毛布をかけてあげると、兄と同じように眠りに落ちました。しかし、ハックルベリーは全く違いました。彼はさらに動揺しているようだった。

彼のキャリアが私に最も近かったので、彼が私に面するように向きを変えました。それは私にとって最善の決断ではなかったかもしれませんが、彼は、非常に快適なキャリアのドアを通して両足を伸ばそうとし始めました。

「彼の調子はどうですか？」クリストファーは、非常に大きくて重い移動バンの運転に集中していましたが、末っ子を手伝いたかったのです。ハックルベリーの声はますます大きくなり、彼の爪が私の二の腕に絡みつきました。

「彼はこの遠征の罰として私にハックルベリーのタトゥーを入れようとしているのだと思う。」

「彼があなたに届かないように、彼の犬小屋の向きを変えてもらえませんか？」

私たちは1時間ほど旅をしていましたが、バグズは落ち着きませんでした。

「立ち止まって彼に休憩を与えたほうがいいと思いますか？」

「はい、次の休憩所で車を止めましょう。窓を開けて、彼に静かな時間を与えてあげましょう。」

クリストファーは休憩所の人気のない端に駐車し、私は彼の隣に駐車しました。車が止まるとすぐにハックは元気になった。ナバルは抱っこ紐の中で快適で、グレイは抱っこ紐の中で丸くなっていました。

「私は彼らの食べ物と一緒にいくつかの物資を持ってきました。私は彼らの旅行カバンを調べ始めました。」「おい、ここにレスキューレメディがあるよ。これが役立つかどうか見てみましょう。」

バグたちはエビの缶詰キャットフードが大好きで、私たちが彼を冷やすのを手伝っているとは知りませんでした。彼は路上での食事を楽しみました。ガール・グレイにもバッチフラワーを加えずにいくつかあげました。ナヴァールは眠りたかった。

「もう一度試してみますか？」クリストファーはいつも着けている時計を確認した。

「時間はどうですか？」

"よかったです。"

ハックはまだ抱っこ紐の中にいた、私は彼が私の腕に届かないようにそれを移動させた、そして彼は落ち着いたようだった。

クリストファーは移動中のバンを始動させましたが、バグズは私の車の中でまだ静かでした。

「よし、もう一度やってみよう。」

車を始動させましたが、彼はまだ大丈夫でした。

出来た！私たちは二人ともまた道を転げ落ちていました、そして子供たちは元気でした。

私たちは日没直前に到着し、手伝ってくれる乗組員に挨拶しました。翌日荷降ろし。彼らは私たちが夜通しの装備を集めるのを手伝ってくれ、私たちはよく休んだ子猫を新しい家のリビングルームに運びました。それは私たちが来た場所よりも約3倍大きく、3つの壁にドアがありました。すべてのドアを開めることができ、子猫たちは前室で安全に過ごすことができましたので、これは非常に役に立ちました。

私たちは彼らに食べ物を与え、エアマットレスの隣に彼らのお気に入りのベッドを置きましたが、彼らはそれを望んだのです。新しい大きな部屋の隅々や窓をチェックしてください。しばらくすると、ナバルとバグズはリラックスして探索をやめたようですが、ガール・グレイは歩き続けました。彼女はロッジのような大きなレンガ造りの暖炉に特に興味を持ちました。私たちは到着したばかりだったので、ぽっかり開いた開口部を覆うスクリーンはありませんでした。私は彼女が荷物を整理している間、彼女があまりできるとは思わず、数分間他のことに集中しました。

突然、少女グレイが消えた！

「なんてことだ、彼女はどこへ行ったの？」

クリストファーはトラックを閉めて施錠してから戻ってきたところだった。

「グレイ嬢がいなくなりました。」

「しかし、すべてのドアは閉まっています。」クリストファーは辺りを見回して、彼女がどこにいるのかを把握しようとしました。「彼女はどこへ行ってしまったのでしょうか？」

「彼女は暖炉の前を行ったり来たりしていました。。」

私たちは二人ともかがんで、できる限り煙突を見上げました。何も無い！それから私は暗闇に手をかざすと、私たちが到達できないほどの高さの狭い棚を見つけました。
見る。

「ここに小さな棚があります。」

"他に何か？"

「彼女はここにいるよ。」

「彼女を降ろしてもらえますか？それを阻止する何かを見つけます。」

私は彼女に電話をかけ、おやつで賄賂を贈ろうとしましたが、彼女は私のところに来ようとはしませんでした。それで私は煙突のあの狭い出っ張りまで手を伸ばしました。すべてが粉状の黒いすすで覆われていました。最終的に彼女を捕まえたとき、彼女も私もすすが付いていました。

私はガール・グレイを煙突から無事に連れ出し、片付ける場所を探しに行きました。良い、電気は翌朝までつかない予定でしたし、私たちは暖かい気候に住んでいたのがかなり寒かったです。お湯も石鹸もありませんでした。

クリストファーも私も信じられないという気持ちで首を振っていました。

「ああ、親愛なる主よ、私はこんなことを計画したわけではありません。」

「腕にこれを着たら、ちょっとシンデレラみたいだね。」クリストファーは、暖炉への入り口を塞ぎながら言った。この頃には太陽が沈んでいきました。3匹の子猫は少なくとも私たちと同じ部屋にいて、私たちは子猫のためにもっとおやつを、私たちにもいくつかおやつを持ってエアマットレスに座りました。

翌朝目覚めると、そこには魅惑的な光景が広がっていました。

周りを見回すと、アンティークのリビングルームが明るく新しい光に照らされているのが見えました。二十時だった長さ6フィート、幅16フィート。天井までは高く、優雅なピッチがありました。これですべてが揃った

100年前に百年前の木材で建てられました。それはクリアンダーと呼ばれるもので、軽く白塗りされています。私たちは床に置かれたエアマットレスから2つの巨大な天窗を見上げました。どの壁にも、昔ながらの波状ガラスが付いた、昔ながらの広い窓がありました。私たちの庭は丘の下に傾斜しており、リビングルームは家の裏側にありました。親愛なる読者の皆さん、私がこのことについて言及する理由は、太陽が輝いていて、各窓や天窗に春の緑の葉で覆われた美しく古く優雅な樺の木の枝があったからです。私たちのリビングルームの高さのせいで、私たちは文字通り彼らの枝に囲まれていました。

「うわー！」

"右？"

"これは素晴らしいです！まるでスイス・ファミリー・ロビンソンのツリーハウスにいるような気分です。"

クリストファーと私は、生活のほぼすべてのこと、特に美学について意見が一致しました。そうするとき彼は私たちの新しい家を見つけたと思うと言っていたので、私は彼を信頼しています。彼は写真と地図を送ってくれたので、私はほとんど陶醉状態になりました。彼はその地域に家を建てていたため、私はこの小さな芸術的な町を訪れるのが大好きでした。私は新しい家を見るために旅行しましたが、それを通過したのは日没時だけでした。部屋は広く、私たちは二人とも家の場所とレイアウトが気に入りました。庭は柵で囲まれ、木がたくさんあること以外は見えませんでした。

この場所が私たちにとってどれほど魅力的な場所になるかはわかりませんでした。

子猫たちは私たちの新しい生活でゆっくりと新しい一日を過ごしましたが、女の子のグレイはまだ煙突に登ることができない方法はないかと考えていました。彼女はクリストファーが作った旅行カバンと引っ越しボックスの柵の前を行ったり来たりし、足を端の下に入れて、あたかも科学者になって問題を解明できるようにそれを眺めた。

「これは魔法が強いですね。気を付けたほうがいいです - 彼女は何かを察知するかもしれません外。"

クリストフはとうとうわが家よりも子猫のことをよく知っていました。彼には彼らと何らかのつながりがあり、それが私に興味をそそりました。彼らが考えていることを彼が私に話したとき、私はそれに魅了されました。



引っ越しスタッフが到着し、希望者全員にコーヒーが配られました。そのうち約12人はクリストファーの仕事に携わる若い男女だった。私たちは子猫をドアの閉まった部屋に保管していましたが、その日の終わりにはすべてが目的の部屋に安全に収まっていた。

あちこちに箱がありましたが、移動用のバンは空でした。電気がつき、お湯で洗うことができました。私たちはなんとかグレイ少女を家の中に留めて、ほぼ幸せに過ごしました。もうあの子が暖炉で逃げる必要はありません。

それは夏の始まりで、私たちの趣のある町での生活は、私たちが計画していたよりもさらに素晴らしかったです。私たちが去った町も小さくて美しい海岸沿いのコミュニティでしたが、私たちがそこにいた数年の間に変化していました。その町は都市に近く、近所の人たちは家にタグを付け始めていました。路上での暴動は根強く、新たな問題となっていた。これらは両方とも私に危険が迫っていることを示唆していました。

それとは対照的に、私たちの新しい町はとても魅力的でした。静かだった。車も少なく、空気がとてもきれいであることがすぐにわかりました。我が家には中庭風の大きなポーチがあり、ある晩クリストファーと私はそこにアンティークの木製ガーデンチェアを数脚置いてリラックスしていました。室内には家具もほぼ設置され、引っ越し作業もほぼ終了しました。数日間室内に閉じ込めた後、私たちの子猫たちは広い庭と新しい家で安全で幸せでした。太陽が沈み始めたばかりで、仕事の一日の終わりは穏やかでした。その静けさから歌声が聞こえたとき。それは明らかに人々のグループであり、笑い声と拍手が聞こえました。次に何を聞いたでしょうか？鐘が鳴っている！

"それは何ですか？"

私たちは近所を歩いていて、歴史ある屋外劇場の木彫りの看板を見ました。そのため、近くで夏のステージ公演があることはなんとなく知っていましたが、いつ始まるのか、どんな内容になるのかは全く分かりませんでした。

そのとき、子供たちのグループが「私は妖精を信じている！」と叫ぶのが聞こえました。

クリストファーは、私が大好きだった愛らしい笑い方で笑い始めました。「それが何かは知っています、ピーター・パンです。」そしてまた鐘が鳴り響きました。

彼は私にバースデーカードや甘いメモをくれたときにしたことがありました。彼は自分の署名をするだろう名前を付けて、ピーター・パンにちなんで「朝まで真っ直ぐ」と書き、無限大の記号の横の 8 を描きます。

「この場所には本当に魔法があるのよ。」

日が沈むにつれて、私たちは後に近所の劇場でピーター・パンの演劇作品であることを知りました。鐘はティンカーベルでした。それは私たちの家から約1ブロック半の森の中にありました。それは「フォレストシアター」として知られ、ミシシッピ川西側で最も古い野外劇場の1つでした。

新しい町に落ち着いてビジネスを確立するには、やるべきことがたくさんありました。私はほぼ毎日、もう一匹子猫を迎えたいと考え続けていましたが、飛び跳ねたり、走ったり、遊び心のある新しい家族の一員が将来の夢になりました。

新しい家を持つことは、つまり、1924年頃に建てられたものなので、実際には古いものでした。創造的なインスピレーションを加えることができました。そして、私たちのビジネスは住宅の建設と設計であったため、築約100年の家で仕事をするのがとても楽しくなりました。

私たちは庭に地元の石を使った新しい小道を建設し、自生の花を植えました。内部では木製の床を再仕上げし、新しく更新された照明を追加しました。クリストファーはケーブルにぶら下がっているハロゲン照明器具が大好きで、私も何らかの理由でケーブルが大好きだったので、私たちの新しい家は何世紀にもわたる古いものとハイテクな機能が混在したものになりました。当初の照明のほとんどは、昔ながらのプルチェーンで点灯する必要があり、街でその目的のためだけに吊り下げクリスタルの装飾を作る新しい友人に会いました。そのため、ほとんどすべての部屋にたくさんのクリスタルがあり、太陽の光を受けて壁にプリズムが飛び散りました。私たちは、どこかのエルフの国のために作られたような照明器具をポーチに置きました。私たちの新しい家は間違いなく魔法のような個性を帯びていました。

7か月後、冬の終わりが近づき、次の製品を購入することを考えたとき、心の中で子猫の声が大きくなりすぎたので、注意しなければなりませんでした。

私は避難所、SPCA、そして私たちの家を含む家の近くの獣医師に電話して検索を始めましたが、返事はいつも同じでした。家を探している子猫はいません。」この時点で、私はほぼ2か月間、失敗に終わった検索を続けていました。

「三振ですよ、クリストファー。私たちの子猫が見つかりません。彼女は私の心の中にいます、心の中に彼女を感じることをさえてできますが、彼女を見つけることができません。」

「そうなります、心配しないでください。」クリストファーは信頼できる生き方をしていました。彼は多くを語らずに宇宙の創造主に頼り、静かな信仰を持ち続けました。

「彼女はいつも私の頭の中にあります。」

「彼女は彼女ですか？」彼の目は踊っていた。

"多分。そのように思えます。見てみましょう。いつか彼女を見つけられたら！"

「あなたは彼女を見つけるでしょう。彼女はあなたに電話をかけてきました。」

その夕方早く、私はそれほど遠くない小さな市場のことを考えていました。"おい、スペンサーズ・ステーションナリーの近くにあったペットフード店を覚えていますか?"

「はい。」

「彼らにはコミュニティ掲示板があり、近所のあらゆる種類の投稿が載っているかもしれません。。」

「朝から行きませんか？」

「もう行ってもいいですか？」

私は彼ほど自分の立ち回り方を知りませんでした。クリストファーは毎日新しい人に会い、ビジネスに取り組んでいました。しかし、私はその店を見たことがあり、今ではそれが私の頭の中にはっきりと残っています。

他の生後8週間の子猫2匹と一緒にポスターに載っている彼女の写真を見た瞬間、それがミステールだと分かりました。どうやって？わからない。

「あれは彼女だ！嬉しいというより嬉しかったです。「家に帰って電話しましょう。」

当時はまだ携帯電話がなかった時代ですが、家まで車ですぐの距離でした。

「こんにちは、ポスターに描かれている赤ちゃんのことで電話しています。まだ持っていますか？

「こんにちは、はい。」彼女はいくつかの質問をし始めました。「今猫を飼っていますか？」犬はいますか？
これまでに子猫を育てたことがありますか？何人お探しますか？」猫の家族、庭、獣医師についての質問です。

「あなたの獣医のことは知っています」と彼女は付け加えた。「私は彼とはショッピングセンターの反対側で働いています。
彼は良い獣医です。」

彼女は私の答えに同意したに違いありません。「明日会ってみませんか？」私はスティービー、夫はブライアントです。持続する。。。」一瞬の沈黙があった。「午後2時頃に家に来てもらえますか？」

私はスピーカーフォンでの会話を聞いていたクリストファーを見た。彼はうなずきました
はい。

YES、YES、YESって叫びたかったんだ！「そうだね、2人ならいいよ」と私は言った。
「私たちはクリストファーとアンバーです。」

「二人ともここにいるよ、また明日ね。」

その夜、私はナバール、ガール・グレイ、ハックルベリーを集めました。

「どうだろう、ベイビー？明日、あなたのお父さんと私は新しい赤ちゃんに会う予定です。彼女
あなたの新しい妹になるかもしれません！それは刺激的ですか？」

少女グレイは、まるで何かを計算しているかのように私たちを黙って見つめ、私の手に頭をこすりつけました。彼女は私の言っていることがわかっているのだろうかと思った。ハックは立ち去り、ナバールはクリストファーと私の両方を見つめ、大きな緑色の目で見つめました。

「彼は知っていると思いますか？」

クリストファーとナヴァールはそんな芽生えだった。「彼は何かを知っています。」

"私は待てない。"私は少女グレイを撫でて、愛していると伝えました。「ああ、リラックスしなければならない」
だから寝られるよ。」

翌日の午後、スティービーが玄関に出ました。「こんにちは！ブライアントはこの辺のどこかにいるよ。
さあ、入ってください、皆さんはどうですか？」

"私はとても興奮しています。"

ブライアントが私たちに加わり、すぐに二人とも気に入りました。彼らが猫を数匹飼っているのを見ました。リビングルームでくつろいでいましたが、赤ちゃんの姿は見えませんでした。

「あれはベネロベとオータム、隠れている黒いのはジャスミンです。他に2匹いますが、庭に出ています。子猫の物語を読みましたか？」

「生後1日からスティービーが手で育てたんです」とブライアントさんは言う。
誇り。「彼女は彼らを一緒に仕事に連れて行きました。彼女は24時間体制で彼らに餌を与え、彼らを守りました。。。
彼女は、彼らが生まれたときからまだ目を閉じている間も、彼らをきれいにし、暖かく保ちました。」

「本当に、それは印象的です。あなたはとても若い子猫を飼った経験があるはずです。私は自分自身の新生児との経験を思い出しました。
「それは簡単なことではありません。」

「私たちが最も重傷を負った動物は、子犬や子猫です」とスティービーは続けた。「この3匹はバレンタインデーに生まれ、ビニール袋に押し込まれてゴミ箱に捨てられているのが発見されました。」

"何？あなたが書いたことを読みましたが、あなたがそれを言うとても悪く聞こえます。"

「私は、長い一日の終わりに、まだ活動している最後のボランティアでした。そのとき、動物が
管制官はラベンダーの犬小屋と、生まれたばかりの子猫たちを救ってほしいという緊急の要請を持って急いで駆けつけた。彼女によると、ある衛生作業員はその声を聞いて動揺し、一日中ゴロゴロしながら過ごしていたという。その夜、彼らを家に連れて帰りました。」

「彼らは1日経ったのですか？彼らの子猫のお母さんについて何か知っていますか？彼女が何を感じたか私には想像できません。それは大型の商業用ゴミ箱の一つでしたか？」

「はい。」

「どうやって彼はそれを聞いたのですか？あのトラックはすごい騒音を立てるんだよ。」

クリストファーは私の肩に手を置きました。「彼は違う耳で聞いていました。」

「私は彼らのママについて何も知りませんでした。本当にかわいいです。彼らに会いたいですか？」

"はい。"

「彼らは子猫の部屋にいます。二人とも入って一緒に座っていいよ。」スティービーが私たちを廊下に通ってくれました。ドアを開けると、3人の小さな毛むくじゃらの顔が私たちを見ているのが見えました。彼らはカラフルな子猫のおもちゃで遊んでいて、立ち止まって私たちを見していました。

私たちがソファに座っていると、彼らはそれぞれよじ登って私たちの上に座りました。

「かわいくないですか？」

「とても小さいですね。私はそのうちの1つを手にくいました。

「好きなだけ滞在してください。」スティービーは微笑んだ。「欲しいって言ったよね？」

クリストファーと私は顔を見合わせた。「3匹の猫と一緒に。」 °。一つは素晴らしいものになるだろう。」

"どうやって知るの？"

「どれが自分のものか分かるでしょう。」スティービーは再び微笑んでドアを閉めた。

小さな猿たちが私たちの上に登ってきました。クリストファーは紐のおもちゃを一つ手に取り、3匹の子猫は皆、端でネズミを捕まえたかったです。彼らはお互いを追いかけてトンネルに入り、飛び跳ねたり隠れたりしてお互いを怖がらせました。かわいかったです。

私は3匹の小さくて好奇心旺盛な子猫たちと一緒に座りながら、彼らの母親猫が安らかに過ごせるようにと静かに祈りました。彼女の赤ちゃんたちは無事だったので、私は彼女の幸せと安全を祈りました。

約20分後、他の2匹の子猫は急いで立ち去り、一緒に探検に出かけましたが、写真で私が認識した小さな女の子は私たちによじ登り続けました。彼女は私のセーターを這い上がって私の肩に乗ってきました。それから彼女はクリストファーの肩にまたがった。彼女は私たちから離れたくないと言うかのように、行ったり来たりしました。他の2匹はまだ遊んで追いかけておこなっていました。彼女が私のものであることはわかっていました。

クリストファーと私はそれについて話す必要はありませんでした。私はすぐに彼女を愛し、彼もそうしていることがわかりました。

スティービーが戻ってきたとき、私はクリストファーの肩に乗っていた小さな毛玉を拾いました。「この人は女の子ですか？」

「はい、写真の彼女は『トレス』です。」

「あなたの写真を見たときに彼女だと分かりました。。他の二人は似ていますが、彼女は似ています。彼女の新しい彼らとは違う。彼女のことがずっと気になっていたんです。長年、私はすでに彼女に名前さえ付けました。名前はミステールです」 °。

「面白い名前ですね。神秘的に聞こえますね。」

「他の子猫たちはどうだと思いますか？」

「あなたはネイヴィーを知っていますね」クリストファーは微笑んだ。「彼は彼女の世話をするつもりです。」

まさにナバルがそうするだろうと私は知っていた。

「ハックルベリーは彼女と一緒にプレーしたいと思うだろう。そしてガール・グレイは？様子を見る必要があります。彼女はただ安全な場所から彼女を観察したいだけかもしれません。」

私たちはこの小さな綿毛をリビングルームに運び、二人に話しかけました。「この赤ちゃんたちを救ってくれて本当にありがとう。」

「彼女がいなくなると寂しくなるよ。彼女が良い家に行くことは分かっていますが、私は今夜も彼女のことを考えるつもりです。」

ブライアントはスティービーの手の上に手を置いた。「彼女は保護された赤ちゃん全員を愛しています。」

「電話して彼女の様子を知らせます」と私は約束しました。

「はあ！今夜彼女はたくさん抱かれ、キスされることになるだろう」とクリストファーは語った。「とても嬉しいです、私たちは皆さんと出会って、彼女を愛してくれて本当にありがとう。」

中に柔らかい毛布が入った抱っこ紐を持っていましたが、そこには入れませんでした。彼女は私の腕の中で新しい毛布の中で丸まって喜んでいました。クリストファーが車を始動させたときでさえ、彼女は喉を鳴らして柔らかさの中に隠れただけでした。

約束通り、少し遅れてスティービーに電話しました。「彼女はとてもかわいい。°。そして我が家の猫たちはただくつろいでいます。彼らは自分たちのことをして、彼女を遊ばせているのです。」

「彼女は幸せな人生を送るだろう、私にはわかります。ああ…素敵な人がウノとドスのことで連絡くれたので、一緒に住むことになりそうです。お電話ありがとう。」

「彼らがとても小さかったとき、彼らを愛し、見守ってくれてありがとう。」





2.これはもしかしたら本当なのでしょうか？

最初の数週間、ナバルは常に彼女の近くにいることを確認しました。

彼は彼女に触れることも、一緒に寝ることも、一緒に遊ぶことさえしませんでした。彼はただ彼女が何をしているのか見える場所に留まっていた。彼女は遠くまで歩き回らないので、時々ソファの背もたれに飛び乗って、リビングルームやサンルームで彼女を見守ることができました。彼女が庭の虫を追いかけている間、彼は快適な玄関ポーチのベンチに座っていました。彼女が庭に出ていると、彼は彼女の後を追って、すぐ近くで横になりました。昼寝をしているように見えたが、そうではありませんでした。彼は彼女がどこにいるのかを常に見守っていました。

新しい家に来て最初の数日間、ハックルベリーさんは子猫をたくさん見守っていました。彼女がそこにいることを気にしていないようだった、彼はただ彼女に近づきたくなかっただけだ

少女グレイは彼女を愛していました。最初、彼女は新しく来た小さな猫について勉強しました。彼女は安全な距離から彼女を観察し、数日後、彼らは家の中を追いかけ合った。時々、ブルブルベリー・ローズが女の子のグレイを追いかけて、それから振り向いたとき、ブルブルベリーは年上の銀灰色の妹から逃げるために全速力で走っていました。

私は彼女の赤ちゃんの写真をたくさん集めたいと思い、アルバム用にできるだけ多く撮りました。彼女はとても愛らしかったです。彼女の良い写真を撮るのは簡単でした。

夜、彼女は私の枕の上に登って、小さな顔を私のすぐ隣に置いて寝ました。とても感動的で優しかったです。彼女のひげが私の鼻をくすぐり、時々目が覚めることもありました。時々、彼女は私の頭の上で寝ていたため、私は彼女の安全性を何度も疑問に思いました。

「彼女がこんなことをし続けるなんて信じられますか？」数日後、私はクリストファーに尋ねました。

「まあ、あなたはまだ彼女を潰していないよ。」

ブルブルベリーを飼う前は、ネイヴィーはほとんど毎晩私たちの夜のお供でしたが、彼女が到着してからは毎晩そこにいました。夜中でも妹を見守りたいようだった。

「私たちの赤ちゃんを見守ってくれてありがとう、お偉いさん。」

ナヴァールは大きな緑色の目を閉じ、頭を後ろに傾けた。彼は雄大に見えました。

ある夜、クリストファーがオフィスで働いている間、彼女はベッドの上でふわふわのベルボールで遊びました。暗くなったテレビ画面の中で、私に見えたのは彼女のシルエットだけでした。びっくりしました

なぜなら、影の中の彼女は、以前飼っていた猫の一匹、つまり私がクリストファーに出会う何年も前から一緒に暮らしていた最初の子猫アースに似ていたからです。

地球は並外れた美しさと最高の知性を持っていました。彼女は純血種のアビシニアンであったにもかかわらず、その世界では必要とされませんでした。彼女はブリーダーによって望ましくないと考えられた外見をしていて、それが彼女が私の子猫になったきっかけです。赤、あるいは血色の良い色をしたアースは、透き通るような緑色の目をしており、顔は三角形ではなく丸かった。一部のブリーダーは、アビシニアンに猫の頭の側面にある大きくて尖った耳を持たせたいと考えていると聞きました。彼女の耳は尖っているというよりも典型的で、ほとんどの猫と同じように頭の上についています。しかし、アースの耳の一番の部分は、先端にある黒い房で、それが彼女に少しワイルドな外観を与えており、私は彼女のとても大好きな部分でした。時々私は、その野生の毛皮のせいで彼女がオオヤマネコの赤ちゃんのように見えるのではないかと思った。

彼女が成長するにつれて、私が床の上で転がした緑のブドウを地球が追いかけることを知りました。ブドウの緑色は彼女の目の緑色と一致し、口に含むと偶然のアートワークのように見えてとてもきれいでした。彼女はブドウをそっと歯の間に挟んで私のところへ運んでくれました。彼女は再ロールのためにこれを何度か繰り返し、ついにはそれを食べました。当時、一体何匹の猫がそんなことをしたのだらうかと思いました。

アースは私の親友であり指導者でした。私はその猫を心から愛していました、そして彼女は素晴らしい長年私と一緒にいました。動物の友達とのことはいつもすぐに終わってしまいます。彼女が天使たちと一緒に住むために渡ったとき、アースはかごいっぱい貴重な人生と愛の教訓を私に残してくれました。地球が私に与えてくれた最も重要な贈り物は、動物への愛に心を開くことがどれほどやりがいのあるものかということでした。私は彼女から、動物が私たちの本当の友達になり得ること、そして動物を大切に、いつも優しくすることがいかに簡単かを学びました。

さて、ブランブルベリーローズの影の画像に地球の似顔絵があり、それが起こりました。また数週間後、私が見ていたものと、初めてブランブルベリーローズを手にしたときに感じたことの間につながりがあったのでしょうか。「もしかしてこれは本当なのか？」と思いました。

2度目にそれが起こったとき、クリストファーは再びオフィスで働いていました。

「ブランブルベリーローズの影の中に地球の顔が見えたという話をしたのを覚えていますか？」

「こんにちは、愛さん。」彼は家の設計図を描いていて、深く考え込んでいるのがわかったので、私は彼にキスをしました。「もう一度聞いてください。」

「はは、ごめんなさい。ある夜、私がベッドの上でアースとブランブルベリーを見た時のことを覚えていますか？」

"そうそう。"

「それはまた起こりました。私たちは遊んでいたのですが、突然ブランブルベリーではなく地球を見ているようでした。」

クリストファーは何も言わなかった。彼は難解な学問についてもっと知っていて、私はこう思っておそらく彼はこのようなことについて聞いたことがあるでしょう。



3. お願いします、いいえ！

クリストファーは私たちの優雅なフロントポーチを更新したいと考えていたので、私たちの友人を手配してくれました。木や石を扱うのが得意なローレンが来て手伝ってくれました。

朝遅く、暖かかったので、彼女と私は、玄関に続くウッドデッキの上に、再生されたアンティークの赤レンガを敷いていました。ローレンと私は、広い木の板でレンガの模様を回転させることに集中していました。私たちより前にその家に住んでいた人たちは、玄関ドアの横の木の表面に直径約7インチの丸い穴を開けていました。その暗闇を覗いても、私たち二人とも何も見えませんでした。測ってみると、レンガが完全に覆えることが分かりました。彼女の新しいニックネームの1つであるブランブルベリー、またはベイビー ブランブルズは、生後数か月でとても貴重なものでした。私たちが太陽の光の下で働いている間、彼女は私たちを楽しませてくれました。

彼女は太った小さなお腹、長くなり始めた足、そして赤ちゃんの毛皮のコート全体に不一致の縞模様を持っていました。彼女はあらゆることを探検しました。家具に登ったり、鉢植えの花の葉の後ろに隠れたり、庭の虫を見つけたらみんなで遊んだりしました。

まったく突然、何の前触れもなく、私は子猫が中にいるような感覚に襲われました。危険。周りを見回しても、彼女がどこにも遊んでいる様子はありませんでした。

「ここ数分でブランブルベリーを見ましたか？」

「彼女はちょうどここにいたのですが、違います。 。彼女はどこへ行ったの？」

「彼女が去っていくのを見ましたか？他の猫は現れましたか？」

玄関のドアが開いたままになっていたため、彼女は家に入ることができたかもしれません。ナバールは入り口の敷物の上で丸くなっていた。「ブランブルズがどこにあるか知っていますか。彼女は中に入ったのか？」

ナバールは気にしていないようだった。

「ブランブルズの赤ちゃん？ブランブルベリーローズ？」

何もない、音もない。

私が家の中を歩いていると、ローレンが外のポーチにいて、私たちは二人で彼女の名前を呼びました。

「ねえ、ブランブルベリー、もう帰って来ませんか？」

私はちょっと笑ってしまいましたが、お腹は凹み始めていました。私は玄関に戻り、あらゆる家具や土鍋の裏側を観察しました。私は家の角を回って歩きました。「ブランブルズの赤ちゃん？ブランブルベリーローズ？」

私は午前中ほとんど静かだった通りに目を向け、「お願い、やめて！」と静かに言いました。しかし、門を通過して通りの両側を探しても何も見つかりませんでした。

私は甲板の切り欠きの下の暗闇のことを思い出し、彼女がそうなのかを知りたくなりました。家の下にありました。

その気持ちは何ですか？心が支配し、足を導いて歩き出す時は？

「家の下を調べるので、見かけたら連絡してください。」

家の中の土間と空洞のような空間につながる高さ3フィートのドアを開けると、小さなブランブルベリーローズが走ってきました。私が彼女に会えたのと同じように、彼女も私に会えて嬉しかったです。彼女の小さなほこりまみれの顔に、許される限りキスをした後（およそ3回）、私は彼女をポーチに連れて帰りました。

「私には彼女がいるよ！」

ローレンは深呼吸をして安心した表情をした。「彼女は一体どこにいたの？」

「家の下で。そこはかなり暗いです。彼女がどうやってそこにたどり着いたのか分かりません！」

ローレンと私は甲板の丸い開口部を眺めました。

「彼女はそこに飛び降りたと思いますか？」

「はあ。ああ、なんてこった。もしそうなら、彼女は猿の一部です。」ローレンは言いました。

「念のためにそれを隠蔽しましょう。。」

「もういたずらはやめてください、お嬢ちゃん。」ローレンは、ほこりっぽい小さな赤ちゃんのてっぺんを撫でようと手を伸ばしながら言いました
頭。

私たちは彼女の避難用ハッチをレンガで覆い、彼女を私たちの近くに留めておきました。

ナヴァールは目を覚まし、「君たちは大丈夫？」と尋ねるかのように私たちを見ながら一緒に来ました。

私たちは思わず笑ってしまいました。



数日後、ローレンは、私とブランブルズとの関係に似たようなことを母親と子供の間で見たが、生後3か月の子猫の場合はそうではなかったと私に語った。私がブランブルズを愛したと言うのは完全に不十分であるように思えます。私たちの間には、これまで知らなかった絆があることが明らかになってきました。愛もその一部でしたが、他にも強力で神秘的なつながりがありました。

地元の動物園が私たちの庭に住んでいました。優美なカリフォルニアオークの木に巣を作った赤リスや灰色リスがたくさんいましたし、大群でやって来てあらゆる騒ぎを起こしているカラスも、高さ100フィートの松の木にたむろしていたアライグマも数匹いました。子猫たちと私たちを歌って楽しませてくれる小鳥たち。

木そのものも美しいものでした。庭には樹齢100年以上の堂々とした榎の木が20本以上ありました。日中は日差しを遮る傘の役割をしてくれますが、夜はまだらな月明かりの中で、賢く神秘的な存在のように見えます。彼らはおそらく歩哨だったのだろう。

裏庭に生えていた1本の榎の木が6本の木に枝分かれし、キッチンの下から伸びていました。家は木の真上に建っていましたが、木は気にしていないようでした。

これらの木は私たちの家のすぐ近くにあり、子猫やリスに道路網を与えてくれました。私たちの庭の向こう側。彼らは地面に触れることなく、木から木へ走ったり、屋根に飛び乗ったりすることができました。数匹のリスや子猫が屋根の上を走ったとき、家の中で聞こえたのはなんと素晴らしい音だったでしょう。それはまるで友好的な生き物たちの一団のように聞こえた。ほとんどの部屋に大きくて透明な天窓があったのですが、朝によっては、小柄でリスのような人が天窓の上で滑りながら遊んでいるように見えました。天窓の斜面には足跡と長い滑り跡があった。

樹齢100年の松の木が少なくとも12本ありました。1902年に私たちの市が設立された頃に植えられたものだったため、それらは寿命の終わりに近づいていました。それらの背の高い松の1つはドングリの保管庫でした。樹皮には上から下まで四方八方に数百、おそらく数千の穴が開けられ、そこにはドングリが詰められていた。幹にはドングリキツツキが巣を作っていたもっと大きな穴もあった。

それは何の変哲もない静かな日曜日のことだった——鳥のさえずりやリスの餌やりといったいつものサーカスが終わった後——ちょうど午後が始まったとき、突然、ブランブルベリーを見ながら何時間も経っていることに気づいた。

彼女は他の子供たちと外で遊んでいたが、朝遅くに家に戻っていました、そして私は彼女が再び出かけるのを見たことを覚えていませんでした。

クリストファーのオフィスに歩きながら、私は各部屋をちらっと見ました。

「ブランブルズを見たことがありますか？」

「ああ。。。いや、今朝からではない。ナバルはいますか？」

大きな黒人の男の子がサンルームの太陽の水たまりで昼寝しているを見つけました。

「ネイビー、ブランブルズがどこにあるか知っていますか？」

彼は緑の目を開けて私を見つめました、答えませんでした。

私は各部屋をさらに注意深く観察しました。私は家中、ベッドの下、クローゼットの中、棚の上、ドアの後ろ、彼女がいそうな場所ならどこでも探しました。

「ブランブルズ！」

「ブランブルベリーローズ」。

「Bさん」

「ベイビーB」

私は彼女のほぼ全員の名前を呼び、おやつが入ったシワシワの袋をカタカタ鳴らして隠れているところから彼女を誘い出そうとしましたが、見つけることができませんでした。

庭へのドアは開いていなかったし、クリストファーは午前中はほとんどオフィスで本を読んでいたため、彼女もドアから出ていないのだと思いました。

ハックルベリーは庭を眺めながら高い窓の一つでくつろぎ、少女のグレイはトンネルで昼寝をしていましたが、ブランブルズはまだ外出していました。

私はおやつ袋を手に、再び部屋ごとの搜索を始めました。ベッドの下、クローゼットの中、棚にある、ふわふわしたスリッパブーツの中も覗いてみました。。。でもベイビーBはいない。

私は外に出ることにし、玄関のドアが後ろで閉まっていることを確認しました。

「ブランブルズ！」

「ベイビー・ブランブルズ。ベイビーB。」私はおやつ袋を振りながら、そっと彼女に呼びかけました。どこでも彼女。。。でも私はしませんでしたに会える。

彼女は玄関先にもいないし、バードバスにもいないし、パークチップの中で眠っているわけでもない。彼女は屋上にいなかったし、私はお腹が痛くなりそうになった。呼吸することを自分に思い出さなければなりませんでした。

長い間私たちの敷地内を歩き回ったが何の成果も得られなかった後、私はクリストファーが私のために作ってくれたハートの切り抜きのある手作りの木製の正門を通して、家の前の閑静な通りに出ました。近所のカップルが早朝の散歩を楽しんでいた。

「小さくて愛らしい、灰色と金色の縞模様と斑点のある子猫を見たことがありますか？」

「いいえ、子猫がいなくなったんですか？」

「ああ、彼女が見つからない。」

"彼女は何歳ですか？"

"数ヶ月。"

「ああ、まだ小さいですね。彼女は家を出たのか？」

"私はそうは思わない。"私が心配しているのは明らかだったはずですよ。

「彼女がいなくとも思われる場所を探してください。そんなときは靴下の中に隠れることができる
少し。"彼女はまるで私がいた場所にいたかのように、知ったかぶりで微笑んだ。「あなたは彼女を見つけるでしょう。」

私は素敵な新しい隣人が本当に好きでした。

私は中に戻りました。「彼女を見たことがありますか？」

「いいえ、ランドリールームとデスク周りをすべて調べました。」クリストファーは心配していましたが、動揺していませんでした。

私は動揺に近づきました。

私はクローゼットから部屋ごとに物を取り出し始めました。靴は見えるから楽だった
しかし、スーツケース、毛布、その他すべてが出てきました。

1時間ほどの調査の後、私はクリストファーのオフィスのクローゼットにある折りたたまれた毛布の山の上部を拾い上げました。

層の間で、しっぽも前足も見せず、音もなく、暖かいボールの中で丸まってぐっすり眠っているブランブルズを見つけました。彼女は暖かい柔らかさの中に閉じ込められ、完全に崩壊しました。私が彼女の名前を呼んだり、魅惑的なおやつをカチャカチャ鳴らしているのを彼女が聞いたとは思えません。

「彼女を捕まえたよ！」

私は彼女を抱き上げてキスしましたが、彼女はそれを好きではありませんでした。おそらく彼女は、私の顔に小さな足を上げたら、私がやめるだろうと思ったのでしょう。

クリストファーも加わって、彼女を挟んで子猫のサンドイッチを作りました。彼女は大騒ぎした
と少し抗議したが、彼は彼女の小さな顔にキスをし、少し笑いながら優しく叱った。

「残念だ、お嬢さん。もう隠れるなよ。」彼は彼女の頭の上の毛皮を手でふわふわとさせた。

「お母さんはあなたのことをとても心配していました。」

彼はもう一度彼女にキスをし、指で彼女の顎の下を撫で、私は彼女を床に寝かせました。
私たちは彼女が廊下を逃げていくのを見ました。

「はあ！彼女はなんて賢い悪党なんだろう。」私は言いました。

「彼女がいかにもうまく隠れていたかは驚くべきことだ。」

少女のグレイ、ハックルベリー、ナパールはその光景を見てまだ起きていなかった。





4. さて。 。 。犬を連れてくる人もいますよね？

ブランブルベリーは、カリフォルニアの中心部にある、板と当て木でできた乱雑な家での生活を愛していました。海岸。部屋の間や外に通じるドアがたくさんあり、大きな窓もたくさんあります。

家は3つの敷地に分かれており、ほとんどが地元独特の柵で囲まれていたため、猫は犬から守られていました。しかし、アライグマやドングリキツツキと戦わなければなりません。サウスランド地方の私たちの近所では、猫がアライグマとおもちゃを共有していました。彼らは玄関先に座ってアライグマが遊ぶのを眺めていましたが、ここセントラルコーストでは、奇妙な、未知の理由で、野生の生き物が一種の狂気を帯びており、猫を殺す可能性があります。そのため、猫たちは日中は外に出ることができませんでしたが、夕方が近づくとすべて屋内に戻されました。

ナバル・スターは、自分の縄張りに侵入しようとする猫に対してマインドコントロールを行ったが、私たちの新しい家は、家がはるかに離れて建てられ、ヤシの木の代わりにカリフォルニアオークの木の天蓋があったため、彼には通りも見えませんでした。素朴な木製のフェンスと門も、他のほとんどの猫の侵入を防ぎました。

ハックルベリーさんは、隣に子猫の友人アンナを訪ねていないとき、ブランブルベリーがおもちゃで遊んだり、家の中を走り回ったりするのを見るのが好きでした。少女グレイは彼女を監視するために多くの静かな時間を過ごしましたが、彼女を追いかけたり、かくれんぼをしたりもしました。

それは私たちの穏やかな数ヶ月でした。幸せで何も問題がない。

ブランブルズはまた新しいニックネームを獲得した。Miss B — それはクリストファーでした。一番愛されてた。彼女は家のほぼすべての部屋に、とてもたくさんのカラフルな子猫のおもちゃを持っていました。クリストファーと私は足を引かずして歩くことを学びました。そうせずに普通に歩いていたら、誤って彼女のおもちゃを押しつぶしてしまう可能性があります。

私のオフィスには、猫たちが楽しむためのタワーが1つありました。高さは約5フィートあり、昼寝用のコンドミニウム、爪とぎ用の支柱、スパイ用の止まり木、そして登山用のスロープ。私たちのリビングルームにある小さな木のものには、緑色のカーペット敷きの4つのレベルと、縞模様の揺れるベルボールが付いた6つの柔軟なジュート麻ひもで覆われたアームがあり、ノックすることができました。ちょっとタコに似ていました。ブランブルズとグレイはそれに登って、ベルボールでテザーボールをすることができました。

緑色のタコはベイビーBのお気に入りでした。クリストファーはある晩、彼女の芝居を見て微笑んだ。「それは彼女のキティUです。彼女は本当に気に入っています。」

あらゆる種類の吊り下げおもちゃ、庭で取れた羽根、カラフルなリボンを編み込んで作りました。子猫用の長いベビーサークルトンネルのネットを作り、その一部をしわくしゃの白いティッシュペーパーの山で満たしました。ブランブルベリーとガール・グレイはお互いを追いかけてトンネルに入りました。彼らは

ブランブルベリーは時々、紙の山の下に隠れることもあった。彼女は待つ、待つ、それからガール・グレイやハックにできるだけ近づき、子猫のように彼らを脅かしました。彼女はとても小さかったので、しわくちゃの茶色の紙袋の中に隠れ、彼らが通り過ぎると、音も立てずに前足を伸ばして驚かせていました。彼女がナヴァールにそんなことをすると、彼は振り返って、まるでこう言うかのように大きな緑色の目で彼女を見つめた。あなたは私を騙しませんでした。」

ブランブルベリーの毛皮の明るい部分はバスケット色で、パロミノ馬の毛並みや、動物の私の好きな色によく似ていました。うちの庭にはコンクリートがなかったので、パークチップの上に彼女が横たわっているとき、彼女の色は溶け込んでいました。彼女が引越すまで、彼女を見つけるのは必ずしも簡単ではありませんでした。

「彼女が生まれる前に、子猫天国で彼女を愛した誰かが、彼女が服を着るのを手伝ってくれました。彼女の地球の服です。」クリストファーは目を輝かせながら「彼らは彼女に特注の迷彩柄のジャミーを贈ったと思う」と語った。

「あなたの言うことが正しいと思います！きっとダイアナさんだったんだろう——彼女は子猫が大好きだったんだ。」

ダイアナは長い間私たちの友人でした。ある晩、南国で夕食を食べに出かけたとき、私たちは彼女とギリシャ人の夫に会いました。そして、彼らが私たちの通りの下に住んでいることがわかりました。彼女はクリストファーを愛し、かなり長い間彼のビジネスを手伝っていました。彼女はいつも一匹か二匹の可愛い猫を飼っていました。私たちがセントラルコーストに引っ越して間もなく、彼女は天国へ旅立ちました。



私は手作りの柔らかい革のバックパックを持っていたので、ブランブルベリー ローズは私と一緒に旅行したいと思うかもしれないと思いました。私は彼女をその中に入れて、自然食品店に連れて行きました。彼女はあまり気にしませんでした。小石の入り口で食品品のカートがぶつかるぶつかる音は好きではなかったと思います。それで私は彼女を市議会の会合に連れて行こうと考えました。市庁舎は1913年に建てられ、歴史的建造物に登録されています。私たちの小さな町にあるオール セインツ聖公会教会として始まり、集会を開くのにとっても快適な建物でした。その建物には木の形をした手作りの鉄細工の手すりがあり、入り口の階段には広くて居心地の良い玄関があり、古い壁が付いていました。-木製のインテリアと高い傾斜天井。市議会が重要な市民問題を議論している間、私はバックパックを前に抱え、ブランブルズに周囲を見回させました。

「リュックの中には何が入っているの？」

「何じゃなくて、誰？彼女の名前はブランブルベリー・ローズです。」

「ああ、なんてことだ、彼女はかわいいよ。」

他の誰かが何が起きているのを見に歩いてきました。

「会議に子猫を連れてきましたか？」

"良い。 。犬を連れてくる人もいますよね？」

ブランブルズはあまり撫でられることを好まなかったため、人々は彼女に触れたがりでしたが、彼らは敬意を持っていました。彼女は魅力的でした。

私たちの市長は女性で、集會に犬と一緒に来ていました。

ブランブルズはいたずらっぽい笑みを浮かべた。「バックパックに猫を入れて連れて行ったんですか？」

私は微笑んだ。

「もちろん、そうしましたね。」そして彼女は、白くてふわふわした小さな犬に話しかけながら、笑いながら立ち去った。「さあ、ミスター・クラウド」

彼女がまだ小さかったので、私たちはさらにいくつかの集會に彼女を連れて行きました。彼女はそれが気に入らなかったようですが、気にしていないようでもありました。内側の柔らかいスエードレザーの上におやつをいくつか落とすと、彼女がとても喜ぶことがすぐにわかりました。

私たちの獣医師は穏やかな口調で知識豊富な男性で、私たちの赤ちゃんをとても愛していました。彼は彼らの世話をする方法について、信頼できるさまざまな知識を持っているようでした。彼は、あまり知られていない、私の小さな子供たちを治療するための非医学的な方法について教えてくれました。診察の予約の際、私はトーマス医師にどのようにして獣医師になったのか尋ねました。

「私はオランダで育ち、祖父は獣医で、犬や猫などの家畜の世話をしていました。彼は大きな温室を持っていて、あらゆる種類のハーブ、植物、花を育てていました。彼は動物たちのために治療薬を作りました。私は彼から学びました。」

"うわあ。それは古い世界の知識の基盤です。そして失われた芸術。彼には種類があつたに違いない魂。"

「彼は町で高く評価されていました。」

「彼がいなくて寂しいでしょうね。すべての医者が治療者ではないと言われてきましたが、当時の私はそうではありませんでした。それが何を意味するか知ってください。あなたの祖父は素晴らしい治療家だったようですね。」

彼は、ブランブルベリーの体が大きくなるにつれて、彼女の尻尾が成長し続けていることに気づきました。成長しています。 。 。そして成長しています。

「ブランブルズの尾にはいくつかの余分な椎骨があります。それは彼女にその長い尻尾を与えます。それはまた、彼女に並外れたバランス感覚を与えます。「彼女はとてもかわいいです」と彼は目を輝かせながら付け加えた、「そして飼育猫史上最も長い尾の一つを持っています。」

「ブランブルベリー ローズが部屋に入ってくると、5分後に尻尾が到着します。」
クリストファーは優しい笑顔で宣言した。

彼女はキティ大学を卒業して、庭の木々に移りました。最初は、彼女はただ駆け寄って、レスリングするかのようにそれらをつかみましたが、すぐに横に伸びた大きくて曲がりくねった枝を移動することを学びました。我が家の庭は樹齢100年のカリフォルニアオークで覆われていたため、子猫が走り回るのに最適な、地面に近い曲がりくねった横向きの枝がたくさんありました。

我が家の猫たちは皆木に登りましたが、ブルブルベリーはまだ小さかった頃、新しいことが起こり始めました。彼女は飛び跳ね始めました。彼女は、庭に住んでいた在来種のハイロリスや輸入された赤リスと同じように、枝から枝へと飛び移ることができました。彼女の兄弟や姉妹にはそれができませんでした。彼らは地面に座って彼女を見つめました。

彼女が少し大きくなるにつれて、彼女はより高いところに登って、小さな枝から家の屋根に飛び降りるようになりました。これで注目すべき点は、彼女が飛び降りたときに枝がバランスの取れた場所から離れていくことです。私はオフィスで仕事をしていたときにこれを何度か見ました。ある日、クリストファーが午後に帰宅したとき、彼女は裏庭の木に登り始めました。彼女はまた魔法の飛行をするかもしれないと思った。

「クリストファー、ブルブルズに会いに来てはいかがでしょう。彼は私のオフィスに入ってきて、他の子猫たちが登った場所よりも高く登るのを眺めていました。」「彼女は飛び降りるつもりだ。」「私はそっと言いました。

彼女は私のオフィスの窓のすぐ外にある直径約3インチの水平の枝の上でバランスをとりました。

彼女は屋根をじっと見つめて、じっとしていました。

それから彼女は出発しました！

私たちが見たのは、彼女の尻尾が軒の向こうに消えていくことだけでした。彼女が我が家の傾斜屋根の尾根に向かって走り去る音が聞こえたが、彼女はいなくなった。

"おお。そのようなものは見たことがありません。"クリストファーは驚きで目を大きく見開いた。
「彼女は並外れた人だ。」

彼女の子猫のパルクールで驚くべきことは、彼女が地面から約20フィートの高さにおいて、見える距離だけでなく、ジャンプで生み出す距離も測定していたことです。彼女は几帳面でエレガントだった。彼女はユニークで、ただただ信じられないほど素晴らしく、経験豊富な空挺パフォーマーのように空を飛びました。

「それが何なのか知っていますか？」私は尋ねた。

彼は私を見たが、答えなかった。

「それがミステールです。」

"あなたが正しい。"彼は叫んだ。「彼女の名前は間違いなくブランブルベリー・ローズですが、彼女の精神はミステールです。」



人口約 3,000 人だった沿岸地域のあの頃は、
私たちが以前に住んでいたことも違って。私たちの家は町から森林に覆われた 2 ブロックのところであり、朝のコーヒー、公園、友人の家、野外劇場まで歩いて行けました。家々は互いに似ていませんでした。それらはほとんどが築100年ほどで、広い敷地に建っていました。
庭には草はありませんでしたが、花、庭園、木々の小さな森、バークチップがありました。一般的なフェンスの材料は、ブドウ畑から採取した本物のブドウの杭でした。庭は、約3フィートの高さで地面に直接打ち込まれた、2インチ四方の薄灰色の曲がりくねった棒でトリミングされ、時々斜めの支柱が置かれていました。創設者たちが通りを作りたかった場所に木が生えていたとき、彼らはその木の周りを回りました。道路は曲がりくねっていて、街灯も歩道もありませんでした。家の近くの庭には小さなティファニー風の照明がありましたが、日が沈むと通りは真っ暗になってしまいました。

はるか昔、もっとシンプルな時代に生きていたようなものでした。クリストファーと私はそれが何よりも気に入りました
私たちが以前に住んでいた他の場所、そして親愛なる読者の皆さんも覚えているかもしれませんが、私たちはロサンゼルス
の南、ハワイのオアフ島のノースショアの海のすぐそばにある魅力的な海岸沿いのコミュニティに住んでいました。。

私たちの小さな海辺の町のほとんどの朝は鳥のさえずりで始まります。とてもたくさんの種類がありました
朝のコーラスにはさまざまな声が含まれており、1時間近く続きました。観察していたため、いくつかの鳥の種類はわかって
いましたが、猿のおしゃべりのような不思議な鳥もいました。何の鳥か分かりませんが、ジャングルのような鳴き声をしていま
した。
ビーチから数ブロック離れているにもかかわらず、カモメの声を聞くことはめったにありませんでしたが、私たちの住人である
大きくて美しい黒いカラスの群れは、ほぼ同時に枝に定着したようでした。それは彼らが叫んでいるように聞こえたので、聞い
たり見たりすることにとても興味がありました。それが起こったときに私たちの猫が外に出ていたら、彼らは消えていました。
彼らは逃げたのではなく、突然、周囲にいなくなってしまったのです。

私たちのリスや茶色の鳥と友好的なカリフォルニアの青いカケスがいました
足の指を広げてウッドチップの中に飛び込む鳥、鮮やかな緑色のハチドリ、とても甘い鳴き声をあげる黄色と
灰色のウグイス、そしてエトピリカと呼ばれる尖った頭を持つ小柄な灰色の可愛い子鳥たち。彼らは皆仲良くしていま
したが、オグロキツキたちは別の目的を持っていました。彼らは食べ物をすべて自分たちで欲しがりました。彼らは他の鳥を追い払
いました。彼らは私たちの松の木に小さな穴を開け、ドングリを詰めてくれたのです。彼らは驚くほど生々しく、黒と白の非常に鮮
明な色彩を持ち、ユダヤ人のヤマカのように頭の後ろに真っ赤な帽子をかぶっていた。

ある日、クリストファーと私がキッチンに座っていると、キツツキの集団がスパイしているのが見えました。私たちのリスの友達について。彼らは食糧事情について情報を集めているようだった。何匹かが叫び、さらに数匹のキツツキが木に現れ、それから木の枝に飛び乗って私たちのリスの友達がいる場所に近づきました。突然、まるで音のない合図のように、彼らは台所の窓で黒いヒマワリの種を食べていた赤リスを急降下爆撃し始めました。

それは、私たちが参加した航空ショーとよく似た、調整された飛行操縦のように見えました。

"ちょっと、あなた。私たちのリスは怪我をしましょう。"私は裏庭に行って走ろうと立ち上がった彼らにとっては干渉だ。

「これは戦争のようだ。こいつらはゼロスに似てる！」

「ゼロって何？そして、私たちが必要とするとき、私たちのカラスの群れはどこにいますか？」

クリストファーの顔はほとんどしかめっ面で固まっていた。「ゼロ戦とは、第二次世界大戦中に飛行した日本の飛行機を私たちが呼んだものです。親愛なる読者の皆さん、クリストファーは熱心なパイロットであり、彼の父親は戦争中にヨーロッパに従軍していたことを覚えているかもしれません。

「ああ、羽に赤い点がある奴ら？」

「はい、飛行機の側面です。これらの鳥はあの戦闘鳥に似ています。おお。あなたもカラスの群れを何と呼ぶか知っていますか？」

"教えて。"

"殺人。"

「カラスの殺人？真剣に？それが今私たちに必要なことなのです。私たちのギャングは殺人を念頭に置いてやって来ます。猫の群れを何と呼ぶか知っていますか？」

"私たちの家族？"彼は顔に間抜けな笑みを浮かべていた。

「私もあなたを愛しています、ベイビー。猫の群れはクラウドと呼ばれます。」

彼が笑っているのは見なくてもわかり、その日から私たちはキツツキキラーをゼロスと呼びました。

裏庭に素朴な土鍋を2つ置き、敷地内を歩いているときに拾った落ちた松ぼっくりを詰めました。1つのポットには緑色の松ぼっくりがしっかりと入り、もう1つのポットには大きくて開いた茶色の松ぼっくりが入っていました。私はそれらを爆弾や弾丸と呼びました。弾は小さいので狙いを定めることができました。大きなものは、私がそれらを空に飛ばしたときに、より脅威的に見えました。私はゼロたちが好んで座っていた枝に彼らを狙うのがかなり上手でした。彼らが私を真剣に受け止めたかどうかはわかりませんが、私がカップルを急上昇させて騒音を立てるグループに送り込んだ後、彼らは立ち去りました。



自宅のサンルームが私の素敵なオフィスになり、ブランブルベリーローズは私が仕事をしている間、ほとんど毎日私に付き合ってくれました。一番長い壁に沿って広い窓がありましたが、開きませんでした。古典的で昔ながらの窓が両側に2つずつあり、換気のために開くことができ、そのすべてから公園のような森が見えました。もう一方の長い側には、リビングルームにつながる室内窓とフレンチドアがありました。窓枠は深さ約9インチで、壁や天井と同じレッドシダー板と当て木構造で作られていました。この部屋はリビングルームのように白塗られていませんでした。それはまさにツリーハウスにいるようなもので、私たちの家の中でブランブルベリーのお気に入りの場所の1つでした。とても暖かく、窓の棚は子猫が眠りにつくの十分な広さでした。彼女はその部屋で鳥たちと一緒にいました。

ある日のこと、私はちらっと見上げると、子猫が家の棚から飛び降りているのが見えました。首にコードが巻かれた広い窓枠のひとつ。ブランブルベリーは自分自身のもつれを解くのに苦労していました。彼女の小さな足はバタバタしていました。彼女は前足で、自分の首を絞めているコードに手を伸ばそうとしました。彼女は呼吸ができなかったので声を出すことができませんでした。

十分に速く移動できませんでした。私は机から飛び起きて彼女を掴んで抱きしめました。そして彼女を抱きしめました。彼女。。

「ああ、親愛なる主よ、私をここにさせてくれてありがとう。」心拍数を戻そうとしていました。正常に近いどこか。私は持っていました。された。恐ろしい！

もし家にいなかったら、あるいは別の部屋にいたらどうなっていたか、考えたくありませんでした。彼女が子猫のエンジェルたちと一緒に家に帰るのは少なくともこれが二度目のことではないか、と私には思えた。

クリストファーは現場にいましたが、とにかく電話しました。

「ブランブルズは危うく死にそうになった。」

"何？あなたの声がよく聞こえる別の場所に移動させてください。どうしたの？"

「私はオフィスで仕事をしていたのですが、どうやら彼女はブラインドのコードの先にあるプラスチックのボールで遊んでいたようです。彼らは一緒に結ばれ、親愛なる神様、彼女の首に縄を作りました。クリストファー、彼女は逃げようとして棚から振り落とされていました！」

「彼女は大丈夫ですか？」

"と思われる。"

"あなたは？"

「チョコレートケーキが必要だと思う。」

「ほら、ここは45分くらいで終わるよ。もしよかったら、コーヒーハウスに行きましょう。」

"それ大好き。あなたがここに着くまで私は彼女を抱きしめるつもりです。。。。ありがとう、愛してるよ。"

"私も愛しているよ。彼女にキスをしてください。"

言うまでもなく、私はそれらの紐をそれぞれ解きましたが、そのままでした。

この頃、ブランブルズさんは私のカメラが気に入らないと判断し、私がカメラを持って近づいてくるのを見るとすぐに立ち去りました。（そうです、親愛なる読者の皆さん、携帯電話のサイレントカメラが登場する前の時代です。）もし私が彼女の寝ている写真を撮ろうとすると、彼女はシャッターのカチッという音を聞いて目を覚まします。彼女は立ち上がって立ち去るので、私は彼女の尻尾の写真をたくさん撮りました。

ブランブルベリーが生後7か月頃の頃、昼は長く、夜は長かった
暖かい。クリストファーと私は、敷地の端で何か奇妙なものを見つけました。

「クリストファー！」それは半分ささやき、半分叫び声でした。彼は私のオフィスの隣のリビングルームにいましたが、それは夜早く、外は真っ暗でした。

"どうしたの？"

「見てください、2時くらいですよ！私たちの敷地の端にいるようです。」

"おお。。。。主。"

"それは何ですか？"なぜか声が枯れてしまいました。大きな緑色の目は地面から約3フィート離れているように見え、私たちを見つめているように見えました。うちの庭にはそこまで照明がありませんでした。

「ボブキャットだと思います。」

「全員入ってるよね？」

「はい、警察に電話してください。」

"本当に？"そんなことは考えもしなかつただろう。

"うん。"

それで私はそうしました。私たちが住んでいたのはとても小さな町で、警察や消防署から数ブロックのところにあったことを覚えている
かもしれません。私たちが住んでいる場所を確認すると、指令員は私たちに感謝して、「パトカーがすぐに出ますよ」と言いました。

私はブランブルズをつかんで窓の棚の上に置き、彼女の反応を確認しました。彼女は全力で続けた警告、動かずに彼女の目は大きくなり、自分を振り返るように見える緑の目に焦点を合わせました。背中全体の毛皮は立ち上がり、耳は前を向き、尻尾は完全に毛羽立っていました。

案の定、数分以内に、非常に静かな警察のパトカーが私たちの敷地の前を通り過ぎ、暗い通りを進んでいくのが見えました。クリストファーは私たちのポーチの照明をオンにしてから再びオフにしました。「そうすれば、私たちが電話をかけてきたことが彼らにわかるでしょう。」

そして彼らは再び通り過ぎていきました。彼らはステルスモードでした。

数分以内に、隣家のいところであるディアナが帰宅しました。彼は別の州から一週間滞在していました。私たちは彼が私道に駐車し、玄関に近づくと庭の小道の照明が点灯するのを見ました。私は彼に数分待ってから、家の電話に電話をかけました。

"うん？"

「ねえ、あなたの隣の人だよ。今夜、庭で何か見ましたか？」

彼の声は少し震えていた。「そう、道を歩いていると緑の目が私を追ってくるのが見えました！何だって？」

「ああ、まあ」が精一杯でした。

「ここにはどんな動物がいるの？」と彼は叫びました。

「ボブキャットだったかもしれない。」クリストファーは言った。スピーカーに電話をかけましたが、話せませんでした。少し笑いを手伝ってください。

"あなたは大丈夫？"クリストファーは、もし必要なら助けたいと思っていました。「警察が来ました。」

"わかった。でも、今夜はもう外には行かないよ！"

「いい考えだね」クリストファーは笑った。彼の現在の職場にはボブキャットがいた。

目は消え、誰も怪我をせず、子猫たちは全員無事でした。ブランブルズは棚の上に固まって座っていた。そして、彼女は抱き上げられたり、撫でられたりすることを望んでいませんでした。

私は子猫の天使たちに「警告をありがとう」とそっと感謝の祈りをささげました。

翌朝、私たちは隣接する庭でディアナのいところに会い、そのことで笑いましたが、警戒されていました。危険は現実のものでした。





5. あの赤ちゃんを見てください!小さなボブキャットのように見えます

ブランブルベリー・ローズが生後10か月ほどのとき、また珍しいことが起こりました。ナバル・スターは朝、私たちの庭に出て、前足に噛み傷を負って帰ってきました。先ほども書きましたが、他の猫と争ったり、近寄ったりすることはありませんでした。

「ネイビーは怪我をしている。これをチェックしてください。」

「彼をトーマス博士のところに連れて行きましょう。電話して、私たちが向かっていることを知らせてもらえますか？」

車の運転中、クリストファーは「一体どうしてこんなことが起こったんだ？」と尋ねた。

「それは謎ですね？」彼はとても穏やかな男で、近くにいるのが好きだったので、私はネイヴィーを膝の上に抱きました。

若くて優しい獣医師が私たちのために玄関のドアを開けてくれました。ちょっと待って。中診察室でお待ちください。」

私たちがそこにいる間、犬小屋の1つに子猫が座っているのを見ました。ボブキャットの赤ちゃんのように見えました。濃い灰色と白の虎縞模様で、口は白いミルクでした。

「あの子猫が見えますか？」

「あの赤ちゃんを見てください。小さなボブキャットみたいです。」

「なんて可愛い子猫なんだろう！」

トーマス博士はナバルの足を調べて私たちにこう言いました。「ほんの小さな傷です。服を着せて抗生物質を投与します。」彼はネイビーの他の足を調べた。「彼はこれまで怪我のためにここに来たことがない。どうしたの？」

"良い質問。"クリストファーはネイビーの頭に手を置いた。ナバルは彼の特別な子猫でした。愛。「これは初めてです。彼は庭に出て、こうして戻ってきました。私たちは何も聞こえませんでした。」

「猫に噛まれたわけではありません」とトーマス医師は言う。「動物由来ですよ。」

クリストファーは診察室の向こうで、小さな野性的な様子の赤ん坊を見つめた。「それは確かに、かわいい子猫。」

「ああ、そうだ、彼女には家が必要だ。」

それが選択肢だとは思いませんでした。私は彼の診療所にいるすべての動物には家があると信じていました。トーマス博士が地元の多くの動物保護団体にボランティアとして参加していることを知ったのもその時でした。犬や猫も保護した。

「彼女が生後6週間のとき、両後ろ足を骨折しました。地元のアニマルフレンズが彼女を見つけ私に電話してくれました。私は彼女をここに連れてきて、すでに二度外科手術をしました。彼女は安定していますが、まだ治療中です。」

「ああ、彼女の名前はミリーです」と彼は続けた。

クリストファーと私は顔を見合わせた。「もう一匹子猫が欲しいですか？」

"はい。"

彼はとても早く答えてくれたので、私は驚きました。私たち二人とも彼女に恋に落ちたのは明らかでした。

「彼女には家があるのです」とクリストファーさんはトーマス医師に語った。

それは私たちがその日起こると思っていたことではありませんでした。読者の皆さん、物事には理由があって起こると考えたことはありませんか？

「クリスマス休暇が終わったら、彼女を迎えに来てください。」

翌日はクリスマスイブで、私は彼のオフィスが閉まる予定であることを知っていました。

「今日の後で彼女を迎えに行ってもいいですか？」彼女を家に連れて帰るのがとても楽しみでした。ありませんでした。休暇の3日間、その小さな美しさを刑務所の中に残しておきたかったのです。彼女がどれほどフレンドリーで愛に満ちた場所にいるかは私にとって重要ではありませんでした。

「今夜はうちのスタッフが彼女を預かってあげる必要があります。」

彼は診察室を出て、スタッフと何か話し合ってから戻ってきました。「明日の正午頃に彼女を迎えに来てもらえますか？」

こうして私たちは5匹目の子猫を手に入れました。クリスマスイブに。



新しい子猫に名前が必要だったので、名前の一部をそのままにすることにしました。私たちはいくつかのオプションを試しました。なぜなら、彼女は他の子猫のように歩くことができませんでしたが、いつか地球上や星々で歩くことができると私たちは信じていたからです。クリストファーさんはハレーさんを勧めました。最も有名な流れ星、ハレー彗星の後、私たちはそこに着陸しました。別の綴りをしました — ヘイリー。

もしナバル・スターが嘔まれていなかったら、私たちはその日トーマス医師のオフィスにいなかったら、と思わずにはいられませんでした。その診察室からは犬小屋が見えていたので、もし私たちが他の診察室にいたなら、彼女に会えなかったでしょう。私たちは、ネイヴィーが彼女を私たちに連れてきたのには理由があると考えました。

ブランブルベリー ローズは、他の子供たちと同じように、すぐに新しい妹を愛しました。ブランブルベリーとヘイリーは一緒に遊んだり寝たりしました。ブランブルベリーは最高のお姉さんでした。ブランブルベリー ローズとヘイリーは、約7か月違いで同じ年に生まれ、見た目も似ていました。

午後によっては、少女グレイは、クリストファーと私には見えない何かから彼女を守るかのように、ヘイリーのすぐ隣で眠っていました。グレイはいつも自分のことを何も言わずにいたので、グレイがこんなことをするのはこれが初めてでした。

時々私たちは新しい子猫を「ヘイリー、ヘイリー、ヘイリー」と呼びました。口元はとてかわいかったです。彼女はまるで牛乳を飲み終えたばかりのように見えました。

ブランブルズはまだ小さくて貴重でしたが、彼女は決意していました。トーティチュードだったと思う彼女の遺産の一部です。一度何かに集中すると、彼女はひるむことはありませんでした。小さなヘイリーを含む猫たちは午後外に出たので、暗くなる前に私は全員を呼びました。しかし、ブランブルベリーは他の猫よりも夕方遅くまで外で過ごすようになりました。

もちろん、そんなことは起こらないはずだった。

私が一番望んでいなかったのは、子猫を失うことでした。私は毎晩遅くまで起きていて、彼女が茂みを駆け抜けて来るまで電話をかけました。

彼女は放浪する決意をしているようだったので、私はトーマス博士の所で識別のために彼女にチップを入れてもらうことにしました。彼女との交渉が失敗に終わったことが判明したとき、私は彼女の遅い午後の食事の後、彼女を家の中に閉じ込めるようになりました。このスケジュール変更は彼女を満足させませんでした。しかし、彼女の遅刻は初めてのことで、私は彼女が兄弟姉妹と一緒に再び外に出ることを許可されると彼女を安心させました。

「あなたが見たあの緑の目を覚えていますか？外が暗いときは家にいてほしい。安全になったらまた放浪させてあげるよ、約束するよ。」

彼女は私から顔をそむけた。

「約束するよ、また外に出るよ。」

ある晩、彼女を家の中に閉じ込めたとき、私は彼女と新しいゲームをすることにしました。おもちゃを取ってくるのかなと思い、紙を丸めてボールを投げってみました。興味を持ちませんでした。私は彼女にネズミのおもちゃを投げましたが、彼女がそれを叩き回した後、彼女はただ噛んで振っただけでした。ある晩、私が緑のブドウを床に転がすと、彼女はそれを追いかけてきました。私は自分が見ているものが信じられませんでした。ブドウを見ても、ナバル・スターは全く興味を示さなかった。

ハックルベリー・ムーンとガール・グレイは、緑色の果実を追いかけることよりも、ブルブルベリーが走るのを見ることに興味を持っていました。ヘイリーは無関心で見ていた。私が投げたおもちゃは追いかけてますが、果物は追いかけてませんでした。

しかし、ブルブルベリー・ローズは床を走って横切って、丸いブドウを口にくわえて、私のところに持ち帰ってきました。もちろん、またやるだろうかとも思いました。私がもう一度ブドウを転がすと、彼女は走って追いかけて、もう一度ブドウを私のところに持ち帰ってきました。

クリストファーは家にいました。「何かクールなものを見たいですか、ベイビー？」

彼は私たちのリビングルームにやって来ました。

「彼女が何をしているのか調べてみてください。」

ブルブルベリー・ローズはまたやってくれました - 彼女はリビングルームの敷物の上で緑のブドウを追いかけて、そしてそれを彼女の口に入れて私に戻しました。口の中で柔らかい緑と珍しい色をしているのがとても美しかったです。

「ブルブルベリーは、私がこれまで一緒に働いてきた犬の何匹かよりも、取ってくるのが上手です。彼は微笑みながら、「もし私をもっと多くの犬に回収の仕方を教えたら、将来彼女が私を助けてくれるだろうか？」と付け加えた。彼の人生の初期には、自分の犬のほかに、数匹の盲導犬も訓練していました。

ブルブルベリーはさらにいくつかのブドウを追いかけてました。これが彼女がやるべきことであることは明らかだった。しかし、どうやって？そう、彼女の金緑色の瞳の緑は、ブドウの緑と美しくマッチしていた。彼女はそれらを食べませんでした。彼女は、ブドウが潰れて新しいブドウが欲しくなるまで、ブドウをもう一度投げるために私のところに持ち帰り続けました。

もう一度試してみましたが、他の猫は誰も何も取ってきませんでした。

「あなたが何を考えているかは分かります。あなたがそう感じたと言ったときのことを覚えています
彼女のことは以前から知っていました。」

「そして、地球の顔のようなものがブルブルズに重なっているのが見えました。」

「彼女は地球だった可能性があると思いますか？」

"わからない。こんなことがあったことはありますか？"

クリストファーは一瞬口を手を当ててこう思いました。何かが起こっています。」

「彼女は宇宙全体を連れて行きます。それがどれくらい遡れるか誰にも分かりません。」

「それだけではありません、あなたたち二人には奇妙で素晴らしいつながりがあります。あるよ
ブルブルベリーには何か特徴的なものがあるんだ。」

彼は何か重要なことを計算しているようだった。
前にお互いに。もしかしたら、彼女はもっと昔、あるいはもっと前の人生であなたの猫だったのかもしれない?深い愛があるのは明らかだ」

「そうですね、これは新しいことです。こんなことは今まで感じたことがなく、見たことも聞いたこともありません。」

後で、私はこう思いました。真剣に、何匹の猫が緑のブドウを回収するのでしょうか？



私たちにはとてもかわいい子猫の家族がいて、みんな仲良くしていました。子猫を5匹も飼えてとても楽しかったです。予想通り、ナバールスターは守ってくれた兄貴分でした。彼は私たちの生まれたばかりの小さな赤ちゃんを気に入ってくれました。彼は彼女とは遊ぼうとしませんでした。先ほども言いましたが、彼はプレーしませんでした。それは彼のスタイルではありませんでしたが、彼は彼女を観察し、彼女が庭に行きすぎたとき、つまり端に近づきすぎたとき、彼は彼女の前でぐるりと回って彼女を振り向かせました。それは見ていて美しいものでした。関係する猫を知らなければ見逃してしまうかもしれませんが、クリストファーと私は時々彼が彼女を囲い込んでいるのを目撃しました。

ある午後遅く、私たちはポーチに座っていました。

「彼はまた同じことをやっている。」クリストファーは言った。

ヘイリーは私道の向こう側に、大きな榎の木とその向こうの背の高い草が生い茂る森の中をさまよいました。彼女は到着するまで、私たちがそこで緑色の目を見たとは知りませんでした。ナヴァールは、広い門の横にある私道の上部を滑るように回り、自分が何をしているかに注意を向けることもなく、彼女と庭の境界線の間に入った。見るのは異常でした。

「彼女は彼がそんなことをしているのを知っていますか？」

「彼女はそうは思わない。彼女は彼を見て振り向いただけだと思います。彼女は彼が彼女と遊んでくれないことを知っています。」

そこで彼女は安全な場所へ私道を急いで戻り、ナバールは玄関まで駆け上がり、開いた玄関ドアからリビングルームに入った。

ハックルベリーは気さくで、誰にでも好かれ、ナヴァールを愛し、とても幸せな少年に見えました。彼はまた猫の友達のアンナを訪ねていました。彼女は私たちの家には来ませんでしたが、ディアナは、バグズがただふらふらとやって来て、二人で遊んで玄関のポーチと一緒に座っていたことを教えてくれました。

ある晴れた春の朝、私がオフィスで仕事をしているときに、オフィスの隣の公園のようなエリアに目をやると、おそらく20匹ほどのリスがウッドチップの地被に穴を掘っているのが見えました。以前車を駐車していた場所だったので広くて植栽はありませんでした。突然、そのうちの1人がジャンプし始め、さらにもう1人がジャンプし始め、宙返りを始めました。

「クリストファー、これを見てください。」

私たちは座ってリスが穴を掘っているのを眺めていましたが、リスのように行動し始めました。幻覚。彼らはお互いを追いかけたり、オークの木の上を猛スピードで駆け上がったたり、飛び降りたりしてとても楽しんでいました。私たちはリスを毎日観察していましたが、これは新しいことでした。

「彼らが何をしているか知っていますか？」

「彼らは何か、おそらくドングリを掘り出しているようです。。梅雨の間にカビが生えてほろ酔いになるのかもしれない。彼らは赤ちゃんだよ。」

「どうしてわかりますか？私にはそれらはすべて同じに見えます。」

「世の中でそういうことをやっているところはもっと小さいんです。」

この娯楽は数時間続きましたが、赤ちゃんリスはとても気に入ったようです。

子リスを識別できるようになるまでには、少なくとももうリスの季節はかかるだろうが、子リスが走ったり、ジャンプしたり、宙返りしたりするのを見るのは確かに楽しかった。

ブランブルベリー ローズ、ガール グレイ、ヘイリーは時々お互いを追いかけて合っていました。家。彼らの前足が堅木の床をドタバタと叩く音は、とても楽しいラケットでした。時々ブランブルベリー・ローズとヘイリーはリビングルームの敷物の上で転がったり格闘したりした。

クリストファーと私はお気に入りのペットショップに行き、ヘイリーに新しいおもちゃが入ったバッグを買ってきました。ベルボール、チュアブルのもの、そして彼女が自分のものと呼ぶことができる偽のマウス。

ヘイリーは、グレイがカラフルなティベアの缶で音楽を演奏するのを見て、グレイがいなくなったとき、それが彼女が遊びたいおもちゃかどうかを確認するために歩き回りました。彼女は大きなミットをかごに入れ、クマの缶を動かしました。彼らはまるで音楽のように魅惑的な音を立てましたが、ヘイリーはそんなことには興味がないと判断したに違いありません。彼女は新しいおもちゃを探しに走りまわりました。

彼女は子猫のトンネルで寝たり遊んだり、独自の方法でキャットタワーに登ったり、木の上で揺れる鈴のボールをたたいたり、すべてが平和でした。ポップキャットの赤ちゃんのような容姿を持つ彼女と、オオヤマネコに似たブランブルズは、家中を駆け巡る美しい光景でした。

ヘイリーさんの片方の足は見事に治りましたが、もう片方の足はまっすぐなままでした。

「膝が曲がらないんです。」トーマス医師は彼女の脚が曲がるかどうかを確認するためにそっと動かしていました。「そこにピンを刺したところ、その周りの骨が治りました。膝が曲がらなくなっている可能性があります。」

「何かしたほうがいいでしょうか？」

「ピンを取り外すことができました。彼女は安定しているので、うまくいかもしれません。そうじゃないかもしれないよ。」

クリストファーと私はそれを試してみることにしました。そこで彼女は再度手術を受け、回復するまでの間、私たちは彼女のためにベビーカーを用意しました。子猫のトンネルに似ていて、全体に濃い緑色のネットがあり、猫を庭に連れ出すことができ、巻き上げた足に体重をかける必要がなかったので、とても助かりました。クリストファーはそれをキティ RV と名付けました。彼女は、後ろに丸い窓のある柔らかい屋根付きの隠れ場所と、座って庭のすべての生き物を観察できる屋根のない「玄関ポーチ」を持っていました。

彼女が鳥やリスを観察するために外に出ていないときは、ベビーカー部分のフックを外すことができました。車輪から外してベッドの上に置きます。彼が家にいた日中、クリストファーは私たちの部屋に来て、彼女を撫でたり、おやつを持ってきたりしました。彼は頻繁に彼女を起こし、ある日彼女と遊んだ後、「彼女が耳の奥まであくびをしているのに気づきましたか?」と尋ねました。

彼女が治癒するのに時間がかかった後、トーマス医師は彼女の足の包みをほどいたが、手術はうまくいかなかった。ヘイリーは他の猫のように歩いたりジャンプしたりすることはできませんでした。彼女の足は、その小さな人生の間、動かないままになるだろう。

彼女は自分自身の登り方を開発していました - 彼女は前足と前足を使ってそれを行いました。彼女の大きなミット。彼女は家の中でとても速く走った。角を曲がる時、彼女はまっすぐな足を後ろに投げ出し、曲がる三本の足で走りました。彼女は堅木張りの床で独特の音を立てた。

「彼女はその足を舵のように後ろに放り出します。彼女はそれを使って自分自身を操縦しています。」クリストファー言った。

「最終的に彼女が地球の絆を抜け出して、星や彗星が住む場所へ行くとき、彼女は彼女が意図した通りに、うまく歩いてください。」

「それは本当で、彼女は今もそうしています」とクリストファーさんは言いました。「彼女は元気いっぱい、怪我をしていない子猫たちと同じように、走ったり、ジャンプしたり、遊んだりしています。」

「彼女の名前に『スカイウォーカー』を付けるのはどう思いますか?」

「ヘイリー・スカイウォーカー?」彼は笑顔でこう言った。「完璧だよ。それは彼女に似合っています。」

彼女は兄弟姉妹がキッチンの外の木に登るのを見て、そして最も予想外の行動をとりました。彼女は片方の前足で樹皮を掴み、次にもう片方の前足で樹皮を掴むことを学びました。子猫のアイゼンを履いた小さな猫科の登山家のように彼女が操縦する姿は驚くべきものでした。そして彼女の表情は、100%の決意を持った完全な集中力でした。そうやって彼女は力を入れて木に登り、棚の下に行き、兄弟や姉妹、そしてリスの友達全員が優雅に飛び移ることができる貴重な棚に座りました。ヘイリーの重力に逆らった偉業でほとんど信じられないのは、その木の幹が家から離れる方向に曲がり、彼女は三日月の内側をよじ登っていたことだった。彼女の後ろ足は幹に触れることができなかった。

「こんなことは見たことがない」とクリストファーはある日の午後、これを見ながら言った。
ユニークなアスレチック操作。「これは彼女の子猫のスーパーパワーの一つかもしれないと思います。」

私たちはクリストファーが作った美しい特注の木の棚でリスに餌をあげました。他の子猫たちは皆、その向こうに伸びる雄大な檜の木からその上に飛び乗った。私たちの家に戻る方法として、彼らはまた、その棚から私たちのキッチンテーブルに足を踏み入れました。窓が開いていると、彼らは棚の上に出て、檜の木の下枝に飛び移って地面に降りました。時々、そのうちの1匹が棚の上に座って、庭で鳥やリスが楽しそうに飛んだり、走ったり、飛び跳ねたりするのを眺めていました。

この頃、私はヘイリー・スカイウォーカーのブランブルズに対する態度が徐々に変わり始めていることに気づきました。彼女は座ってブランブルズを観察することから始めましたが、彼女はそれまでそんなことはしたことがありませんでしたが、時間が経つにつれて、彼女は怒っているようでした。それは可能ですか？

ある晩、私はクリストファーにそのことについて尋ねました。「彼女の顔の表情が見えますか？」

「彼女がいつ怒るかがわかります。」

「見えますか？」

「そう、彼女の目は半分閉じていて、耳は平たくなって後ろに傾いています。彼女怖い雰囲気を醸し出しています。」

クリストファーが私たちの赤ちゃんについて語る様子がとても楽しかったです。

しかしその後、彼女はブランブルズを叩き始めた。最初はもっとイライラしているように見えたが、エスカレートした。すぐに彼女がブランブルズに三振をしたとき、彼女は彼女を傷つけるつもりだったように見えた。

クリストファーと私は二人とも彼女を思いとどまらせようとした。"ねえ、あなた。ちょっとした悪党。お姉さんのことは放っておいてください。"クリストファーは笑いをこらえられなかったが、彼は真剣だった。

「ヘイリー！もうやめてください。ヘイリー？」私もそう思っていました、それがどれほどうまくいったと思いますか？

ない。

術後の検査で、私はトーマス医師にそのことについて尋ねました。「どうやら彼女はブランブルズが好きではないようだ。それは可能ですか？」

「はい、それは起こりえます。」

「変わって元に戻るのか？」

彼は眼鏡の上から私たちを見つめました。「まあ、それは自然に解決するかもしれませんが、ヘイリーは強い小さな精神を持っています、そして彼女は女の子です。女の子猫は一度決めたら、それを変えることはめったにありません。」

クリストファーと私は顔を見合わせた。

「ああ、違う」私は声を出して疑問に思いました。"さて何をしようか？"

「別々にしておいてもらえますか？」トーマス博士はこう申し出た。「もし彼女を引き渡す必要があるなら、彼女を救った人々は彼女を連れ戻すだろう。」

「わかりました、ありがとう、でも私は彼女を引き留めたいのです。それは、ヘイリーをブランブルズから遠ざけなければならないことを意味します。彼女を中に閉じ込めるか何かで！」

私のがっかりしましたが、ヘイリーが自由を逃してプログラムに参加してくれることを期待していました。素早く。

しかし状況はさらに悪化し、ヘイリーが意地悪をしているように見えました。ブランブルズだけに。彼女は今でもハックルベリーと、時にはガール・グレイと遊んでいた。そこで私は彼女を家の中に入れて、他の子供たちを外に出させ始めました。玄関のドアをあまり開けっ放しにすることはできなかったのも、ヘイリーが少なくとも1つの閉じたドアの後ろにいない限り、子猫たちは自由に出入りすることができませんでした。

一緒に寝ている2人の末っ子を撮った1枚の良い写真が、私が撮れる唯一の写真であるかもしれないことが明らかになりました。

親愛なる読者の皆さん、私が言わなかったら。クリストファーは驚くほど美しく設計、構築しました。私はカスタムハウスのプロジェクトでインテリアデザイナーとして彼と一緒に働きました。私たちは出版され、賞を受賞し、引っ越してきた町のプロ野球チームのスカイボックスなどの注目すべきプロジェクトを建設しました。私は照明設備の成功で専門的に認められていました。ハイテクアンビエント用のエリアとタスク照明用のエリアを作成し、すべてを美しく簡単に見せる方法を知っていました。

クリストファーは天才デザイナーでした。私は彼が木、鉄、ガラスを使って他の人にはできないようなことをしているのを見ました。私は何度も現場に立ち、他の建設業者や建築家が彼に「どうやってやったの？」と尋ねるのを聞いた。

そうですね、私がこのことについて言及した理由は、彼から電話があり、私たちのかつての故郷の近くにある彼の素晴らしい家の1つが「ホーム・オブ・ザ・イヤー」にノミネートされたからです。彼は意思決定委員会と会合するため、その小さな沿岸都市に飛行機で戻った。

彼がいない間、隣人のスティーブンが立ち寄りしました。「おい、君の黒人はどうしたんだ？」
猫？"

"なぜ？"

「彼が玄関先に座っているのを見たことはありません。彼は正門を見つめていた。私が入ってくる時、彼は私を見ていました。彼は少し威圧的です。」

"それは面白い。気づきませんでした。おそらくクリストファーがいなくなったからでしょう。」

「あなたの猫は犬に似ています。」

"ありがとう。。。私は推測する。前にも聞いたことがあります、それはかわいいですね。クリストファーに、彼が持っていることを知らせます番猫です。」

サウスランド地方の私たちの近所では、通りを挟んで向かいに住む精神科医のデヴィッドとその愛しい妻カロリーナが、信じられないほど素晴らしいディナーパーティーを主催してくれました。私は通常、彼女がゲストのために準備するのを手伝い、夕食後、私たちのほとんどは彼らの裏のデッキに座っていました。私たちは夜を楽しみながら話をしていました。すると、暗闇からニャーのような音が聞こえてきましたが、それはRで始まりました。轟音のようなものでした。このような感じですか？それが誰だったと思いますか？我が家の大きな黒い男の子猫が私たちを追って屋根に登って、私たちの楽しさに加わっていました。

「あなたの猫は猫というより犬に似ています」とデイビッドは観察していました。彼は屋根の上にいる大きな黒猫を指さして、パーティーの他の人々に「あれは彼らの猫だよ」と言いました。

それはゲストにとってとても楽しかったです。ナヴァールはそこに留まり、夜の終わりに通りを渡って戻ってくるまで会話を続けた。彼はとても素早く私たちを追いかけました。私は彼がどうやって降りたのか見たことはありませんでしたが、走って私たちを追いかけました。彼がどうやって屋上に上がったのかは私たちにも分かりませんが、クリストファーと私は彼がそのたびにそれを大切にしていました。

サウスランドから戻ったとき、クリストファーはとても幸せで、ナヴァール・スターは行ってしまいました。子猫たちの通常の情報収集に戻る。

「分かりました！私たちはホーム・オブ・ザ・イヤーです！それは美しい修復家と私たちの間の同票だったので、彼らは私たち両方にそれを与えました。この雑誌にとっては初めてのことだ」

「ああ、それは興奮するね。そして家。。。印象的だ。おめでとう！」

「2か月後に雑誌に掲載されます。降りたいですか？授賞式は？」

"はい。。。ああ、誰がこの小さな悪党の世話をするのですか？」私は尋ねた。

「とても勇敢な人ですね。」

ヘイリーを手伝ってくれた技術アシスタントで、私たちの乗組員が彼女を見守ることに同意したことを知っていました。私たちが不在の間、彼女は一日に二回電話をかけてきました。かなりスムーズに進みました。彼女は子猫たちを一匹も外に出したくなかったので、私も同意しましたが、子猫たちはそれを不満に思っていました。どうやら、彼らは彼女に態度を与えたようです。私たちが戻ったとき、彼女は私たちの家にいました。

「あなたの子猫たちは、オフィスに連れてくるととてもお行儀がいいのですが、私のことを怒って、ハックルベリーやガール・グレイではありません」と彼女は付け加えた。「彼らは静かなところが好きなのでした。しかし、他の人たちは落ち着きがありませんでした。」

「ヘイリーとブランブルズを引き離しておくとうなるの？」

「ヘイリーは凶暴だよ。彼女は本当にブランブルズに行きたかったのですが、怒っているようでした。」

私は首を振って尋ねました。「見えましたか？」

"まあ、そうだろう。彼女の顔。"

「そう、彼女は私たちの千の顔を持つ子猫です。」

「彼女はベリーのような素敵な名前を持っていないので、怒っているかもしれません。」

クリストファーはちょうど私たちのリビングルームに戻ってきたところだった。「はあ！グルーヴィー！しばらくその言葉を聞いていませんでした。可哀想なヘイリー。」

受賞者を発表する雑誌が発行されたとき、私たちの親しい友人の一人であるロブ牧師は、私たちのウェブサイトにも次のように書きましました。そんな才能。

私もロブの意見に同意し、クリストファーに1000回目くらい言いました。「あなたは天才ですね。」

私がそう言ったとき、彼は私の声を聞いていたことがわかりました。彼は私を信じてくれたと思います。

私たちは最年少の女の子たちをうまく引き離すことができ、ほとんどの場合うまくいきました。築100年の家の、過去を思い出させるようなドアはすべて、私たちの助けになってくれました。

「これは潜水艦での後方支援活動であるかのように考えるべきです」とクリストファー氏言った。「その間の2つのドアを常に閉めておく必要があります。ヘイリーはブランブルズに行くことを真剣に考えている。時々、彼女はドアのすぐ隣に座っていて、ドアが開くと、私が彼女に近づく前に飛び込みます。小さな山賊です。」

「なるほど、それは良い計画ですね。」彼の言ったことはコミカルでしたが、同時に私もがっかりしました。ブランブルズは家にいても完全に安全ではないと感じました。



「潜水艦作戦」を採用したのが功を奏した。これは、ヘイリーが別名「ヘイリー・モンスター」を獲得した頃のことです。家にいるときはたくさんのおもちゃを独り占めして、ふかふかの猫ベッドならどこでも寝ることができました。時々、彼女は窓の一つに座って、庭で何が起こっているかを観察していました。ブランブルズを見ると、前足を下ろし、耳を後ろに引っ張り、尻尾を膨らませて窓に叩きつけます。彼女がこれを手放すつもりはないことが明らかになってきました。しかし、ブランブルズは外では安全でした。彼女が家にいたいときは、ヘイリーを外出させることができました。ブランブルズは悪い子猫ではなかったので、庭にいるときは常に第一候補でした。

数週間後、ヘイリーが確保されたと思ったとき、彼女は自分の担当区域から出てきました。家と庭へ。ブルブルズはたまたま背の高い草の中を歩いていたので、ヘイリーは彼女を門の隙間から通りへ追いかけました。恐ろしかったです。ブルブルベリーが普段は人のいない狭い幅のアスファルトを駆け抜けたその瞬間、一台の車が走り去った。私たちの通りには車の数はそれほど多くなく、通常はそれほど速く走っていませんでした。猫がいなくなったのかと思った。心臓が止まりそうになった。私は道端で彼女を探しました。妹を家の中の2つのドアの後ろに監禁した後、私は彼女を呼びましたが、ブルブルベリー・ローズの気配はまだありませんでした。

約40分後、ブルブルベリーさんは帰宅した。もちろん、おやつをあげたり、キスをしたり、怪我がないことを確認したりしました。

私はまた、彼女を守ってくれた子猫の守護天使たちにも感謝しました。





6. そして彼女はまた去っていた

2歳になる前の夏の終わり、ブランブルベリー・ローズは再び遅くまで外泊するようになりました。私は彼女を中に閉じ込めるためにできる限りのことをしましたが、愛しい読者の皆さんは、それらの扉をすべて覚えているかもしれません。彼女は脱出アーティストになり、Houdiniを使って脱出できるようになり、次第に外に残るようになりました。

ある静かで暖かい夜、彼女は去った。。。。そうですね、私は一晩中外にいて彼女に電話していました。次は朝、太陽の光が空に触れたとき、私はまだ電話していましたが、彼女はまだいませんでした。

私の警戒の強化がヘイリーに対して効果を発揮していたので、彼女がそうなったのはわかっていました。ブランブルの不登校の原因にはならなかった。

私は何度も彼女を呼びました。私は彼女のおやつ袋をカタカタと鳴らしました。

家に帰ってきたのはまだ早朝だったので、動揺しました。「クリストファー、怖いんです。」

「警察に動物管理に連絡してください。。。。」「

私は地元の警察に電話して確認しました—ああ、ああ、電話したくなかった—

「やあ、動物管理官と話してもいいですか？」

あまりの動揺に礼儀を忘れてしまいそうになった。「お願いします？」

「今日はクリスティーンが来ています。抱いてもらえますか？」

彼女が電話に出るのを待っている間、私の胃はドキドキしていました。

「こんにちは、クリスティーン、申し訳ありませんが、私の猫が行方不明です。。。これは私には聞きにくいのですが、私の近所で怪我をした猫、または死んだ猫を見つけましたか？フォレストシアターの近くに来ました。」

「いいえ、今朝そこにいたところですよ。」

おお、また息を吹き返した。「ああ、神に感謝します！」

「あなたの猫はどんな顔をしていますか？彼女がいなくなってどれくらい経ちますか？彼女は欠けていますか？」

「彼女の名前はブランブルベリー・ローズです。彼女には濃い灰色の縞模様と金色の斑点があります。彼女は一晩中いなくなっていました、そして、そうです、彼女は欠けています。」

「自分の敷地内を歩いたことはありますか？」

「ええ、彼女には会いませんでした。彼女が去ってからずっと彼女を呼んでいました。」

「彼女の写真を持ってきてくれませんか？彼女を探してみます。それにしても可愛い名前ですね。」

それは私に笑顔を与えてくれました。「どうもどうも。あなたがそこにいない場合は、今日遅くまでに持ってきます机に置いておきますね。」

私は彼女の写真をを使ったチラシを作って近所の人たち全員に配り、そのうちの1枚をクリスティーンに届けました。その夜、私は再び彼女を呼びました。クリストファーと私は近所を歩きながら彼女を探し、人々に彼女を見かけたかどうか尋ねました。

私の世界には沈黙しかありませんでした。迷ってしまいました。彼女がどこかにいるのはわかっていました。私は早朝の2時から4時の間に再び外に出て、静かで暗い通りを歩きながら、彼女の名前を呼びました。私の声は暗い静けさの中でよく伝わったので、彼女には私の声が聞こえると確信しました。

私はトーマス医師を含む町内のすべての獣医師と SPCA に電話しました。誰も彼女を飼っていなかったので、私は彼女の名前と、彼女を探していること、彼女が欠けていること、誰かが彼女を連れてきたらすぐに電話してくださいと伝えました。

スティービーとブライアントに電話しなければならないことはわかっていましたが、それが怖かったです。私がいたとき、それは悲しい電話でした。スティービーに「ブランブルズはもういないよ。残念ですが、あなたが育て、愛した赤ちゃんを亡くしてしまったのです。」

詳細を把握した後、スティービーは自信を持ってこう言いました。
そしてブランブルベリーの無事帰還に感謝の祈りを捧げます。」

二日経ちましたが、彼女のささやきはどこにもありませんでした。神様に感謝してた私には世話をして愛する子猫が他にもいたことを。おそらくヘイリーがより幸せになったことを除いて、彼らの行動は変わりませんでした。私たちは彼女をずっと家の中に閉じ込めていました。もし私がほんの一瞬でも彼女を外に出して、ブランブルズが家に帰ってきたら、彼女は不登校の妹を追い払ってしまうかもしれない。その考えは恐ろしく、受け入れられませんでした。

私が玄関の階段に立ってブランブルズを呼んでいたとき、通りの向かい側にいた隣人のスティーブンが家の外に出てきました。

「ねえ、みんな大丈夫？」

「スティーブン、子猫がいなくなっただです。」

"どれ？"

「ブランブルズ、三毛猫です。」

私たちが知っていることを彼に話しましたが、彼も同様に心配していました。「本当にごめんなさい、彼女の世話をします。」

"ありがとう。"

「私の庭は完全に柵で囲まれているので、もし彼女がそこに入ったとしても、少なくとも安全でしょう。」

「それは慰めです、ありがとう。」

「誰か仲間が欲しいなら、早朝と一緒に歩きましょう。私に知らせて。」

「そうします、ありがとう、スティーブン。」

クリストファーは午後遅くに帰宅した。

"何でも?"彼は尋ねた。「私が最初の電話になると思います。。。。ただ疑問に思っただけです。」

「クリストファー、とても悲しいよ。彼女は家に戻らなければなりません。」

「私は家に帰る途中、伝道所の小さな礼拝堂に立ち寄り、祈りをささげました。その下に行きたいですか?」

「そこで彼女を見つけられると思いますか?」生意気なことを言っているわけではありません。

「あなたは素晴らしい仕事をしています、アンバー。私たちは信頼しなければなりません。創造主は一度彼女をあなたに与えましたが、それは間違いではありませんでした。」彼は一歩近づいて私の周りに腕を置きました。「私たちは彼女を家に連れ戻し、もう一度あなたに与えてくれる創造主の愛を信頼する必要があります。」

"ありがとう。彼女がいなくてとても寂しいです。はい、数分間ミッションに行きましょう。彼女が戻ってきた場合に備えて、常にそばにいないければならないと感じましたが、祈りを捧げるために少し離れていても大丈夫でした。

私は子猫用のボウルを2つ手に取り、ポーチに置きました。1つは子猫の粒と、他は水で。「彼女が戻ってきたときのために、これらを置いておきます。ありがとう、クリストファー。」



何も目撃できないまま日々が過ぎていきました。私は彼女を取り戻すことに完全に集中していました。彼女がいなくなっていないことはわかっていました。クリスティーンが見ていると知って本当に気分が良くなった

「それで、誰も何も見ていないんですか？」

「いいえ、他の子猫たちは動揺していません。」

クリストファーと私が待っている間、スーザンは黙ってしまいました。2〜3分。 。 。 毎回呼吸することを覚えていなければなりませんでした

「ブランブルズが私をブロックしています。彼女に連絡がつかない。彼女はコミュニケーションを望んでいません。」

"何？それはよくあることですか？"

「いいえ、それは珍しいことですが、彼らはそれを行うことができます。森のようなところにお住まいですか？」

「はい、木がたくさんあります。」

「わかりました。私が撮っている写真は、数種類の高い木と、いくつかの背の高い草です。あなたの庭はこんな感じですか？」

"はい。"

「オーケー、彼女が木々の間を歩き、背の高い草の方を向いているのが見えました。すると、白い光が閃きました！そして彼女はなくなりました。」

"それはどういう意味ですか？" スーザンがブランブルズのブロックについて最初に言ったことを考えていました
彼女。

「こんなことは本当に言いたくないんです。 。 。しかし、彼女は死ぬかもしれませんでした。」

"いいえ！！"

私はすぐに、何でも変えることができるかのように言いました。クリストファーは心配そうな表情で私の手を握りました。

「いいえ」と私は繰り返した。「彼女は死んでいない。私の心の中に彼女を感じることができます。彼女は生きています。」

「わかりました、それがどのような感じか知っているので、そのままにしておいてください。私があなたに言えるのは、私が何をしているかということだけです
見た。彼女が生きていれば、非常に強力な生き物です。彼女はこれを望んでいます。それは彼女にとって重要なことだ。」

「それで、彼女が戻ってくるかどうかを知る方法はないのですか？」

"いいえ。ごめん！"

クリストファーと私は数分間座って、聞いたことをただ吸収していました。私は振り返って彼を見ました。

"ありがとう。"

数日後、地元の郵便局で彼女にチラシを見せたところ、とても親切な女性が「ああ、彼女は戻ってくるんです」と叫びました。私は郵便局のコミュニティ掲示板が大好きで、壁に貼られたブランブルズの指名手配ポスターがとてもかわいかったです。ご想像のとおり、これは誰もがソーシャルメディアに投稿し始める何年も前のことでした。

私が近所を歩き回り、彼女の愛らしい写真を配りながら人々と話をしていると、動物が家に戻ってきた人々の話をたくさん聞きました。こんなにたくさんの生き物が冒険を歩いているとは知りませんでした。

私たちの隣のディアナさんの家で働いていた請負業者が、私たちの北にある小さな町で一緒に仕事に来ていた、ひよろ長い黒人の研究犬ジェスロについて教えてくれました。ある日の昼食時に、ジェスロはそのまま立ち去りました。

「もちろん、彼は戻ってくるだろうと思っていました。しかし彼はそうしなかったため、私は家に帰らなければなりません。私は彼に電話して、数ブロック先から家までずっと探しました。私はとても動揺しました。次の日戻ってきたとき、彼がそこにいるだろうと期待していましたが、彼はいませんでした。それが3日間続きました。翌日、彼はちょうど家に現れました。谷に出ろよ！」

「彼は大丈夫でしたか？」

「彼は元気で健康でした。彼は怪我をしていなかった。」

「彼がどこに行ったのか、何をしたのか知っていますか？」

「いえ、手がかりはありません、謎です。でも彼は今は家にいることが増えて、私の仕事にも一緒に来てくれなくなりました。」

「彼は気にしませんか？」

「関係ないよ、妻が許してくれないんだから！」

思わず笑ってしまいました。わかりました。――

私たちの友人のサマンサが、彼女の黒ウサギのミルトンについての話をしてくれました。「裏庭にとても素敵なウサギ小屋を用意していたのですが、ある日、ウサギが逃げ出してしまったんです。彼はいなくなりました！彼を失ったのかと思った。それから数週間後のある日、ミルトンの友達だった猫のスカウトが姿を消しました。まあ、誰かが私のペットを誘拐したのではないかと思います。」彼女は笑ったが、それは本気だった。

「しかし、スカウトはその夜に戻ってきました。それから、彼は毎日午後遅くに出発するようになりました。それである日、私は彼の後を追ったのですが、どうなったのでしょうか？彼は私をミルトンに連れて行ってくれました。」

"何？どこ？"

「通りの同じ側に住む隣人の一人が、ミルトンのために新しい家を建てて、そこに住んでいました。そして彼は幸せでした。」

「ミルトンを新しい家に滞在させたのは、彼がそこが気に入っていて安全だったからです。そして、ほとんどの日は夕方直前の明るいうちに、スカウトは出発した。彼は訪問するために通りを歩いていて、ミルトンの新しいウサギの家の隣のフェンスに座りました。彼は日が沈むまでそこにいて、それからまた家に帰りました。」

それは私にとって奇跡的な話のように思えました。彼女がウサギを見つけられるなら、私も見つけられると思った
必ず私の猫を見つけてください。

何日も行方不明になった猫の話をつか聞きました。1つは何ヶ月も行方不明でした
彼女が戻る前に。

ある同情的な隣人は、彼女の鳥である金色のオカメインコについての話をしてくれました。「フリルには
中には大きな巣箱がありましたが、時々ドアを開けっ放しにして、家の中に飛ばさせていました。ある日、彼女は家の玄関から飛び出してきました。私は彼女を追いかけて、木の上に彼女の姿が見えましたが、彼女は戻りたがりませんでした。」

私は黙って、この物語が良い結末を迎えることを願いました。

「数日後、ラッフルズがベランダに現れて、飛んで家に戻ってきました！」

「彼女は大丈夫でしたか？」

「はい。そしてまた家に戻れて嬉しかったようです。」

どうしたら笑わずにいられるでしょうか？「さあ、それが物語です！」

私はこれらの物語を、ブランブルベリーが私たちのもとへ戻る道を見つけてくれるという、愛に満ちた宇宙からのメッセージだと受け止めました。まだ怖かったですが、健全な信頼もありました。私たちは、動物の友達が生き物たちの休暇をとり、安全に過ごすことができる興味深い地域に住んでいると思いました。

地元のアニマルコミュニケーターに連絡したとき、私はまだ心の中に彼女の存在を感じており、彼女が生きていると信じていました。

「彼女は生きていると思います」とアマンダは言いました。

「彼女がどこにいるか分かりますか？」

読者が黙って耳を傾ける様子が大好きです。

「彼女は近くにいるよ。彼女はおそらくあなたが住んでいる場所から1ブロックから2ブロックのところにある家の下にいるような気がします。それ
玄関に階段がある家のようなです。ポーチは庭より高いです、彼女はその下にいます。」

「家に何か色があるのが見えますか？」

「薄いオーシャンブルーのように見えますが、それについては確信が持てません。私は彼女が生きていると信じています。」

読者と一緒に安全な瞬間を過ごしたかったです。読書を終わらせたくなかった。



「彼女は近づいていると思いますか？」私はクリストファーに、まるで知っているかのように尋ねた。

"散歩に行きましょう。"彼は彼女を家に連れて帰る準備ができていました。

私たちの家の裏の通りに、1ブロック離れた町に近い家が1軒ありました。

説明。そこに着いたとき、私は彼女の名前を呼びました。私はおやつを持って袋をカタカタしましたが、返事はありませんでした。

その夜遅くに戻ってきて、もう一度電話しました。しかし、誰もがまだ沈黙していた。

昼も夜も数週間になり、すぐに彼女のいない丸一か月が過ぎてしまいました。私は今でも郵便局でチラシを配り、コミュニティ掲示板や獣医事務所で彼女の写真を更新しました。私は今でもほぼ毎朝街を歩いていました。私はブランブルベリー・ローズを毎分見逃していました、そして私は彼女を取り戻したいと思っていました。私は彼女についてみんなと話しました。早朝の搜索中も、私は彼女の名前を呼び、彼女の無事を祈りました。

私はまだ彼女が生きていると信じていました。そして、私はそれを信じていたので、彼女を見つけることができるとも信じていました。

私が夢を見たとき、私たちは31日の孤独な日々と落ち着かない夜を過ごしていました。私は夢を覚えていることがほとんどなかったため、これは重要だと感じました。夢の中で私はブランブルベリー・ローズを見ました - 彼女は再び家にいたのです。彼女は丸まって寝ていましたが、体は小さくなっていました。

私たちが一緒に暮らしている間、ほぼ毎朝、クリストファーは「昨夜夢を見たんです」と言うので、私が夢を見たと言えると、彼は何か違うことが起こっていることに気づきました。彼は自分の夢を信頼し、それを仕事に活かしました。

数時間後、クリスティーナから電話がありました。「ブランブルベリーを見つけたようです。7時にセント・ジュニペロに会えますか？」電話を置く前に私は出発途中でした。私たちが住んでいた場所からわずか2ブロックしか離れていませんでしたが、私は車を運転しました。

「隣の住人が彼女の泣き声を聞いて私たちに電話してきました。」

クリスティーナさんは警察の一員だったので、持ち主の電話番号を聞けると言いました。彼らは町にいませんでしたが、数分間話した後、彼女はデッキの下の立ち入り禁止区域に入る方法を知っていました。

そしてブランブルベリーローズでした！

どうやら、他人が彼女の話をもっと聞いたのはこれが彼女の人生で二度目だったらしい私を持っていたよりも、家の下から少し離れたところまで見えました。彼女は数日間そこに閉じ込められており、暗く、体も小さかったので、最初は彼女だと分かりませんでした。

「ブランブルズ。 。」私はそっとそう言い、深呼吸をして、子猫と目を合わせ続けました。

彼女は私のところに来て、迎えに行かせてくれました。彼女はもっと小さかったです！

「ありがとう、本当にありがとう、クリスティーン！言葉ありません。」

"ありがとう。君は決して諦めなかったんだ！"クリスティーンも私と同じくらい幸せでした。「ブランブルベリーローズとのあなたの話は私にとって特別な経験であり、地元の動物管理官として最高の経験の1つです。今日は私にとってとても良い日です。あなたも。。。そして彼女！」彼女は微笑み、目を輝かせた。

彼女を家に連れて帰った後、私はクリストファーに電話した。「彼女を捕まえたよ！これを信じられますか？

「これから向かうので、数分待ってください。家にいますか？」

「トーマス博士に電話して、あなたが到着するまでここにいてください。気をつけて運転してください。愛してます！」

すぐに、もう一度彼女にキスをした後、私は獣医師に電話して素晴らしい知らせを伝えました。クリストファーは数分で到着した。

トーマス医師はブランブルズを診察し、水分を補給するとすぐに、とびきりの笑顔でこう言った。「彼女は大丈夫だろう」という心配の代わりに。

再び息ができるようになり、十字架のサインをしました。クリストフは私を彼の体で包み込んでくれた腕を組んで私にキスをした。「彼女を信じてくれてありがとう。」

トーマス博士はとても優しい笑顔で、目が輝いていました。「彼女を家に連れて行ってもいいよ。昼も夜も常に家の中に入れて、少量の食事を頻繁に与え、いつでも水を飲めるようにしてください。」

「ああ、親愛なる主よ、ありがとうございます。彼女は安全です、そして私は毎日彼女と一緒にいます。ありがとう！」



家に帰ってすぐにスティービーに電話しました。彼女はブランブルズがいると聞いてとても嬉しかった。また家に帰って、大丈夫。

ブランブルベリー ローズはとても疲れていて、床から車の座席まで飛び移ることができませんでした。

椅子。彼女は我々のハイフライヤーだったが、今は出場停止となった。彼女は痛々しいほど痩せていた——そう言われたことは以前にも聞いた。今、私はそれを感じました。彼女は何時間も水皿の隣に座っていました。彼女はそれを何日も続けました。時々、彼女はただ座って水を見つめていました。

私はとてもとても幸せで、彼女が家に戻ってきたのでまたリラックスすることができました。トーマス博士が持っていたのは、100%の状態に戻るには数か月かかるかもしれないと語った。1か月以上にわたる一貫したケアの後、彼女の様子は良くなり、家の周りを簡単に歩くことができるようになりましたが、私たちにはまだ道が残されていました。彼女は以前のように強くはありませんでした。

ある午後、クリストファーと私はキッチンに座っていたので、彼女を抱き上げてテーブルの上に置きました。彼女は私たちの裏庭と、クリストファーが作ったユニークな木の棚を見渡すことができました。彼女は窓の近くに座り、窓を開けてもいいかと尋ねるかのよう前足を上げました。

「いいえ、赤ちゃん、本当にごめんなさい。また外に出るよ、約束するよ！」私は身をかがめて彼女にキスをした。

「彼女が外の匂いを嗅げるように、窓を開けてみませんか？」

私がそれを1インチほど開くと、彼女は風が吹き抜けるところに鼻を置きました。彼女は初秋の香りを吸いたかった。彼女は数分間そこに座っていた。私は彼女の人柄の中に静かな知恵を見ました。彼女は限界を受け入れたように感じました。クリストファーも彼女を見ていた。

「わあ、彼女は美しいですね。彼女は今、さらに強力になっています。。。ナパールみたいな。これは印象深いですね！」

その夜、彼女は廊下を走って椅子に飛び乗り、それから私たちのベッドに飛び乗った。彼女が帰ってきてから、私は彼女を抱き上げてベッドに寝かせていました。彼女がそうしたとき、私はクリストファーを見た。私たちは二人とも笑顔でした。

「私たちは通常の状態に戻りつつあります。」

「よくやった、君。それには腸の強さが必要でした。よくできました！」

最初の数日間、彼女がまだ弱っていた間、他の猫たちは彼女にスペースを与えましたが、彼女が強くなるにつれて、彼らは再び近くに来ました。女の子のグレイは、以前よりも彼女の近くにいる、ハックルベリーは優しい性格で、午後には時々彼女と一緒に昼寝をしていました。

彼女が旅から回復するのを手助けするうちに、私はブランブルベリー ローズに深い敬意を抱くようになりました。私はよく、彼女がどこにいたのか、途中で誰が彼女に食事を与えたのか疑問に思いました。

もしかしたら彼女はネズミを捕まえたのだろうか？

「もしかしたら、ブランブルベリー ローズがこれを作るためにこの世に生まれてきたのかもしれないと思いますか？旅？」ある晩、クリストファーは尋ねた。「ネイティブアメリカンと同じように、おそらくそれは彼女にとって精神的な探求だったのかもしれませんが。そしてそれが彼女がここで私たちと一緒に暮らすようになった理由です。」

「そんなこと考えもしなかった。。。になり得る。」

「彼女は、南国の私たちの町よりもここの方が安全だと分かっていたのかもしれませんが。ここはもっと静かで、賑やかなところはありません。」

"あなたが正しい。あのままでは彼女を失ってしまうところだった！"

気になったので霊視クエストについて調べてみました。

個人は、アドバイスや保護を得るために、通常は擬人化された動物である守護霊と対話しようとします。彼女の美しさ、彼女が私にもたらしてくれた喜び、そしてブランプルベリーと私の間の深い愛に加えて、彼女には私の知っている、あるいは完全に理解できるものを超えた深さがあることに気づきました。

ブラインドのコードに絡まって死亡する可能性もあった。彼女は精霊探求中に死ぬ可能性もあったが、死ななかった。。。また。これは彼女の人生の糸のようで、彼女が生まれてゴミ箱のビニール袋の中に放置されたこと、私が彼女を探すために電話をかけまくったこととの間に関係があるのではないかと思いました。

「これは当然のことのように思えるかもしれませんが。。。」

私は大声で考えていましたが、クリストファーは辛抱強く待っていました。

”。。。でもさっきまで組み立ててなかったんだ。ここに来て最初の冬、私が彼女を探すために町の人々に電話していたときのことを覚えていますか？」

「そう、あの時もあなたは諦めなかったのね」

「それはスティービーが彼女を育てていた時期でもありました。彼女は私とコミュニケーションを取っていたと思いますか？もし私が彼女を迎える準備ができていなかったり、彼女を見つけることができなかったら、あのゴミ箱が彼女の出口戦略になっていた可能性はあるでしょうか？」

クリストファーは答えを探しているかのように眉を上げて遠くを見つめた。

「この猫は誰ですか？」



ブランプルベリーには一緒にいてほしかった。ただ彼女が近くにいたかっただけなのです。彼女は回復を続け、トーマス医師は彼女に屋外活動を許可しました。私たちの人生の瞬間は、認識可能なパターンに折り畳まれます。

彼女を外に出すまでに数週間かかりましたが、外に出したとき、私は彼女を少し空腹にさせました。私が彼らに電話をかけると、彼女は残りの猫たちと一緒に家の中に戻り、日中はほとんどの時間私の近くにいました。

彼女は、減った体重を元に戻し、さらにもう少し体重を戻しました。これは興味深いことでした。彼女は散歩する前はとても運動能力が高く、痩せていました。

ある日の午後、私は彼女が石畳の小道で日向に横たわっているところを驚かせました。彼女は私に顔を向け、これまで見たことのないワイルドな一面を見せました。本当に素晴らしかったです。彼女は私を見つめて、犬歯を見せるために唇を引っ込めながら、静かにうなり声を上げました。

彼女が私に警告しているように感じました。

うちの可愛い飼い猫が強力な存在になったようだ。

彼女がオオヤマネコの赤ちゃんに似ていることにも気づきました。本当に感動的でした。

ヘイリー・スカイウォーカーのブランブルベリー・ローズに対する態度は依然として問題であり、私はそうしなければなりません。ブランブルズを妹から安全に遠ざけてください。ヘイリーはまだ彼女を地球から追い出そうとしているようでした！彼女がブランブルベリーを怖がっているのか、それとも家に戻ってほしくないのか、私にはわかりませんでした。おそらくヘイリーは彼女がいなくなることに慣れてしまったのだろうか？

ヘイリーは体が小さかったにもかかわらず、彼女の上半身の強さのおかげで、彼女がブランブルベリーにぶつかったら彼女を傷つけるだろうと私は感じました。しかし、サブマリン・ドア作戦のおかげで、ヘイリー・スカイウォーカーを家の半分に、ブランブルベリー・ローズをもう半分に安全に飼うことができました。それは、クリストファーと私が常にドアを開けておくことを忘れないようにする必要があることを意味しました。私たちは、家の両側がつながる廊下で、1つのドアを閉めてから次のドアを開けることに成功しました。

「ブランブルズをより安全にするために何かをする必要があります。」

「ヘイリー・モンスターを家の下に置いてみるのもいいかもね。」

親愛なる読者の皆さん、私と過ごした最初の数週間、ブランブルズがああ洞窟のような空間に姿を消したときのことを覚えているかもしれません。

「ハックルベリーをそこに置いたときのことを覚えていますか？」

「彼はネズミを一匹も捕まえませんでした。 。いいえ;すると彼は2分ほどで出てきました！」

「彼女は出てくると思いませんか？」

私たちはヘイリーと一緒に裏庭に運びましたが、彼女は少しも気にしませんでした。閉店したとき私たちはドアを開けて彼女に愛していると伝え、家の前で彼女が出られるいくつかの開口部を眺めました。彼女は欠席でした。数時間後、私たちがドアを開けて彼女の名前を呼ぶと、ヘイリーが歩いて私たちのところにやって来ました。走っていない。

「彼女はあそこが好きだよ！」

彼女を再びそこに置く前に、私たちはハックでもう一度試してみました。私たちはドアを開けました。しかし、私たちが家の前に着く前に彼は出かけていました。ハックがどうやって抜け出したのかは分かりませんが、ヘイリーは足のせいで前のようにかがむことができないのではないかと考えました。そこで彼女は自分専用の聖域の所有者となった。

私たちの家は適切な基礎を持たずに建てられており、家の下に日光が当たる場所がいくつかありました。約 12 × 6 インチの長方形の開口部にはスクリーンもありました。そのため、彼女は常に新鮮な空気を得ることができ、外を見ることができました。それはすべて土の床で、私たちの家と同じくらいの大きさでした、そして私はそこに彼女を追い続ける小さな野生の生き物がいると確信していました。他の猫は喜んでそこに入ろうとしなかったため、それはすべて彼女のものであり、罰とは程遠いものでした。

それで、ブルブルベリーは家の中で安全に、そしてまた庭の外にいて、ヘイリーは彼女のものだった素敵な場所に安全に閉じ込められました。

ある晩、クリストファーは愛情を込めてこう言いました。「彼女はヘイリー刑務所にいます。」

ブルブルズは見事に回復し、再びジャンプしたり登ったりできるようになりました。午後になると、彼女は地面から約 4 フィートの高さにある、水を入れていない石の鳥の水槽で丸まって眠ったこともあった。かつては、暖かい日に鳥のために水を入れていましたが、一晩水を入れたままにしておかないと、かわいい小さなアライグマがそれを洗面器に変えてしまい、おそらく途中でひっくり返してしまうでしょう。しかし、彼女が丸くなっているのを見た後、私はそれを満たさずに残し、羽の生えた友達のために吊り下げバードバスを用意しました。石造りのバードバスは鍛鉄製の台座の上に立っていたが、どうやって彼女がそれをひっくり返さずにそこに登ったのか私には理解できなかった。

彼女が木々の間を飛んでいるのは見えませんが、またジャンプすることができました。

彼女はまだほとんど話さず、おそらく 3 週間か 5 週間に 1 回くらいで、彼女の声はまだほんのわずかでした。小さく鳴くニャー。

クリストファーは時折暖かい午後に帰宅すると、横になって昼寝をすることもありました。その日、彼女は彼と一緒に昼寝をするのが自分の仕事だと確信しているようで、彼の顔の近くで丸くなった。彼はそれが大好きでした。

もう一度、家と庭に平和が訪れ、子猫たちはみんな幸せでした。

ある美しく晴れた暖かい朝、私たちが木の棚でリスに餌をあげている間、隣に住んでいる友人のディアナがやって来ました。彼女は庭にピーナッツやその他のおやつを置いておきましたが、リス棚はありませんでした。彼女は、彼らがあの素敵な台に座って、黒いヒマワリの種やピーナッツをむしゃむしゃ食べるのを見るのがとても楽しかったとコメントしました。

突然、小さな赤リスの一匹が木に登り、木の上に飛び降りました。
棚 — 唯一の違いは、この棚には贈り物が付いてきたことです。彼女は大きなものを運んでいた——

彼女とほぼ同じくらいの大きさで、彼女の口には柔らかい緑色の苔のかけらがありました。彼女はそれを棚の上に落とし、尻尾を前後に振り、それから木の上に戻って戻りました。

私たちは皆、顔を見合わせて笑い始めました。

「それは意図的でした！」ディアナは言いました。

「それは予想外でした。」クリストファーは付け加えた。

「彼女のご褒美に感謝していると思いますか？」

「みんなに見てもらえて本当に嬉しいです、すごい！」

私は、今日撃したことについて、後で少し調べてみることにしました。リスということを知りましたなどの動物が利他的な行動に参加していることが記録されています。しかし、これはそれでしょうか、それともディアナが私たちに感謝する方法を提案したのでしょうか？

リスは苔を使って巣を作り、赤ちゃんを暖かく保つので、それを贈り物として受け取りました。私たちの家。柔らかくて緑色の素晴らしい苔があるのは、なんと特別なご馳走だったでしょう。

ある朝、私はゼロ軍団が贈り物を持った特別なリスの友人たちを急降下爆撃するのを見ました。彼らが飛行パターンに従っていることに気づきました。彼らは木々から急降下し、水平位置から攻撃します。そこで、リス棚の一番奥を遮ることで、彼らの飛行経路を妨害できると考えました。私は庭を歩いていると、直径約1インチ、長さはおそらく3フィート、根元が真っ直ぐで、上部がふさふさしたオークの枝を見つけました。棚の端に釘付けしました。そして見ました。完全にうまくいきました。私たちのリスの友人たちは、視界を遮られることなく棚の上に座っておやつを楽しむことができ、猫たちは棚に飛び乗ったり、飛び降りたりすることができ、それらの極悪非道なゼロは棚に近づくことができませんでした。



クリストファーと私は屋外でディナーパーティーをするのが大好きでした。ファイヤーリングで火を起こして、外で友達と楽しい時間を過ごしました。ヘイリーはヘイリー刑務所に無事にいたので、私は来客のために玄関のドアを開けっ放しにしておきましたが、猫たちはそれをとても気に入っていました。ナバル、ガール・グレイ、ハック、ブルブルズは外の庭に出て、たいいていの夜より遅く木に登り、その後、好きなときに夕食のために屋内を歩き回ることができました。私たちの庭にはたくさんの方がいたので、彼らは完全に安全でした。

私たちの友人のほとんどは私たちの子猫のことを知っており、猫たちとの付き合いを楽しんでいましたが、猫たちは安全な距離から見守ることがほとんどでした。

「あなたの猫たちは、木の上や屋根の上に登って私たちを観察する様子をとても楽しんでいました。」ある友人は言いました。

「彼らの黒猫は犬に似ています。」スティーブンは面白がったようだった。

クリストファーは微笑み、目を楽しそうに踊らせた。「彼女の猫たちは最高の、最高の手作りの食事を与えられ、とても素晴らしい生活を送っています。」

時々、夜遅くに前庭にいるとき、松の木を見上げると、赤い目が私たちを見下ろしているのが見えました。最初は誰のものかわかりませんでした。めったに見られないアライグマがそこに座って私たちを見ていることがわかりました。5、6対の赤く光る小さな目が、私たちが庭を歩くたびに動くので、とてもかわいかったです。

クリストファーと私はこの絵本の中で暮らすのが大好きだったと言ったことがあるかもしれませんが、ほぼ森の近所。私たちはボブキャットを一度見ただけで、ヘイリーとゼロスを収容した今では、私たちと子猫たちは平和な生活を送っています。毎日。

数年後、何もなかった土曜日のこと、ブランブルベリーローズが早朝の鳥との会話や庭の探索から戻ってきたとき、私は彼女が足を引きずっていることに気づきました。日曜日には彼女は良くなったように見えた。それから月曜日には彼女の状態は再び悪化しました。

クリストファーと私は、トーマス医師との朝の約束をするために電話しました。

検査後、彼はこう言った。「ブランブルベリーは前十字靭帯断裂か、ACL。これは運動能力の高い猫によく起こります。彼女が特に高くジャンプしたり、他の猫を追いかけたりしているのを見たことはありませんか。。。それともすごく速く走ってるの？」

ヘイリーが彼女を追いかけしていることを考えましたが、彼女はほとんどの時間ヘイリー刑務所にいたので、そのようなものは見たことがありませんでした。

「うーん、何か。。。。」私は心を探りました。それから私はクリストファーを見ましたが、彼は持っていませんでした。追加することはありますか。

"おお。。。あの二匹の兄弟猫。。。覚えて？"

「ああ。。。それは正しい！」

私はトーマス博士に彼らのことを話しました。「2匹の兄弟猫がうちの近所に引っ越してきました。彼らはどちらも黒と白で、大きな猫で、私たちの庭に忍び込んでいます。」

「彼らはいじめっ子の猫のように見えます」とクリストファーさんは付け加えた。

「もし彼らの一人が彼女を追いかけて、彼女が間違っただけでジャンプしたり、間違っただけで着地したりすると、このようなことが起こる可能性があります。」

この恐ろしいことが起こったとき、ナバール・スターは庭の中から別の場所にいたに違いなく、彼らから彼女を守ることができなかったのではないかと思います。

「すぐに連れてきてくれて良かったです。今日、彼女に整形外科手術を施し、損傷を修復することができます。」

クリストファーも私も顔を見合わせた後、同意することになぜいた。

「手術後も以前と同じ状態でしょうか？」

「コイントスだよ。手術後にきれいに治る猫もありますが、そうでない猫もいます。彼女を6か月間屋内に閉じ込める必要があります。」

もう一度、クリストファーと私はお互いに確認しました。

「はい、できます」と私は言いました。

それからトーマス医師は彼女の残りの回復について私たちに話しました。「彼女に登らせたり、飛び跳ねさせたりしないでください」その6か月間。」

彼は穏やかに話し、あたかも昼食を注文しているかのようにその言葉を言ったが、クリストファーは知っていた彼らが私にとって何を意味したのか。彼は私の肩に腕を回しました。

本気で？と思いました。私の大切な空飛ぶ猫？うちのミステール？

彼女のことで私の心は張り裂けました。彼女のこの世での情熱は、この世界を飛び越えることだとわかっていました。木。

「私はそれで働かなければなりません！うわあ。。。」

「手術後、膝関節炎にならないように経口薬の投与を開始します。」とトーマス医師は続けた。彼女を地面に立たせたままにすればするほど、彼女が完全に回復する可能性は高くなります。」

私は彼女の大切な小さな頭にキスをし、私たちは彼女を最高の手に、私たちが知る限り最も有能なケアに任せました。私たちが歩き去るとき、クリストファーは再び私の腕に腕を回しました。

"お元気ですか？"

「怖いし、痛いです。」

"ごめんなさい。"

「帰りに伝道所に立ち寄って、彼女のために祈ってもいいですか？」

"おお。。。素晴らしいアイデアだ、そうだ、そうしよう。"

その日の午後遅く、トーマス医師から電話があり、私たちの美しいブランブルベリーローズは手術がうまくいき、手術後の翌朝には家に連れて帰ることができるとの連絡がありました。
テスト。



私は地元の警察に電話して、家の庭にいる猫を守るために何かできることはないか尋ねました。彼らは私を、私たちの最愛の動物管理官であるクリスティーンと再び結びつけてくれました。

「ブランブルズはどうですか？」

「こんにちは、クリスティーン。彼女は見事に回復しました、ありがとう。でも、別の問題が発生しました。」そして私は何が起こったのか説明しました。

「こんなことを言って申し訳ないのですが、猫は自然の放浪者だと考えられています。犬のように管理することはできないので、状況に対処する方法を見つけなければなりません。私はあなたを助けることができません。本当にごめんなさい。彼らの所有者が誰であるか知っていますか？彼らと一緒に何か解決してもらえませんか？」

"多分。私が試してみます。ありがとう、クリスティーン"

次の日、ブランブルズが家に帰ってきて、私は彼女が戻ってきたことをとてもうれしく思いました。また、彼女にとっても私にとっても多大な忍耐を必要とする旅が目の前にあることもわかっていました。

「大丈夫だよ」と私は彼女に言いました。「あなたのお父さんと私はあなたをとっても愛しています。君と一緒にいるよ。毎その日、ベイビー。私にはあなたがいる！

彼女はあまり歩くことができなかったので、私は彼女に食べ物と水を持って行き、トイレまで彼女を運びました。これは初日はうまくいきました。その後、私たちは彼女の治療中の膝にステップを付けて、飛び降りる必要がなく、歩いてベッドまで登れるようにしました。

私は子猫を守るために何かできることはないかと市議会議員数名と話し合いました。彼らはクリスティーンの見解に同意し、私を助ける方法は本当はないと言いました。私たちの良き友人であるアンソニーは、彼女が小さな赤ん坊で私の革製のバックパックに乗って市議会の会合に来ていたときから知っており、猫が好きだったため、特に心配していました。

「彼女は美しいです」と彼は言いました。「そしてあなたは彼女のことをとても大事にしています。これに関して私があなたを助けることができる方法があればいいのですが。もちろん、何かあったら電話してね！」

黒と白のいじめっ子猫の飼い主は、私たちの通りの同じ側、近所の通りの交差点から2軒ほど離れたところに住んでいました。私は彼女の玄関のドアをノックして、話す時間があるかどうか尋ねました。

「もちろん、どうしたの？」

私が彼女に何が起こったのか、そしてトーマス博士が言ったことを話すと、彼女は下を向いてこう言いました。
彼女は首を左右に振った。「あなたの猫は他の猫を殴っているようです。」

「ブランブルズには本当に申し訳ない。他の近所の人からも聞いたことがあります。」

"本当に？彼らを引き留めるために何かできることはありますか？"

「うーん、。。。私は試すことができます。もちろん、そのままにしておいて、それがどのように機能するか見てみましょう。」

「ありがとう、これがお役に立てば幸いです。これ以上、うちの猫たちに怪我をさせたくないんです。」

私は美しい我が子と平和への希望を抱きながら目に涙を浮かべながら立ち去りました。
ヤード。

ブランブルベリー ローズの人生は変わりました、そして私の人生も変わりました。

私は主に自宅で仕事をしていたので、ブランブルズと一緒にいることを犠牲にする必要はありませんでした。彼女は警察官で、私に彼女の世話をさせ、おやつを持ってきて、彼女がどのようにして自分の人生を取り戻すかについての話を聞かせてくれました。

彼女が私のドレッサーに座って、まっすぐ4フィート近く上を見ているのを初めて見たとき
私は戸棚の上で彼女をそっと思いとどませた。

「ああ、ベイビー、まだだよ。あなたの心の中では、あなたが今でも思う存分高くジャンプできることを私は知っています。。。。でも赤ちゃん、
治るまで待ちます。わかった？愛しています。」

彼女は返事はしなかったが、私の言うことを聞くような態度をとった。。。。今のところ。

私は彼女を楽しませるためにできる限りのことをしました。私は彼女を庭のお気に入りの場所に運び、太陽の下で彼女を抱いて座りました。新しいおもちゃを買って、家の中で一緒に遊んで、いつも彼女を見ていました。

彼女はよく私たちのベッドの端で、柔らかく毛羽立った羊皮を敷いたところで昼寝をしていました。彼女とクリストファーが素晴らしい関係にあったことはもうご存知かもしれませんが、私が驚くほど彼は私たちの赤ちゃんのことを理解していたにもかかわらず、ブランブルズと彼の間、彼が見逃し続けていた会話が一つありました。彼は彼女の豊かな毛皮に触れるのが大好きで、私たちの寝室に来て彼女が眠っているのを見つけたとき、抵抗できませんでした。1匹は許容範囲、2匹はギリギリだった——愛情から私が注意したにもかかわらず——彼は3匹目は歓迎されるだろうと考えていた。そうではありませんでした！まず、彼女は黙って彼に噛みつき、彼が再び彼女を撫でようとすると、彼は爪を立てたまま可能な限り多くの足で彼に会い、二度と同じことをしないように警告しました。

それは毎回同じでした。彼は頭を振りながら手を引っ込めました。

何度も！

「彼女は二匹の子猫です。彼女にできることはそれだけです。」彼がそれをするたびに私は面白かったです。

時々、彼女は遠くから、ほとんど野生のような目をしていました。そして、私は彼女が飛び上がってほしくない場所、またはベッドやソファから飛び降りることを考えていることがわかりました、そして私は彼女を階段に誘導しました。

他の子猫たちにはできないアクロバティックなことを彼女がするのを見るのは、とても楽しかったです。彼女を飛び上がらせないようにするのは至難の業だった。しかし最終的には、彼女と私が解決策を考え、最終的には彼女を地面に立たせたままにしました。

トーマス医師との最後の面談の際、彼はこう言いました。必要に応じて、彼女を庭の外に出させてください。彼女は安定しているので、今何ができるかを教えてもらいましょう。私たちは彼女に抗関節炎薬を飲み続けるつもりです。彼女は残りの人生で痛みを感じなくなるはずです。」

「安全のために室内猫にすべきでしょうか？」私は尋ねた。

「あなたの地域の猫は、夜に連れてこられる限り、ほとんどの場合安全です。日中彼女を家に入れておきたければそうしてください。しかし、ブルブルズは外にいる必要があるように私には思えます。猫の中には、本来室内飼いの猫もいます。彼女じゃない。しかし、それはあなた次第です。」

クリストファーと私は、彼女が自分の世界をどのようにナビゲートするか、ジャンプしたり登ったりできるかどうかを確認するのを待ちました。

私は彼女を見張らずに家の中で好きなところに行かせました。実際、罪悪感を感じることなく1時間以上離れることもできました。私はオフィスの広い窓辺の近くにキャットステップを置き、彼女が登って外の世界を眺めることができるようにしました。

数日が経ち、クリストファーは「今日は彼女を外に出させましたか？」と尋ねました。

「まだ、私はまだ彼女を中に閉じ込めています。そろそろ時間だと思いませんか？」

「それがあなたの呼びかけだと思えます。トーマス博士は大丈夫だと言いましたが、それはあなたに任せます。あなたはそうするだろうそれがいつ正しいのかを知ってください。」

「初めてここに来てみませんか？」

「はい、それはぜひお願いします！」

数日後、私は彼に時間だと言い、彼がいつ帰宅するかを話し合いました。

玄関のドアを開けたのは屋下がりでした。彼女は外に逃げませんでした。ナバルさんはポーチにいて、ブルブルズさんはドアの横まで歩いて外を眺めた。クリストファーは外に出て振り向いて、彼女がついて来るかどうかを見ました。私はまだ家の中にいて、戸口に立っていました。

彼女は顔を空に向けて、何度か短く息をついた。呼吸の自由。

。。彼女のようにだった

そして彼女はそのまま出て行った。彼女は階段まで歩いて庭に下り、立って植物を眺めました。クリストファーと私は二人とも彼女の後を追いかけるようになり、彼女は庭を歩き回ってから、さらに庭の中に足を踏み入れました。彼女の足は以前と同じようには機能していませんでしたが、外に出ることに満足しているようでした。彼女は走ったり木に登ったりしませんでした。彼女はただ庭を歩き回っただけだ。

ヘイリーがブランブルズを見たら問題を起すのか、それともヘイリー刑務所から出ようとするのかは分かりませんでしたが、そうではありませんでした。

ブランブルズ君は1時間半ほど外にいて、それから家に戻ってきました。私が彼女に夕食を用意すると、彼女はベッドに登って寝ました。

「まあ、優しくかったですね。明日も彼女を外に出すつもりですか？」

「そう思います、そうですね。玄関のドアを開けたまま様子を見ていきますが、大丈夫だと思います。」

「あの悪い猫たちを見たことがありますか？」

「いいえ、お母さんと話してから静かになりました。」

それで翌朝、ブランブルズを早めに外に出したところ、彼女は元気でした。彼女は横向きのカリフォルニアオークの木の1本に数フィート登ったこともありましたが、彼女は飛び降りるまで遠くには行かなかったが、木片のおかげで柔らかく着地した。

彼女が外出している間、私は何度か外に出ましたが、彼女は庭で楽しい時間を過ごしていました。彼女はある時、背の高い草の中で丸まって昼寝をしたこともありましたが。そして毎日、彼女と私は彼女が屋外の子猫に戻ったことでさらにリラックスしました。

クリストファーと私は彼女を見守り、庭の彼女のお気に入りの場所すべてに、階段として機能する小さな木のベンチを置きました。

彼女は室内でのキャットステップをうまくこなし、毎週自信を深めていった。

ブランブルベリー ローズはまだ屋外の日当たりの良い場所で過ごすことができました。彼女は安全な場所に登って昼寝をすることができました。彼女は他の猫たちと同じように庭を走り始め、私が呼ぶと駆け寄ってきました。彼女は夜、私たちのベッドに飛び起きました。唯一の違いは、彼女の屋内と屋外の階段として機能する小さな猫のステップとベンチでした。ブランブルベリーはそれらを習得し、すぐに木々を通らずに家や庭を通して飛び回りました。

猫にこんな怪我をさせたのは初めてでした。一年経っても彼女は永遠にいるように思えた。かわった。彼女を見ていると、彼女が以前のようなアクロバットではなくなっているのは明らかでした。彼女の行動範囲は限られていた。彼女は他の猫たちと同じようにまだ登ることができましたが、もう飛ぶことはできませんでした。これはとても気になりました。言うまでもなく、木の枝の間を飛ぶことは彼女自身の大部分を占めていました。

それは観察するのが特別なことだということ。細い枝に沿って自信を持って進んでいく彼女の姿はとても美しかったです。

私たちの平穏な日々はもう終わってしまったのかもしれないと思われた。





7.オレオ、パンダ、リコリス

人生は人生のように進みました。

私たちのカラスの殺害は今でも年に数回、庭を占拠しました。私たちのリスの友達はゼロ戦の空襲から無事でした。ハックルベリーは今でもアンナと隣で時間を過ごしていた。時々、松の木に赤いアライグマの目が集まっているのが見えたが、意地悪な猫は近くにいなかった。そのため、ブランブルベリーローズにとってトラウマはもうありませんでした。

彼女は私の心と私たちの人生の大きな部分を占めていました。仕事中にフレンチドアを出た私のオフィスでは、ロックが解除され、チェーンロックで固定されていました。彼女は、いつでも好きなときに簡単にそれを押して開け、中に入ることができました。毎日、彼女が庭に出ていて帰ってくる、私に向かって廊下を歩いてくる彼女を見て、彼女がどれほど美しくて勇敢であるか、そして私は彼女を永遠に愛していると伝えました。

ブランブルベリーは返事をしなかった。彼女はまだかろうじて声を出していた。彼女はそうするだろうと思い始めていた人生最初の日、彼女はビニール袋の中で声を使い果たし、助けを求めて叫びました。

ある晩、クリストファーと私は家の正面の中庭風のポーチに座っていました。ブランブルズが庭にいたので、私は彼に尋ねました。「なぜこんなことが起こったと思いますか？」彼女は無実だ。なぜ彼女は精神の本質を失わなければならないのでしょうか。

。なぜ私のフライヤーが掲載中止になるのでしょうか？」

「ああ、それは長年の疑問だよ。答えはありません。良いものではありません。私は思う
彼女はうまく対処していますが、それは損失です、そして私はあなたの質問に答えることができません。できればよかったのですが、ごめんなさい！」

ブランブルベリーと私はリズムかそれに似たものを持っていました。私たちは同期していました。彼女が怪我をした後、私は家でもっと時間を過ごすことに決めました。私の旅行は短期間でした。私は彼女と一緒にできるだけ多くの時間を過ごすことにしました、そして私は彼女と一緒にいるのが大好きでした。

クリストファーと私がブランブルベリーローズの5歳の誕生日を祝ったとき、ナバールスターは19歳を超えていました。彼はかつて今も強力な勢力であり、私たちの猫科の家長でした。

覚えているかもしれませんが、クリストファーはナバールと非常に親しく、いつもより多くの時間を一緒に過ごしていました。ある夜、彼はほとんどささやき声でこう言った、「彼は時間と空間のベールを超えて旅行する時が来ました。」

トーマス医師は数週間前にナバールを診察し、ナバールの命が終わりに近づいているので電話するように私たちに言いました。彼は、いつになるかわかるし、ネイヴィーが向こう側に渡るのを手伝うために家に来ると言いました。

到着したトーマス医師は「抱きしめてもいいよ」と言いました。彼はクリストファーに、愛する子猫の隣のベッドに座るよう合図した。

「彼と話してもいいよ。今のところ。。。最初の薬を投与したら帰ってもらいたいのですが、
は一緒にいてね。」

私たちは二人とも愛するナバル・スターにキスをしました。私たちは彼に、私たちがどれだけ彼を愛しているか、私たちはこれからも家族であり、また会えることを伝えました。そして私たちは彼を博士に預けました。
トーマス。彼が私たちが寝室に呼び戻したとき、ナヴァールは丸まって寝姿勢をとり、月のない夜のようにじっとしていました。トーマス博士が彼を連れ去ろうとする前に、私たちは彼と一緒に少しの間座って最後の別れを言いました。

「1時間ほどで彼を連れて行ったらどうですか？」私は尋ねた。

"もちろん。。。ごめんなさい、みんな。"

さらに1時間以上、私たちの大きな黒人の男の子と優しく話し、彼の太い体を撫でた後、
毛皮が黒っぽいので、私たちは彼をトーマス博士のところに連れて行きました。

私たちはこれまで一緒に過ごしてきましたが、クリストファーがこんなに悲しんでいるのを見たことがありませんでした。前に述べたように、彼は黒くて大きな男の子の猫に特に近づきました。悲しみが彼の顔に深く刻み込まれ、その夜遅く、彼は大切なナバル・スターに別れを告げる式典の計画を立て始めた。



私たちのファイヤーリングには、私たちの敷地の一部に自然の植栽の輪があり、クリストファーはそこにナバルの記念碑を建てたいと考えていました。

「彼のために火の輪のそばに木を植えてもよろしいでしょうか？」

「ぜひお願いします。どのようなことを考えていますか？」

「成熟した赤もみじがあるかどうか見てみます。」

「本当にごめんなさい、クリストファー。」

「彼はまだ私と一緒にいます。もう本当に大きくなりましたよ！」

「彼の名前はまだナヴァールですか？」

「彼は今バギーラです。」

「ああ、『ジャングル・ブック』みたいな？」

「とてもクールですね。彼に会えたらいいのに。」

ご存知ないかもしれませんが、クリストファーはイギリスで生まれ、非常にイギリス人の母親に育てられました。彼は幼い頃からピーター・パンだけでなくジャングル・ブックの物語にも親しんでいました。彼は特に、「人間の子」と友達になったブラックパンサーのバギーラを愛していました。

モーグリ。バギーラは孤児の少年の保護者であり指導者だったので、バギーラとしてのナヴァーが今やクリストファーの精神的な伴侶となるのはふさわしいことだった。

翌日、クリストファーと何人かの造園友達は、私たちの最愛の息子を讃えて、庭に優美なレッドドラゴンイロハモミジの木を植えました。クリストファーは実際に、美しい木の新しい家を掘るのを手伝いました。

数日後、私たちがトーマス博士からネイヴィーの遺灰を受け取った後、数人の友人が私たちの神聖な儀式のためにやって来て、私たちはファイヤーリングに火を点けました。日が沈むと、私たちは炎の周りに輪になって座り、大好きなナバル・スターに最後の別れを告げました。

「彼は巨大な猫でした」と友人の一人は語った。「そしてとても平和です。」

「そして、ずっと一緒にね」と別の人が言った。

「ああ、その緑の目！」私たちの友人のステューブンが言いました。

"友達だった。"クリストファーは虚ろになっているようだった。これは今まで見たことがありませんでした。そして彼は決して私を離れる「彼はまだ私と一緒にいます。 。 ことはありません。」

黒人の大きな子猫がまだ一緒にいるという彼の信頼は、私にとって初めてでした。

私たちの猫の家族全員がナバルスターを懐かしんでいたようです。彼らは悲しそうだった。彼らはもっと寝て、あまり遊びたくなくなりました。彼は何年も私たちと一緒にいました。私たちの若い子供たちは生涯を通じて彼のことを知っており、彼の保護を頼りにするようになりました。

「私たちの赤ちゃんは外では安全でしょうか？ナバルはもう彼らを守ることができない。ブランブルベリーローズ、ガール・グレイ、ハックルベリー・ムーン、そして私たちの小さな恐怖のヘイリー・スカイウォーカーは、みんなかわいい赤ちゃんです。彼らを傷つけないでください。」

「彼らは大丈夫なはずですが、今は彼らの安全を守るのが私たちの仕事であり、私たちは子猫の天使たちを信頼する必要があります。」クリストファーはそう見ていました。「次回は子猫と一緒にいて、猫が横断する間抱っこしてあげるつもりです。

。。 その移行期間中に、私たちの小さな子供たちを別れたくないのです。それが何であろうと、私はそれを扱うことができます。私は彼らと一緒にいる必要があります。」

私は一週間泣きましたが、その後、私たちのストイックな少年（愛情を込めてザ・フォンズとして知られています）は大丈夫だったように心の中で感じました。そして、彼らが私たちを離れるとき、彼は静かにどこへでも去って行きました。

ガール・グレイとハックルベリー・ムーンはお互いを愛し合った。彼らはまだ数日間一緒に昼寝をしたり、頻繁にお互いの近くで遊んだりしました。ハックは今でも週に数回、隣の子猫の友達アンナと遊ぶために姿を消しました。ヘイリーは依然としてブランブルベリーに嫌がらせをすることに熱心でしたが、私たちは彼らを隔離していたので、私たちの家には平和がありました。

ある晩、私は玄関に出て階段を下り始めました。そうだった
ちょうどきれいな夕焼けになってきました。私たちの木製の階段の下から、大きくてふわふわした白と黒のスカンクが出てきました。私は歩くのをやめた。

女の子のグレイとハックルベリーは両方とも外にいたので、もし彼らがスカンクに出会ったら何が起こるかわかりませんでした。愛しい読者の皆さん、次に何が起こったと思いますか？ずっと小さなスカンクが最初のスカンクを追って出てきました。そしてもう一つ小さなもの。ずっと何も動かなかった。私は母親と二人の赤ちゃんを見ているような気がしました。

もっと。

三人は私たちの庭で快適そうに見えました。彼らは隠れていませんでしたが、歩いていました
玄関ポーチの階段に続く道のすぐそばだったので、これは彼らにとって新しいことではないと信じざるを得ませんでした。
その頃、ハックが私道の脇道を駆け上がってきました。彼は角を曲がって、すごいスピードでブレーキをかけたんです！彼は立ち止まり、1分ほど動かず、それから静かに私たちの家に入ってきました。数分以内に戻る予定だったので玄関のドアを開けっ放しにしていたら、ハックはリビングルームに姿を消しました。

数分後、クリストファーは戸口まで歩いて行きました。「やあ、なんて美しい空でしょう。
また受賞歴のある夕日が見られるかもしれません。 。 。えー。 。 。どうしたの？」

その時まで、彼はスカンクを見ることができました。「おお、見てください！いくつありますか？」

私は自分が後ろ向きに歩いている場所が見える程度に向きを変え、ゆっくりと家に戻りました。「グレイちゃんはまだ外にいるよ。裏口から彼女に電話してみようかな。」

クリストファーは私たちの玄関ドアの下半分を閉めて、立ったまま彼らを見守っていました。「私は思う
彼らは前にもここに来たことがある。彼らはうめき声を上げていて、快適のようです。」

「何がイライラするの？」

「彼らは前足で地面を掘り、幼虫や昆虫を探します。」

私たちは太陽が沈み始めるのを、新しく来た隣人3人を眺めていました。私たちの庭の照明が点灯し、少女グレイはハックルベリーが通ったのと同じ脇道を歩いて行きました。クリストファーは彼女のために玄関のドアを開けた。彼女は真剣に心配していませんでした。

女の子のグレイはほとんどの日、一人で他の赤ちゃんや鳥、リスを観察して過ごしました。それは非常に目的があるように思えました。まるで心のメモを取っているかのように。彼女はまだ、私がリビングルームに置いたバスケットの中にある小さなディペアの缶で遊んでいた。まるで音楽のようなサウンドを聞きながら一日を過ごすのはとても楽しかったです。彼女はまだベルのおもちゃにはあまり興味がありませんでしたが、他の音は好きでした。

彼女は私たちが買った新しいクリンクルボールのおもちゃが気に入りました。彼女は彼らを追いかけてくたなかったが、彼女は座って、それらを所定の位置に軽くたたきました。まるで、彼らが発する音を聞いたかかったようでした。私の心の中には、彼女が輝く金の星と三日月が付いた、紫色のとがった魔術師の帽子をかぶっているのが見えました。彼女は、人知れず、非常に賢い、別世界の生き物のように見えました。

彼女はスカンク一家が気に入ったようだ。その最初の晩の後、私たちは彼らが次のことを示したのを見ました。ほとんどの夕方は起きています。彼らはとても魅力的で、漆黒の毛皮と劇的な長くて白い羽毛を持っており、尻尾はお祝いのように見えました。少女グレイは時々、玄関ポーチの階段に座って、階段をじっと見つめていました。我が家の他の猫はそんなことしませんでした。彼女は観察者であり、観察していました。。。。とてもたくさんのこと。一部は私には見えませんが、だからこそ彼女が何に注目しているのか理解しようと努めました。

スカンクについて読んで、彼らが嫌いだからスプレーするつもりはないという安心感を覚えました。そして、私の優しく神秘的な猫は、脅威を与えません。驚くと、彼らは攻撃者に向かって、小さな黒い足を踏み鳴らします。ハックルベリーが彼らを驚かせたとき、彼らがそうするのを一度か二度見ました。それが一番可愛くてとても愛おしかったです。アンナを訪ねてから戻ってくると、時々私たちの庭に飛び出してきました。理由はわかりませんが、彼の持ち物のうちの1つです。

まず、ママの名前を決めました。

「オレオについてどう思いますか？」

"完璧！"

ある晩彼らを観察した後、私は赤ちゃんをパンダとリコリスと呼ぶことに決めました。

「赤ちゃんのうちの1人は、もう1人よりも勇敢です。彼女をリコリスと呼びましょう。彼女は私たちの家の近くまで歩いていき、グレイが外に出ても気にしません。一方、パンダはもっと庭の後ろにいて、ハックが飲み会を潰すときに尻尾をふわふわさせます。」

それが私たちの人生であり、私たちはそれを愛していました、そしてそれはただ一日から次の日へと転がり続けました。

数年後、ガール・グレイはもうすぐ17歳になりました。彼女は私たちと一緒にとても優しく長い人生を送ってきましたが、今度は彼女がナバー・スター、彼女の猫の家族、そして向こう側にいるハワイの先祖たちに加わる時が来たのです。トーマス医師の診療所の獣医師助手であるジェニー医師は、数年間私たちの子猫たちの世話をしており、グレイが私たちのもとを離れて天国へ旅立つのを手助けしたいと考えていました。

ジェニー博士はとても優しくかったです。彼女はここ数か月間何度も私たちの家に来て、ガール・グレイを助け、彼女と特別なつながりを持っていました。クリストファーは彼女を、TS エリオットの『オールド・ポッサムの実用猫の本』を基にしたミュージカル『キャッツ』のガンビー猫にちなんで、彼女を「ジェニャニードッツ」と呼んだ。

彼女が渡る日、クリストファーと私は生花を花瓶に生けました。

優雅な玄関ポーチに、とても美しく芳しい香りを漂わせたラベンダーライラックを配置しました

グレー グレーのお気に入りのお毛布、私が彼女のために作ったネックレス、そして近くに彼女のお気に入りのおもちゃがいくつかありました。

ジェニー博士が到着したとき、私はガール・グレイを膝の上に抱きました。クリストファーと私は名前を唱えました

彼女が向こう側で探すことのできた約30匹の猫のうち、それぞれが彼女の兄弟や姉妹だった。

ここにいる間に彼女が知っていた人もいれば、彼女がここに来て初めて会う人もいました。

到着した。

彼女がいなくなったとき、ジェニー博士はこう言いました。「太陽の下に座って彼女を抱きしめても大丈夫です。見たり、何でも聞いてください、教えてください。」

"わかった。"彼女は私が知らない何かを知っているのではないかと思います。「動物は天使ですか？」

彼女はそっと笑った。"なぜそう思うの？"

「彼らはとても賢くて愛情深いようです。」

「いいえ、彼らは天使ではありません。彼らがそう見えるのは、彼らが自分の心で生きているからです。彼らは私たちに愛を示すためにここにいます。それらすべても彼らも私たちと同じような感情を持っていて、そうありたいと思っています。愛されてた。」

その後、私たちは沈黙していました。数分後、私は元気な少女グレイを見た。

彼女の柔らかい銀灰色の毛皮が長くてふわふわしていたこと以外は同じでした。

「彼女が見えます。」そして私はジェニー博士に、ガール・グレイがどれほどふわふわしているかを話しました。

「もっと見ることができますか？」

さらに数分が経過しました。。「彼女の毛皮からは輝きが出ています。」

「前にも見たことがあります。輝きは何なのかわかりますか？」

私たちはさらに数分間、何も話さずに柔らかな午後の日差しの中で座っていました。そして、私は自分の気持ちを感じました。私が心の中で見ていたものを心に留めてください。「その輝きは、私たちが彼女に与えた愛です。彼らはとてもきれいです。。。その愛のすべてが彼女の毛皮から輝き出しています。」

「それは当然ですね、すごい！」ジェニー博士は微笑んでいた。

そして、私たちの静かで神秘的な少女グレイがいなくなりました。

彼女は以前、グレイ少女を診療所に連れて行くか、女性を病院に連れて行くかのどちらかだと私たちに言いました。

翌朝彼女を迎えに行き、火葬まで連れて行ってくださるだろう。私たちは彼女を迎えることに決めていた

搬送されたので、ジェニー医師は私たちに、その夜はベッドに寝かせておくように言いました。

それまでやったことがなかったし、不安もありました。私が眉を上げて目に疑問を浮かべて彼女を見たとき、彼女は私を安心させました。「大丈夫、心配しないで。」何も悪いことは起こりません。彼女をベッドで丸めてさえいれば、大丈夫です。」

私はグレイをオフィスの窓側の席にあるお気に入りの柔らかいフランネルのベッドに押し込み、フレンチドアを閉めました。翌朝、リビングルームを横切ってドアを開けると、ハックルベリームーンがドアの近くにあるソファの端に座っているのが見えました。彼はガール・グレイが横たわっている場所にできるだけ近づいた。私は彼が彼女の近くにいるために一晩中そこにいたことに気づきました。

彼は大好きな妹のために私的な通夜を続けていた。

「彼女のために花を植えてみませんか？」

「ハワイで育つものを植えてもいいですか？」

クリストファーは考え続けました。「生きられる開花植物を思い出せません。どちらの場所にもありますが、庭にあるファイアフラワーはどうでしょうか？移植して広めることができます。」

"おお。。いい考えだ。彼女はペレをととも愛していました。」

数日以内に彼の乗組員が現れ、私たちの背の高いオレンジ色の原住民の一部を移動させました。ナバルの豪華なレッドドラゴン日本のカエデの木の根元の周りの特別なエリアに開花植物を植えます。

「彼女は背の高い草の中にいるのがとても好きでした。」クリストファーさんはこう語った。「そこは彼女だけのプライベートなジャングルだった。彼女はそこでとてもくつろいだように感じました。」

「彼女はそこにいると自分が見えなくなったように感じたようです。」

私たちは火の輪の周りに座り、彼女のために神聖な儀式を執り行いました。ハックとブランブルズ近くを歩き回って、しばらく私たちと一緒に座っていました。特別で美しかったです。

私たちの長年の地元の友人の一人は、ファイアフラワーについて言及しました。「なぜそれらを選んだのですか？」

「彼女の小さなハワイの精神は火の女神ペレを愛しており、私たちはそう思いました。。」

"何だと思う？それらの花は火災があった地域に生えています。彼らはその一部です。最初の植物が成長し、それらは背が高いため、破壊された地域に再播種するのを助けるために鳥が飛んできます。」

「それで、私たちは知らず知らずのうちに、物言わぬミステリアスな少女グレイのために『フェニックスの植物』を選んだんです。」

「そしてそれが彼女が精神的にやっていることであり、灰の中から立ち上がっているのです。おお！」

「本当に美しいですね」クリストファーは静かに言った。

グレイを手放すのは悲しかったです。彼女はとても神秘的で秘密に満ちた美しさでした。私の涙は一週間ほど続きましたが、その後、彼女もまた、目の前の黒人の兄と同じように、静かに音もなく私たちから去っていきました。

ある夜、私たちの感謝の庭を歩いた後、クリストファーが中に入ってきて、「彼女の魂が愛する故郷ハワイに戻ってきたと思います。」と言いました。

"うわあ。。。それは正しいと感じます。かなりクール。"

「おそらく彼女はペレと再会したのでしょうか。」

「火山と火の女神。。。。彼女にとってなんと素晴らしいことでしょう。」

「そして島の先祖たちの霊も。」クリストファーは微笑んだ。

「いつかまた彼女を子猫として迎えらることを願っています。」

赤ちゃんが私たちのもとを離れるのは悲しかったです。二人とも素晴らしい素晴らしい人生を送ってきたことはわかっていました。クリストファーと私は彼らを愛していました。彼らは子猫の家族のことを知っていて、珍しくて魔法のような住む場所を持っていました。それは二人にとって良い人生でした。そして今彼らは安全に向こう側にいます - そしてそれは私を助けました。

ある午後、私は赤ちゃんたちに新しい友達を紹介していました。「あれは、うちの男の子、ハックルベリーです。」そしてブランブルベリーで家の下に。ローズはこの辺のどこかにあります。我が家のミックスベリーです。私はムーンが大好きです。そう言ってる。私は笑った。「それはまた小さな怪物がいます。彼女はヘイリー刑務所にいます。」

彼らは若かった、ハックは14歳くらい、ブランブルベリーとヘイリーは二人とも5、6歳くらいだった。私は彼らが大好きで、彼らと一緒に時間を過ごすのが大好きでした。

ヘイリー・スカイウォーカーは依然として彼女自身の特別な小さな生き物であり、彼女は依然として悪かった。彼女我が家の猫の中で一番大きな足を持っていました。

「彼女の魔法のミットを見たいですか？」ある晩、私はクリストファーに尋ねました。

"もちろん。"彼は少し笑いながら言った。

その時彼女はキッチンにいて、ブランブルズさんは無事に私たちの寝室にいた。ヘイリーのおやつ袋を振ると、彼女は走ってきました。彼女が動いている間、私は彼女の注意を引きながら、おやつをいくつか床に投げました。彼女は稲妻のように堅木の床を駆け抜け、大きなミットで彼らを捕まえました。

"おお。私の。よかったです。もう一度やってもらえますか？"

私はさらにいくつかおやつを投げました。そして、彼は彼女を見ていました。

「彼女は足を開いて、野球のキャッチャーミットのようにキャッチします」と彼は言いました。「すごいですね！彼女をナマズハンターと呼ぶべきでしょう。」

「ナマズハンター？なぜ？」

「彼は何年も前から有名なプロ野球選手です。彼はチームの記録的な勝利試合数を投げたことで有名です。彼女は私に彼のことを思い出させます。」

「私はその名前が大好きです。私たちの小さなナマズハンターです。」

私がさらにいくつかおやつを投げると、彼女は走って追いかけて、大きなミットで止めて、足を開いておやつを拾い上げました。彼女はそれを口に運び、噛み砕いて、もっと見るために私を見つめました。

クリストファーと私は笑っていて、ナマズハンターのヘイリーはたくさんのおやつをもらいました。夜。

とてもかわいかったです、よく噛んでくれました。そんなことをする猫を飼ったことがありますか？彼女私の皮膚を傷つけたことはありませんでしたが、彼女の咬傷はまだ痛いんです。彼女は小さなファイターで、その闘志が彼女に何が起っても、そして若い猫として耐えた多くの手術を生き延びてきたのではないかと思います。

「彼女にはまた新しい名前があるよ」とクリストファーが彼女と遊んでいるときに私は言った。

「愛らしいガキ以外に？」

「噛んだベイビー！」

"まあ、ああ！それが彼女に似合っているよ。"

「愛情を込めてそう言っています。」

年に一度の健康診断の時期が来たとき、私は彼ら全員と一緒にトーマス医師のオフィスに連れて行きました。彼の新しいアシスタントは「このかわいい子たちは誰ですか？」と尋ねました。

ブランブルズを指して、私は彼女を紹介しました。「彼女はブランブルベリーローズで、これはハックルベリームーンです。私たちはそれらをミックスベリーと呼んでいますが、とても扱いやすいのです。」ヘイリーの犬小屋を近づけて、私は言いました。「彼女はヘイリー・スカイウォーカーで、ちょっと悪党なんです。」

アシスタントは微笑みました。「そうですね、確かにそうです。彼女はクールなベリーの名前を持っていません。」

思わず笑ってしまいました。「それを聞くのは二度目です！」



数週間後、私は再びハックルベリーを連れて行かなければなりません。緊急の訪問でした。彼ある午後、足を引かずりながらやって来たので、怪我は見えなかったが、何かがおかしいとわかった。クリストファーに電話した後、私は彼をトーマス博士のオフィスに連れて行きました。

トーマス博士が「意地悪な猫たちは戻ってきたのですか？」と尋ねるのに数分もかかりませんでした。

私はびっくりしました。「私は彼らを見たことはありません。しかし、それは彼らが周りにいないという意味ではありません。彼らの母親が彼らを引き留めていたのです。」

「彼はかかとの後ろに噛み傷を負っています」とトーマス医師は続けた。これは、彼が意地悪な猫と衝突し、ハックルベリーが立ち去ろうとしたとき、意地悪な猫が彼を噛んだことを示しています。」

私はとても動揺しました。彼らが戻ってくるかもしれないことをどうして私は見逃していたのでしょうか？

「この種の怪我は異常に痛いので、悪意のある猫が戻ってきたのだと思います。彼らは猫テロリストのように行動します。猫の自然な順序では、1匹の猫が口論から後ずさりして立ち去ろうとすると、攻撃した猫も立ち去るべきです。そんなことは起きなかったんだ！」

"ああ、神様！"

「彼は大丈夫ですが、今は彼を室内に留めておいてください。私は彼に抗生物質を与えています。これらの猫はそうではありません。猫は自然のルールを守り、他の猫を捕食して危害を加えます。彼らは他の猫を殺すことができますと信じています。」

その情報をどうすればよいのでしょうか？

家に帰ったら悪い猫のお母さんと話すつもりでした。

その夜、私は彼女のところに立ち寄って、二匹の猫について尋ねました。

「とても良いものですが、中に入れておくことはできません」と彼女は言いました。「彼らは家の中で暴れ回ります。泣きながら窓から窓へ走り回ります。それで彼らを外に出しました。」

「どれくらいの間彼らを外に出していたのですか？

"数日。"

私は彼女に私の可愛い息子ハックの話を話しました。「つまり、あなたが彼らを閉じ込めている間、私の猫たちは安全でした。」

「やあ、ごめんなさい！」

「鈴の首輪をつけてもらえますか？」

「はい、試してみましたが、両方とも盗られました。数分で！」

立ち去るとき、私は首を振っていました。大声で。 。 。 "さて何をしようか？"私は自分自身に尋ねました

その夜遅く、クリストファーが帰宅したとき、私は彼に何かアイデアがあるかどうか尋ねました。

「以前に SPCA に電話しましたか？もしかしたら彼らにはアイデアがあるかもしれない。」

「もう一度試してみることができます。」

「犬を飼いたいですか？」

"うわあ。。いい考えだ！"

「犬の鳴き声を録音して怖がらせてやればいいんじゃないでしょうか？」クリストファーは間抜けな笑みを浮かべていた。

その夜、私たちの赤ちゃんたちはみんな家の中で寄り添っていました。ハックルベリーは眠りたかったのですが、私のオフィスの窓側の席で丸くなっていました。ブルブルズとヘイリーはドアの側に無事でした。私たちは彼らが安全であることを知っていました。

「明日、ステレオ担当のマックと会う予定なのですが、彼は私たちを助けてくれるかもしれないって言ってました。」

「吠える犬と一緒に？」

「はい、学んだことをお話しします。」

翌朝、ブルブルズが寝室で寝ている間、ヘイリーは外に出たがりました。私はそこにおいて彼女を見守ることができたので、彼女は安全だと思っていました。何が問題になる可能性がありますか？
右？玄関のドアを開けたままにして、すぐに網戸から外に出られるように裏口のドアを開けました。私は何度か外に出ましたが、彼女は太陽の下で新鮮な草をかじって楽しんでいました。

私が屋内に戻り、キッチンに立っていると、これまで聞いた中で最も大きく、最も悲惨な叫び声が聞こえました。すぐに外に出ることができなかったのも、こんなに近くにいられたことにとても感謝しました。悪い白黒猫の一匹がヘイリーの首を掴んでいたのです！

彼らは私から約12フィート離れたところに立っていたので、私は猫に向かって走って行き、「放して！」と叫びました。ここから出ていけ！"

しかし、親愛なる読者の皆さん、どうだろう、彼はそうではなかった。

フェンスの修理をしていたので、近くに長いフェンスの棒が数本ありました。私
続けて「彼女を放して！」と叫び続けた。彼女を行かせて！ここから出ていけ！”

フェンスの支柱を拾ったとき、彼は後ずさりするだろうと思った。

彼はそうしなかったので、私はそれを彼の頭上に上げて、彼の隣の地面に叩きました。まだ叫び続けてた
しかしヘイリーは黙っていた。私は再び地面に叩きつけられ、ついに彼は彼女を放して後退させました。しかし、彼は立ち去る代わりに、ただ立って
私を見つめました！私は彼女を抱き上げてすぐに博士に電話しました。
トーマス。

「彼女を連れてきてください。今すぐ彼女の姿が見えます。」

私はすぐにクリストファーに電話し、彼女の柔らかいふわふわの毛布でヘイリーを包みました。
彼女は生きていましたが、動かず、とても静かでした。

トーマス医師は彼女を診察台に置き、彼女の安定性を含めて検査しました。
脚。「あと15秒あれば、彼女は死んでいたでしょう。文字通り数秒だった、アンバー！」

ヘイリーはテーブルの上に立って、彼女を撫でさせた。「彼女は大丈夫です、怪我はしていません。そうでしたか
いじめっ子の猫の一人？」

"はい！”

「幸運なことに、あなたはとても近くにいました。」彼は眼鏡越しに私を見て、それから彼女の下をこすりました
顎。「そして、あなたはなんと素晴らしい叫び声をあげる人だと聞いています！」彼はとても優しく彼女に触れた。

「クリストファーと私は屋外スピーカーを設置して、吠えている犬を爆破しようと考えています」
録音。その計画についてどう思いますか？」

「それはうまくいくかもしれない。。。」「そして、あなたを助けてくれそうな人がいます。」と彼は考えているかのように下を向
いて目をそらしました。

"お、可愛い！ありがとう、そしてここに来てくれてありがとう。クリストファーに電話したいけど電話するよ
彼に電話してもらってください。」

「今日の午後遅くにはここで、あるいは今夜は家で彼と話すことができます。」

ヘイリーはまだとても静かだった。彼女が家に帰ったとき、彼女は何か食べ物を欲しがったので、私は温めました
新鮮なオーガニックチキンと、素敵な調理済みのエビが追加されました。その後、彼女は眠りに落ちた。ハックとブランブルズはすでに中にいた
ので、そのまましておきました。

愛しい読者の皆さん、覚えているかもしれませんが、私が意地悪な猫のいじめっ子に遭遇したのはこれが初めてではありませんでし
た。私は、ナバルの猫の父親であるブーツと、彼が小さな子猫をどのようにいじめていたかを思い出しました。しかし、私はこの2匹のテロリスト
猫ができることのようなものを見たことはありませんでした。さて、私たちの子猫3匹はすべて、これらの凶悪な生き物によって傷つけられていました。この
脅威を終わらせる必要があったのです。

その夜、クリストファーと私は通りを3軒ほど歩いて、隣人に何が起こったのかを話しました。私は彼女の猫を傷つけたくなかったが、ヘイリーを殺しそうになったことを彼女に伝えました。「彼らは犬を怖がりますか？」

「ああ、彼らは犬の鳴き声を聞くと逃げます。私が散歩に行くと彼らは私についてきますが、犬が吠えると彼らは走って家に帰ります。こんな事になって本当にごめんなさい！」

クリストファーと私は顔を見合わせた。「これはいけるかもしれない！」

そこで、私達の子猫たちは家の中にいて、トーマス博士の助けを借りて、クリストファーさんは犬が吠えたり、走ったり、数匹の犬のうちの1匹がケンカしたりうなり声を上げたりして遊んでいる様子をいくつか録音しました。私は子供たちに、これから何が起るか、怖がらないようにと話しました。私は家の中で録音をそっと再生し、子猫たちを観察しました。全員が音の発生源の方を向いたが、誰も逃げたり隠れたりしなかった。私は、犬たちは彼らの友達であり、外では安全に守ってくれるだろうともう一度言い、おやつをあげました。

"それらの名称は何ですか？"

「犬は？」

「映画『ホームワード・バウンド』のチャンスとシャドウがずっと好きでした。」

クリストファーはまだ考えていた。

「フラッシュはどうですか？」

"おー、それはよかったです。チャンス、シャドウ、フラッシュ。私たちは外に出て彼らに電話します。完全に偽物あの悪い猫たちは出て行け！"

それから数日間、私はそっとCDを再生し、子供たちにおやつを与えました。私は彼らに、チャンス、シャドウ、フラッシュが彼らの新しいナバールスターであると言いました。

「彼らはあなたの安全を守ってくれるでしょう。」そして私は彼らにもっとおやつを与えました。

私がCDを再生するたびに、彼らは猫の警戒心を始めました。彼らの目は大きく暗くなり、吠え声の源を見つめ、耳はまっすぐ上を向いていましたが、それでも逃げたり隠れたりしませんでした。

約3日後、クリストファーがスピーカーを設置し、私たちはそれをステレオシステムに接続しました。スピーカーからCDを再生できましたが、吠え声は屋内ではなく屋外で聞こえました。独創的でした。

SPCAは、大型犬や他の猛獣の尿を採取することを勧めたので、マウンテンライオンの尿のスプレーボトルを注文しました。フェンスライン全体にスプレーしてみました。それだとは言えなかった

子猫は気にしていないようだったので、それがうまくいくかどうかはわかりませんでした。4〜6週間ごとに、そして時折雨が降った後にスプレーするつもりでした。

私たちは徐々に犬のコーラスをより頻繁に、そしてより大きな音で演奏しました。ヘイリーはほとんどの日をヘイリー刑務所で過ごしたので、それはまったく気にならなかった。ハックルベリーの足は見事に治っていたので、彼とブランブルズが外に出たときはいつも、私が最初に犬のコーラスを演奏しました。数分間流して音量を上げ、敷地内を歩いた後に放しました。彼らが外出している間、私は間隔を置いてそれを演奏しましたが、彼らは気にしませんでした。クリストファーと私は毎日「犬たちに電話をかけました」。

そして、どうでしょうか？私たちは二度といじめっ子の猫に会うことはありませんでした。

私たちの子猫たちは再び庭に安全に戻りました。私ที่บ้านにいるときしか外出できませんでしたが、私が在宅勤務をして以来、彼らはまた楽しい生活を取り戻しました。



その年の秋、私たちの小さな町では市長選挙があり、私たちの友人である現市長のサラが再び立候補していました。私は自宅を集会所として提供しました。その家は1924年頃に建てられ、私たちのコミュニティの元々の特徴を保っていたので、友人たちはそれがうまくいくだろうと同意しました。目の前の通りには簡単に駐車できるスペースがたくさんあり、薄い白塗りの透明な杉の壁と天井を持つ広いリビングルームは、古い山小屋のようでした。巨大なレンガ造りの暖炉が部屋の中央にあり、元の波状ガラスがまだ残っている幅広の複数枚の窓の間にありました。

会議の日は晴れて暖かかったです。玄関のドアを開けて椅子を並べた
そして入場テーブルにクッキーと炭酸水を置きます。すべてがスムーズに進みました。ブランブルズは眠りたかったので、私たちの寝室で安全でした。便利な廊下のドアが閉まったので、ヘイリーとハックは好きな場所を自由に歩き回ることができました。

たくさんの方が来てくれて、みんなで楽しい時間を過ごすことができました。サラが到着した後、近所の何人かに挨拶すると、彼女は暖炉の前に立って話し始めました。

数分後、ヘイリーはキッチンから這い出て廊下に立って、広い部屋に座っている人々を見渡しました。それから彼女はキッチンから飛び出し、サラの前のリビングルームを横切り、開いた玄関ドアを通して外の玄関ポーチへ出ました。

いくつかの笑い声がありました。サラは自分が自分の人生で何を達成したかを私たちに語り続けました。昨期のこと、そして今後の就任時期についての彼女の計画について。

誰がまた現れたと思いますか？

もちろん、それはヘイリー・スカイウォーカーでした。

今度は、彼女は敵の通路を偵察しているかのように、しばらく玄関先に立っていたが、それから彼女は玄関から、椅子に座っている人々の前で、サラが立っている場所まで走って、そして部屋の中に入った。台所。彼女はほとんどの猫のように走ることができず、体が小さかったことを覚えておいてください。そこで彼女は、船の舵のようにまっすぐな後ろ足で彼女を追いかけ、大きな前ミットを持って、再びサラの前に突進し、キッチンに戻りました。

今度は部屋にいる全員が笑っていた。サラはしばらく黙っていた。「まあ、私はこれまで猫に騙されたことは一度もありません！」彼女は首を振った。

ヘイリーは彼女にいくつかの票を集めたと思います。彼女は再び私たちの市長となり、納得のいく過半数で勝利しました。



ハックルベリー・ムーンは、私が今まで知った中で最も優しい子猫でした。彼は自分の性格に強い同情的な部分を持っているように見えました。彼は大きくて丸い目、前足には白いミトン、後ろ足には白いブーツを履いていました。彼のコートは灰色のぶちのようなもので、胸と鼻は白いものでした。時々、満月が彼の顔に輝いているように見えました。それが彼のミドルネームの由来です。彼はみんなを、そして子猫たちを、ヘイリーさえも愛していました。彼女がガキであることは彼にとって問題ではなかった、とにかく彼は彼女を愛した。

彼は彼女と遊んで、すべてのおもちゃを彼女に持たせ、追いかけてこをしたときに彼女を勝たせました。つまり、ヘイリーは子猫の上司ではありませんでしたが、ブランブルズを除いて、彼女は意地悪ではありませんでした。

数年後、私たちのかわいい男の子、ハックルベリー・ムーンが約16歳半になったとき、トーマス医師はハックの腎臓が健康ではないことを私たちに知らせました。

「私は彼に毎週皮下輸液を与えることができます。あなたが彼を連れて行くこともできますし、ジェニー博士が連れてくることもできます。あなたの家に来てください。」

「私たちはガール・グレイと同じことをしましたが、彼女は何ヶ月も元気そうでした。彼がこの治療にどれくらい満足できるかわかりますか？」

「もちろん、猫はそれぞれ異なりますが、彼のマーカールはかなり高いので、私が彼を快適に保つことができるのは数か月間だけだと思います。」

クリストファーと私は顔を見合わせた。「わかりました、ありがとうございます。」私たちはこの訓練を知っていました。

ハックルベリーの後に、私たちと一緒にこの小さな町に引っ越してきた他の二人の赤ちゃんをすでに亡くしていたので、残るのは未っ子の二人だけです。深く考えるのは楽しいことではありませんでしたが、私は彼が兄であり保護者であるナバール・スター、そして彼の特別な友人であるガール・グレイとともに思い出に残る人生を送ってきたことを知っていました、そして彼が霊界で再び彼らに加わることを知っていました。

私たちがディアナに話したところ、彼女は玄関ポーチで彼と彼の子猫の友達のアンナのためにおやつパーティーを開いてくれました。

私たちはハックが欲しいおやつをすべて与え、ハックが安全であることを確認するために外出中は一緒に外にいました。ある日、彼の治療中にジェニー医師は私たちにこう言いました。「彼は先週ほど幸せではありません。」

クリストファーと私は、分かった時点で彼を手放すことをすでに決めていました。

「いつ来て彼を横切ることができますか？」

「彼は今日も明日も大丈夫です。では、今から3日後なら大丈夫ですか？」

「クリストファーのスケジュールを調べてお知らせします。」

「ごめんなさい」と彼女は言いました。

「私もそうだけど、これが人生なのだから、彼らと別れるよりは、彼らと交わるほうがいいのよ。」

約束の前夜、彼を家に置いておいたのですが、彼が行きたがったので、外には、春の草や花を一腕分持ってきました。香りのよい新鮮な植物で巣を作りました。私は彼を深さ約8インチの新鮮な緑と柔らかな花で囲みました。彼は植物の輪に囲まれることにとても満足しているようで、夜のほとんどをそこで眠っていました。

彼の妹にしたときと同じように、私は玄関に座って彼を抱きしめました。すべてのリストがありました。私たちが子猫の赤ちゃん。クリストファーは私たちの隣に座ってこう言いました。「素晴らしい子猫の家族があなたを待っています。彼らは皆、あなたを愛し、あなたと遊びたいと思うでしょう。」彼は、私たちが小さな男の子バグスに出会う何年も前に、最初から始めました。

「まず、秋と地球、蠍座の月とその赤ちゃんたち、ヘチザ、グアポ、ガストです。」

「彼らは私にとって初めての赤ちゃんでした。」私は言いました。

「それから、エンジェルとクリアベア、ミスター・ポー・ジャングル、マレーネの子猫であるヨーダ、そして4人がいます」他の子猫たちは家を見つけて、新しい家族から名前をもらいました。」クリストファーは続けた。

「アメリア キティ ハート、ペネロペ、そして彼女の3人の小さな美女: バンディット、ジャッキー」が表示されます。紙とシンバ。」

「私たちがあなたに出会う直前まで、彼らは私たちと一緒に住んでいました。」私は言いました。

「幼い頃から知っていた二人です。アンナ・プルナヴァールとジャスミン・ローズバッドです。」

"そして、ついに。あなたの最高の相棒 :ナバル・スター。そしてもちろん、甘い、甘い、ガール・グレイ。"

「彼らはみんなあなたの家族で、あなたと一緒に遊ぶのを待っています。寂しくなるけど、またみんなで会いましょう。私たち全員はまだ家族です。私たちはあなたを永遠に愛しています。」

「時間と空間のバールを超えて、小さな相棒。」クリストファーは彼の頭を撫でた。

そして私たちの可愛い息子はいなくなっていました。



ジェニー博士は彼を私たちに残してくれました。彼女は、ガール・グレイを火葬した女性が朝には来ると言い、立ち去った。

クリストファーと私はまだポーチに座っていました。私はバッグスを膝の上に抱えて、彼にそっと話しかけました。

そして私たちは耳を傾けました。

"彼はここにいます！"デリケートな部屋に座っている間、私はささやきながらクリストファーの手に手を伸ばした
昼下がりの静寂。

ガール・グレイが向こう側に渡ったあとに見たのと同じように、私はハックルベリー・ムーンの魂が柔らかい緑の草の中を歩いているの
を見ました。

「彼は草から飛び上がった！」私は笑った。「彼は前足と後ろ足をカチカチ鳴らしました」
一緒に。レプラコンみたいに。前足と後ろ足をカチカチ鳴らしているよ！」

クリストファーは微笑んだ。「なんて優しい、優しい子なんだろう。」

それからハックルベリー・ムーンは私たちの前から消えてしまいました。

「彼は今、アンナ・プルナヴァールとジャスミン・ローズバッドと再会しています。。。そしてナバル・スターと彼の
お気に入りのガール・グレイ。」

「そう考えると心が救われます。」

その夜、私たちは彼をお気に入りの植物や花の入ったフランネルブランケットにくるんで残しました。
彼の周りに押し込められました。翌朝、物腰柔らかな女性が彼を迎えに来たとき、私は彼と少女グレイの遺灰を彼女に手渡した。私のか
わいい赤ちゃんたちは一緒に火葬され、私は彼らの遺灰を同じアルダー材の思い出の箱にそのまま保管してきました。

「彼のために地元の草や花を植えましょう。」

「ナバールの赤いカエデの木のあたりでしょうか？」

「そう、ハックのお気に入りの場所からいくつか移植して、ガールグレイのファイアフラワーの周りにハックを偲んで素敵なコレクションを作ることができます。」

これには私も笑顔になりました。"私はそれが好きです。はい、ありがとう。"

繰り返しになりますが、私たちは美しく、貴重で、最愛の小さな息子のために聖なる火を燃やしました。

「キティ・ジャムの中で彼ほど優しい魂を持った人を私は知りません。」

「初めて彼に会った日のことと、彼が私を追って家に入ってきたことを覚えています」とクリストファーは微笑んだ。「他の人はみんな前庭にいたのに、彼の身長は7インチほどしかなかったのに！」

私は彼がどれほど小さかったか、そして他のことは何もなかったかのようにクリストファーの後ろをぶらぶら歩いていたことを思い出しました。

ブランブルズは黙って私たちに加わり、しばらく座って見守っていました。

「彼女は何か起こっているのか知っていると思いますか？」私は尋ねた。

"私はします。あなたは？"クリストファーは、私がまだ疑問に思っていた多くのことについて、とても自信を持っていました。

「彼女を見てください、彼女はそうしているように見えます。彼を愛することはなんと光栄なことでしょう。彼が私たちの家族にいてくれて本当に嬉しかったです。」

「そしてこれからも永遠に」クリストファーは穏やかな確信を持って言った。



ハックベリーが去った後、私たちの生活ではいくつかのことが変わりました。私たちの最愛のトーマス博士。退職して別の州に移りましたが、ジェニー医師が診療を引き継ぎ、クリストファーは州外で素晴らしい設計施工の仕事に就きました。それは彼がいなくなることを意味していましたが、私たちは毎日少なくとも2~4回は電話で話し、私はオンラインで彼のプロジェクトを手伝いました。

それは大規模な住宅地であり、数年はかかるだろう。クライアントはとても彼のアイデアと専門知識に感謝します。彼らはクリストファーに、自分たちの土地と新しい家の設計に彼の並外れた魔法を自由に働かせることにしました。

猫が2匹になったので、ブルンベリーローズはさらに私に近づいてきました。私はヘイリー・スカイウォーカーが妹ともっと仲良くなれることを願っていた。しかし、彼女は依然として、家の下、または家の別の場所で一人で時間を過ごさなければなりません。私は頭を振って考えました :彼女は単にブルンベリーが好きではなく、彼女が地球上にいることを望んでいないように思えます !

Brambleberry Roseと一緒にいるのはとても楽しかったです。私は彼女の世話をするのが大好きでした。私はブルンベリーとヘイリーの特別なおやつを購入し、有機栽培の鶏肉と持続可能な方法で繁殖されたエビを使った彼らの大好物の食事を準備しました。朝、私は鳥のさえずりを聞くためにヘイリーを玄関ポーチに運び出し、ブルンベリー・ローズが庭を探索している間彼女を抱きしめました。彼女は何かを調査するために歩き回っていましたが、遠くには行かず、私が彼女に電話するといつも来てくれました。

良い。 。時々彼女は私を少しだけ待たせた。そんな時、彼女に電話したとき名前を聞くと、彼女は私にメッセージを残しているように感じました。「必ず連絡します、約束します！」





8. あなたの猫はとても賢いようです

ブランブルベリー ローズが14歳を過ぎて6か月になった年に一度の検査の際、ジェニー博士はこう言いました。彼女の血液検査は完璧です。彼女は年齢よりもはるかに若い猫のように見え、動きます。」

「そう言ってくれてありがとう！たぶん、あと5年は彼女を飼うことになるだろう！」

「そう思わない理由はない。彼女は素晴らしいですね。」

彼女は生涯を通じて、そのようなクリーンな猫の食事を食べてきました。たぶんそれだと思いました理由。また、私は彼女の人々に食べ物も与えました。彼女の大好物である調理済みのエビと鶏肉、刻んだウィートグラスの新芽と新鮮なほうれん草、そして栄養酵母と猫のサプリメントを混ぜたものです。庭では殺虫剤を使用せず、家ではオーガニック洗剤のみを使用しました。少し太りすぎであることと、前十字靭帯損傷による足の動き方に違和感が残ること、あるいはそうでないことのほかに、彼女には健康上の問題はありませんでした。いじめっ子の猫たちは少し前にどこかへ去っていったので、彼女は庭にいて安全でした。とても綺麗で健康だったので、猫を飼っていた経験から、あと4〜5年は飼えるだろうという安心感がありました。

私たちに長く愛に満ちた未来が待っていると思いました。これ以上に幸せなことはありません。

私が彼女の試験について彼に話すと、クリストファーは喜んでいました。「うわあ。。。幸運にもブランブルズに出会えました！基礎のこの部分の設置が終わったら、数日間家に帰ります。」

15年目に入って7か月が経ち、私は彼女の食べる量が減っていることに気づきました。それだけです。見ました数日間彼女と一緒に過ごし、私は彼女の体重を量りましたが、彼女の体重は減っていませんでした。彼女も同じように見えました。彼女も同じように行動しました。

「他の誰かが彼女に餌をあげていると思いますか？」

「それで、どうしてそんなことがあり得るのでしょうか？」クリストファーは尋ねた。「近くの家はほとんどが別荘なので、休日やたまに週末以外は誰もいません。」

「たぶん、彼女を家の中に入れて、何か変化があるかどうか見てみるつもりです。」

私が彼女を家の中に閉じ込めている間、クリストファーは再び家に戻っていました、そして私たちは二人とも何かが起こっていることに気づきました間違っている。クリストファーが再び出発しなければならなかったのもその時だった。出発する直前に、彼はブランブルベリー・ローズにキスをした。

「さようなら、貴重な美しさ。」

そして私には、「心配しないで、すべてうまくいくよ。」

愛しい読者の皆さん、覚えておいてください。彼女が完璧な健康状態にあると私が知らされるほんの数週間前でした。の翌日、ジェニー医師は彼女を診察し、「彼女の全身に低悪性度の何かがある」と言いました。

これは月曜日に起こりました。X線検査では怪我はありませんでした。彼女の血液検査には、何か特定の異常を示すものは何もありませんでした。翌日、私はスティービーに電話し、何かが起こっていることを伝え、彼女はブランブルベリー・ローズを彼女が働いていた獣医師に連れて行くように勧めました。「彼らは何らかの答えを持っているかもしれない。」

新しい医師の診察中に、彼女のお腹の毛を剃ったところ、打撲傷があることが判明した。

「彼女は毒ネズミを食べた可能性があるので、ビタミンKを与えました。」

彼女がそこにいる間、2人の医師と数人のスタッフを含む数人が彼女についてコメントした。「あなたの猫はとても賢いようですね。」

ある人は「彼女はとても穏やかな人だ」と語った。

「彼女は特別な猫だよ！」

「彼女が生後1日目からスティービーが手で育てたことを知っていますか？」

「今朝、スティービーが私たちに話してくれましたが、それが彼女がそうなる理由ではなく、それは彼女の性質なのです。彼女はレア。」

翌日、何かがひどく間違っていることに気づきました。私は彼女をジェニー博士のところに連れて帰りました。「彼女に超音波検査を受けさせたいのですが。」

私は彼女のオフィスで待っていました。ジェニー医師が彼女を私のところに連れ帰ったとき、彼女はこう言いました。「彼女にあらゆる検査をしましたが、彼女はずっと穏やかでした。彼女は並外れた知恵を持っています。。力強さと静かな平和の感覚。」

彼女はまた、検査では誰も聞きたくない内容が示されたとも述べた。「がん腫瘍がいっぱいになってしまった」彼女のお腹の部分です。」

彼女はとても穏やかにそう言ったので、私はおそらくショックを受けたでしょう。

「もっと致命的ではない方法はないでしょうか？」

ジェニー博士は、検査は正確だったと私に保証してくれました。「これは侵襲性のタイプです。病気。猫の腫瘍専門医に相談することをお勧めします。」

これは金曜日の夕方起こりました。ジェニー博士はクリストファーと電話で話し、状況を伝えました。

週末、私はできる限りのことをしました。私は彼女に食べ物を食べさせ、水を飲ませようとしていました。ジェニー博士は私に、水と混ぜた消化用の栄養パウダーをくれました。彼女はそれをとても気に入っていましたが、ほんの少ししか食べることができませんでした。私は彼女に、深く、何度も、何度も愛していると言いました。博士。ジェニーは胃の部分を吸引しており、ブランブルベリーはより快適に見えました。

私はウィリアムに電話して、何か役立つ洞察がないか尋ねました。「時間が来たら彼女が教えてくれるでしょう。彼女がいつ薬を飲めなくなるかが指標となる。」

日曜日までに、私たちは困難に陥っていることがわかりました。彼女はその素晴らしい混合を維持できなかった。彼女はダウンが大好きでした。私がそれを彼女の前に置くと、彼女はいつもそれを飲もうとしましたが、魅力的な香りを吸い込んだ後、ただ頭を後ろに引っ込みました。

月曜日の朝、私は BrambleBerry Rose を持って Dr. Jenny のところに戻りました。

「こんなことを言うのは本当に残念ですが、彼女と知り合い、彼女の主治医になれたのは光栄でした。でも、彼女が去る時間だ。」

その日の午後遅く、ジェニー博士とそのチームが私たちの家に来て、私の魂、心、愛するブランブルベリー・ローズをエンジェルたちのところへ安らかに送り出しました。



過去に、私たちの最愛の人が亡くなったとき、クリストファーは私と一緒にいました。しかし、彼はそう早く戻ることはできず、ブランブルベリー・ローズが旅立って天国に行く時間だったので、私は彼と電話で話した後、私たちが学んだことをすべて実行しました。

私は破壊されました。悲しいを通り越して悲しく、強くなり、彼女のために愛情を注ごうとしています。私は彼女のお気に入りの毛布を用意し、リビングルームで彼女を膝の上に抱きながら、彼女を待っているすべての猫の名前を唱えました。

ジェニー医師が最初の注射を行った。しかし、彼女はブランブルベリーの静脈に薬を注入することができませんでした。彼女は驚いて、「彼女はもう行ってしまったのです！」と言いました。彼女は私を見上げて繰り返しました。こんなことは今まで見たことがありません。彼女は助手の方を向いて、もう一度言いました、「彼女はいなくなりました！」

彼女の獣医助手はブランブルベリーの心臓に耳を傾け、彼女がもう私たちと一緒にいないことを確認しました。ジェニー博士のチームは彼女との仕事を終えて、彼女を私のもとに残しました。彼らは、私がしばらくしたら彼女を診療所に連れて行き、火葬に連れて行くことができることをすでに知っていました。

BrambleBerry Roseが再び飛ぶために地球を離れたときに私が見たものを話したいと思います。しかし、私は何か魔法のようなことが起こる可能性があることを知っていましたし、その後に備えていました。私はガール・グレイとハックルベリー・ムーンで経験したことがありますが、それは私を驚かせました。

彼女を抱きしめていると、彼女が体から離れるのを感じました。私の心の中で、彼女の魂が抜け出してそこに立っているのが見えました。私の前に。彼女はほっそりしていて、機敏で、そして強かった。彼女は振り向いて私を振り返り、そして彼女は彼女の顔には微笑みが浮かんでいる。そのとき私は、「猫ってどうして笑うんだろう？」と思いました。彼女は重みから抜け出しつつあると感じた。彼女の体は後ろにあります。霊界での彼女と以前の彼女の違いを私は目の当たりにしました。ここ地球上で。それは大きな違いでした。私は、彼女が再び本当の自分であることに安堵したのを感じました。

彼女はまたミステールだった。

私は夕方の方の光の中に座って、彼女を抱き、彼女の豊かな毛皮を撫でたり、触れたりしました。美しい顔。"私は心からあなたを愛しています。私はあなたを永遠に愛します。そして今まで、あなたのお父さんもそうでしょう。あなたはとても美しい。とても強く勇敢です。"

私がクリストファーに電話したとき、彼はまた、彼女をどれほど愛しているかを彼女に伝えました。彼女が彼のものだったこと。永遠の愛。

約40分後、何か素晴らしいことが起こりました。心の中で、次のように聞こえました。彼女はとても優しい声で、「それは私じゃないよ、お母さん」と言いました。一時停止がありました。今すぐ私を彼らのところへ。それから彼女はこう続けた。連れて行ってください。」

そしてこれはほんの始まりにすぎませんでした。





9. 大丈夫だよ、ママ

私たちの最愛のブランブルベリー・ローズがこの世を去ったことをスティービーに伝えると、彼女は私のソーシャルメディア投稿のブランブルベリーの写真の下に次のように書きました。あなたへの愛がたくさんあります。翼を楽しんでください。」

彼女が天国に行って二日後、まだ晴れた朝の光の中、私は歩いていました。暖かい午後に彼女がよく寝ていた場所を通って、私たちの庭に行きました。私が彼女の名前を大声で言うと、「大丈夫だよ、お母さん」という彼女の声が聞こえました。

私は自分のことを母親とは呼びません。私には子供がいませんが、またしても興味深いことに気づきました。まるで私に話しかけているかのように聞こえ、私をママと呼んでいるのが聞こえました。

たとえあなたが読んだように、私は何年も前に向こう側からのささやきを見ていました。私たちの大切な愛のうちの二人はキティ天国に行きました、そしてブランブルベリー・ローズが生きている間に興味深い経験が起きました、私はこの世を去ったばかりの私の猫が私の思考を通して静かに私とコミュニケーションを取ることに慣れていませんでした。

私はウィリアムに、ブランブルベリー・ローズから連絡があったと伝えました。「彼女は私の心の中で話しかけてきました。彼女は、はっきりとした、ほとんど聞き取れるような言葉を持った甘い声を持っていました。」

彼はためらうことなくこう言いました。「動物は思考を通じて私たちとコミュニケーションをとります。彼らは彼らが私たちと一緒にいる間にそれを行うと、向こう側からそのように通信することができます。」

彼はさらに、「彼らは向こう側のことを話すことができる」と付け加えた。

これは私にとって新しい情報でした。

「ブランブルベリー・ローズはとても美しく話します」と彼は続けた。
天の言葉。」

「私たちはかなり前からお互いのことを知っていますが、どうして私はこのことを何も知らなかったのですか？」

「彼女の訪問を記録する日記をつけてみるとよいでしょう。覚えておいてください、彼女があなたとコミュニケーションを取っていると思うときはいつでも、実際にそうしているのです！」

彼は、彼女がさまざまな微妙な方法で私に連絡を取ることができると言い、私がオープンであり続けることを提案しました。私が思っていたことはすべて彼女からのメッセージでした。

私がクリストファーに、ウィリアムが私に話してくれたことについて知っているか尋ねたところ、彼はこう言いました。それは理にかなっている。そして、ある意味、ナバールに何が起きているのかを理解するのに役立ちます。彼は車の後部座席で私と一緒に旅行していることを知っています。」

「あなたはそれについて私に話しました。ああ、今ならわかるかも！」

「戻ったら、乗組員に彼女のために花を植えてもらいます。」

「ありがとう、何を選ぶかな？もしかしてバラ？」

「君なら分かるだろう」とクリストファーが言ったのはそれだけだった。

その日の午後遅く、彼女の無言の言葉で、ブランブルベリーが散歩に行こうと提案しているのを聞いたような気がした。私はそれについて考えました。うーん、それは良いアイデアですね。ああ、もしかしたら明日かもしれない。

私は疲れていて、とても悲しかったです。それから私は再び彼女の声を聞きました。それで私は疲れた肩にセーターを掛けて、早い日没に向けて歩き始めました。

角を曲がったところで、通りを下ると、男性が美しいキャラメル色の長毛のゴールデンレトリバーを散歩させていました。犬の毛皮は、ブランブルベリーの毛皮の明るい部分と同じ色でした。私は挨拶をして、彼の犬の名前を尋ねました。

「彼女はシーラです。そして彼女は8歳です。」

シーラがやって来て私の隣に座り、私の足に頭をもたせかけました。彼女は鮮やかなピンク色のフリスビーをくわえていました。

「彼女のためにフリスビーを投げてもいいですか？」

「彼女はフリスビーを運ぶのが好きですが、追いかけるのは好きではありません。彼女を見て彼は言いました、「彼女はあなたのことが好きです。」

私たちが話している間ずっと、シーラは私の足に頭を押し付けていたので、私は手を伸ばして彼女を撫でました。

私たちはもう少し長く話しましたが、シーラは体全体を私の足に預けるように動きました。彼女は尻尾を振って私を見上げました。彼女は微笑んでいたと思います。

「わあ、彼女は本当にあなたのことが好きなのです！」

「私の大切な猫がキティ天国に行っただけなので、彼女は私に特別な愛を与えてくれていると思います。もしかしたら彼女もなんとなく知っているのでは？」

彼はそれについて考えました。

「彼女はセラピー犬ですか？」

「彼女はそうではありませんが、彼女はそうなる性格を持っています。彼女のあなたへの愛を見れば、彼女がそうであることがわかります。自然に上手いよ。」

彼と話し、さらに数分間シーラを撫でた後、彼らは会話を続けました。通りを歩く。

この人は私の近所の人でしたが、これまで会ったことがありませんでした。ベルクロドッグのことを考えたときシーラ その後、ブルンベリー・ローズはシーラが私と同じ場所、同じ時間に歩いていることを知っていたのだろうか、そしてそれが彼女が私に散歩に行くことを望んでいたと感じた理由なのかどうか疑問に思いました。 BrambleBerryは私にShilaから愛を得ることを望んでいましたか？犬への愛は本当に素晴らしい愛で、私は笑顔になりました。そして、それは私が感じていた痛みを和らげてくれました。

その夜、クリストファーと私が話したとき、彼は私が自分の仕事について疑問に思っていたことを私に言いました。「私たちが建設していた地下ドッグランを覚えていますか？」

「はい、調子はどうですか？」ベルクロ犬のシーラについては触れませんでした。

「もう終わりました。私たちは断熱性の高い、とても素敵な犬小屋を建てることにしました。そして飼い主たちは彼らの母犬「ノヴァ」がここで過ごし始めると決めたのです。」

彼は以前、飼っている犬のことと、彼女をどれほど愛しているかを私に話してくれました。彼女はベルギー産マリノアでした。とてもよく訓練されており、子犬を迎える準備ができています。

彼が人生の初期に盲導犬を育てていたことを私が話したときのことを覚えていますか？盲目？彼は犬のしつけ方を知っていて、子犬が大好きでした。どうやら、彼女の飼い主は彼がノヴァと一緒にいるのを見て、彼が信じられないほど革新的な家やプライベートパークを建てただけではないことに気づきました。彼らは、子犬が到着した後、彼に子犬の世話を手伝ってほしいと望んでいました。

「広い庭はほとんど完成しており、現在私たちは彼女が天候に左右されずに比較的安心して生活できるよう、家の工事を行っています。彼女は新しい犬小屋がとても気に入っていて、そこで子犬を飼ってほしいと思っています。彼らは自分たちを動かしたくありません。」

彼には彼の犬の話があり、私には私の犬の話がありました。私は彼にシーラのことを話しました。

クリストファーは遠くからできる限り助けてくれました。彼はブルンベリー・ローズがいなくなったことをひどく悲しんでおり、家にいて私を助けることができないことに不満を感じていました。彼は去り際に彼女にキスしてくれたことに感謝し、「少なくとも私にはそれがある」と言った。

次の夜、私はブルンベリー・ローズが私に散歩に行こうとしているのだと再び思いました。普段通らない町の中の道を通して、家に帰る途中、郵便局の向かいにある中庭のレストランのテーブルの上で、炎が踊るのが見えました。私はその炎にどうしようもなく惹かれていくのを感じました。

女性がサーバーと話していました、そして私が通り過ぎたとき、彼女がこう言っているのが聞こえたように思いました。動物の友人を失うことについての何か。

ベットを亡くしたばかりなのかと尋ねると、私たちは話し始めました。私たちはお互いを知りませんでした。彼女の名前はエリザベス、愛犬のトリクシーが虹の橋を渡ったと言っていました。まさにその朝、話しているうちに、私たち二人とも、彼女を失ったことで動揺し、打ちのめされているのは明らかでした。私たちの大切な動物の友達。私たちは何度も泣かずにはいられませんでした。私たちは抱き合った。そして空にほんの少しの光が残り、夜が明けるまで私たちの会話は続きました。寒くなり始めています。

話しているうちに自分が強くなっていることに気づきました。帰る頃には空っぽさは感じられなかった。BrambleBerry Roseの喪失から。なぜかエリザベスに共感すると癒される。私の心の中の最悪の痛みはいくつか。もう一度、私はタイミングについて考えました、そして私の猫は最近翼を与えられた彼女が私をその偶然の出会いに導いてくれました。

数日後、ジェニー博士のオフィスで、私は彼女の遺灰と足跡を拾いました。白いセラミックの記憶彫刻にプレスされています。大丈夫かと思ったけど無理だった。泣くのをやめてほしいと思ひ、地元の歴史あるカトリック伝道所の前を車で通り過ぎたとき、泣くのをやめることにしました。私は欲しかった。小さな礼拝堂の静かな敬意の中に座ってください。

友人のサーシャ姉妹がそこにいて、なぜそんなに悲しいのかと尋ねた後、こう言いました。BrambleBerry Roseはまだあなたと一緒にです。」

彼女が「信じますか？」と尋ねたとき、私は彼女の言ったことを理解しようとしていました。

"はい。"

「でも、あなたはまだ泣いているんですね。」

「彼女はここにいません。彼女がいなくてもとても寂しいです。」

サーシャ姉妹のおかげで気分が良くなりました。姉妹からのこの言葉には驚きました。カトリックの信仰。教会が動物に死後の命を持つことを許可しているかどうかは知りませんでした。

数日後、私が庭の彼女のお気に入りの場所を再び歩いていたとき、私は聞いた。彼女の無言のメッセージは「ありがとう、ママ、ステイビー」。彼女は立ち止まった。「そしてお母さん、アンバー」。もう一度立ち止まって、「私に与えてくれて。。素晴らしい。。ストーリー…それが私の人生でした。愛。。ドット。いつも。。ドット。永遠に。。ドット。!」

私は歩くのをやめ、沈黙と朝の日差しに身を委ねました。私の心に浮かんだすべてを捉えたかったのです。彼女はサインオフするだろうと思った。多分彼女は「オーバー・アンド・アウト」とか「マイク・ドロップ」とか言ってました。でも、いや！彼女は私に手紙の写真を見せてくれた。BRR,Rの右脚は非常に長く、曲線を描いて終わりました。

クリストファーはこれを聞いてこう言いました。あのRは彼女の尻尾だったんだ！」

このメッセージには2つの興味深い部分があります。

1. 私は彼女をBBRと呼んだことはありません。考えもしませんでした！

2. 彼女の人生の最後の年に、私は彼女の名前を Bramble と Berry の両方に大文字の B を付けて BrambleBerry Rose と書き始めました。

翌朝、私は再び庭の彼女のお気に入りの場所を歩いていて、彼女の気配を感じました。

面前、私は大声で言いました、「ブランブルベリー・ローズ、あなたがなくて寂しいです。」

私が言ったことと、「大丈夫、お母さん」という言葉の間には息もありませんでした。

彼女の言葉には柔らかな平安が伴った。





10. 愛を胸に生きよう

私は毎日、暖かい午後に彼女が好んで座っていた場所で時間を過ごしていることに気づきました。彼女のいない状態でほぼ一週間が経過し、太陽が私を手招きして、咲いたオランダカイウの花を見に行きました。私はそれらが彼女のためだけに生えてきたのだと思っていましたが、後でそれが何を表しているのか調べたところ、それが若さと再生の象徴であることがわかりました。家に戻ろうと振り返ったとき、心の中に彼女の存在を感じ、心の中ではっきりと彼女の声が聞こえました。

彼女はこう言いました。

"私はここにいます。"興味深い、それはどこにあるのかと思いました。"渡ったらここにきてほしい"

だからあなたは次のことをする必要があります。許してください。みんな。すべて。"

さて、私は米国西海岸の秋の朝の穏やかな日差しの中に立っており、猫が私に話しかけています。訂正：最近光のところにいった猫が私に話しかけています！

「心に愛を持って生きましょう。」

彼女は数分間沈黙していた。

「最新の状態を維持してください。あなたと他の人々の間に有害なものをあなたの中に残さないでください
いい心臓。」

彼女は透明な水晶のような心臓の画像を見せてくれました - それは難しいことではありませんでした。クリスタルのように、ただ透明でキラキラしています。同時に浮かんだ考えは、私と他の人の間で不快なことが起こったとき、彼女は私にその問題に取り組んでほしいということでした。彼女は私の心に悪いことを残さないでほしかったのです。彼女は私にただ物事について話してほしかったのです。それらが起こったとき！

「心に愛を持って生きよう」の部分は、すべての人を愛することではありません。それはむしろ、彼女が私に愛を心の中に持ち、私が誰であるかの一部として愛されることを望んでいたようでした。彼女は私に、生き物や地球を含めた周囲の人たちの幸福のために考えて行動すること、そしてそれを意図的に行うことを望んでいるという印象を受けました。

後になって考えてみると、歴史上の出来事の一部をどうやって許せるだろうかと思いました。私たちの世界で起こったことについて私が知っていた出来事。大量の人々に危害を加え、殺害した指導者たちをどうして許すことができるでしょうか？私はその規模で許し方を知りませんでした。その日以来、私が学んだのは、最も親しい人の行いを許すことがいかに難しいかということです。

しかし、その朝の日差しの静寂の中に立っていたとき、私は自分の心や心、あるいは私たちが変わる場所に変化が起こるのを感じました。

何よりも私は BrambleBerry Rose ともう一度一緒にいたかったのですが、彼女はちょうど与えてくれたばかりでした。私がたどるべき道。

私は宇宙の創造主を信頼していますが、大声でこう言いました。
みんな全部。助けてくれませんか？私に教えてください、あるいは私のためにやってください。」

私を変更され。

あの日。

その場で。

私に突然の根本的な変化が起こり、私はそれらとは異なりました
すぐに。





11. 大きな赤い捕食者

BrambleBerry Rose が私に望んでいた 3 つのことについて私が知った数日後、彼女は翼のある訪問者を送ってきました。彼女の精神的な戦士の性質に忠実に、それは美しい蝶でも、飛び回る愛らしいハチドリでもありませんでした。

彼女は私に鷹を送ってくれた。

私のオフィスの窓のすぐ外です。

大きくて赤い捕食者。

大きさと私からの距離から、その鳥は2羽ほどだと判断しました。

頭のとっぺんから尾羽までの高さは数フィートです。それは急いでいなかったのも、おそらく12分から15分間、彼女が登っていた枝に座っていました。

私たちはこの敷地に16年間住んでいますが、家の中で猛禽類を一度も見ることがありませんでした。ヤード。それが彼女からの愛のこもったメッセージだとすぐに分かりました。私は、彼女が自分は元気である、そして彼女の力強く並外れた性質に忠実に、依然として戦士としての自分を保っていると言ってくれていると信じていました。

もちろん、鷹が訪れるというのは霊界では何を意味するのか調べてみました。

それはあの世に行った人たちからのメッセージであり、私たちにその気配やささやきに注意を払うように求めるものであることを知りました。彼らはこの地球を去った私たちの愛する人たちからのものです。BrambleBerry Roseからのこのメッセージは、私が見たり聞いたことは間違いなく彼女からのものであることを私に知らせてくれていると信じていました。

この出来事からほんの1～2日後、ウィリアムはネバダ州リノで車を運転中に道に迷ってしまいました。

すると、金色の翼を持つ大きな鷹が彼の視界に飛び込んできた。それが前庭に止まり、車で通り過ぎたとき、彼はしばらくそれを眺めて、「とても大きな鳥だ」と思いました。何らかの理由で、彼は道路標識を見上げて（GPSに導かれているため、普段はしないことですが）、通りの名前を確認しました。

ブランブルドライブでした！



その頃、もうひとつの異常な出来事が起こった。

静かな朝、オフィスで仕事をしながら、私たちのプライベートの森のような景色を眺めました。駐車で鹿を見ました。その日は庭にいる必要も街に行く必要もなかったので、家の中にいて様子を眺めていました。何て美しい！年齢も性別も分かりませんでした。こんなに近くで見ることができて本当にびっくりしました。で、私の。ヤード！

次の日、もっと小さいバージョンを見ましたが、これには角がありました。これは赤ちゃん、男の子で、。 。または、角かもしれません。それで私は大きい方が母親だと思いました。私がどれほど幸運だったと思いますか？

次の日、二人ともそこにいたのですが、その時、本当にママと赤ちゃんだと分かったので、ママ・ビューティーとベイビー・バックという名前を付けました。

新しい隣人は、ジギーという名前の豪華なふわふわの生姜猫を飼っていて、鹿と一緒に時間を過ごすために来るようになりました。ヘイリーは窓からその様子を眺めていましたが、まったく動揺していないようでした。彼女は何時間も彼らを観察しました。鹿は座って庭を歩き回り、植物をかじって、パークチップの中で眠っていました。時には一晩中。

クリストファーは、ビューティーとベイビー・バック、ジギー、そしてブランブルズとの私の冒険について聞くのが大好きでした。また、ノヴァちゃんの子犬が生まれたとも語った。彼らは9人いて、ノヴァはいつも彼らと一緒にいました。

それからクリストファーは私に新しいニュースを教えてくださいました。

「昨夜目が覚めました。部屋は真っ暗で、大きな緑色の目が二つ見つめられているのが見えました。自分！」

「彼らはどこにいたの？」

「まあ、それが奇妙な部分だ。彼らは天井から数フィート下にありました！」

"何？それが誰だったのか知っていますか？

「バゲッラでした。彼は大きいよ！」

「それはすごいですね。」

「彼は今も私と一緒に旅行しており、私を守ってくれています。今日の午後、サプライヤーに行かなければならなかったのですが、彼が私を追って店に入って来たような気がしました。」

「何かあったんですか？」

「それが奇妙な部分だ。それは私がハードウェアを購入しているのと同じ店で、今日は私の知らない男性が人々を助けていました。彼は私に対して失礼な態度をとった、私にはそれが手に入らないと言った

欲しかったドアのヒンジですが、何が起きているのかわかりませんでした。私がここに来るたびに、あなたが知っている女性たちが私を助けてくれて、すべてがスムーズに進みました。」

「出発しましたか？」

「はい、そうしました。静電気が多すぎて理解できなかったので、バゲッタと私はその場を去りました。彼は車の後部座席で大きくなって、私が走り去る間喉を鳴らしていました！」

私のクリストファーと巨大な黒い精霊の猫のイメージは魅力的でした。





12. 犬にはスーパーパワーがある

私には、失ったものの大きさに論理的に対処する方法がありませんでした。

狂ったように、私は BrambleBerry Rose の完璧に美しい抽象的な模様を見逃していました。どのように私は彼女の足の裏と口の上の黒い斑点が大好きでした。とても美しい猫がたくさんいます。これは承知しております。しかし、私にとって彼女は完璧でした。彼女の喪失は理解できないものだった。それは私の心を引き裂き、暗い道に連れて行き、私を殴りました。

。毎日。

数日後、私は彼女が「猫は犬よりも賢い。」と言っているのを聞きました。。。。でも犬には超能力があるんだよ。」

そのとき、うちの猫にはユーモアのセンスがあるのではないかと思います。私は彼女が何を意味するのか尋ねました。彼女は、「私は猫ですが、犬は猫よりも簡単に地球の上を歩くことができ、犬はより遠くまで移動できると思います。」と明言しました。

彼女は私に犬が人々と一緒に私たちの町を歩いている画像を見せてこう言いました。猫として、彼女はそれができないことを知っていたのです。

"私はあなたがとても大好きです。。。。そしてあなたに会えなくて寂しい。あなたと離れたいはなかったけど、行きたかった。理由がありました。」

彼女は「またあなたの子猫になりたいです！」と締めくくった。

さて、私は今、4週間近くいなくなった猫と会話していますが、これについては大丈夫になり始めています。

彼女が犬について面白いコメントをした直後、私は家に彼女の存在を感じました。まるで本当に起こっているかのように、彼女が廊下からドアを通して私のオフィスに入り、椅子の背もたれの窓際に座り、私がデスクで仕事をしている間私の周りを歩き回るのを私は見ていました。そして彼女はまたいなくなりました。

それはとても包み込まれるような感覚でした。私は彼女にもっと長くいてほしかった。

クリストファーはノヴァの子犬たちと楽しい時間を過ごしていました。

「彼らは私が彼らのために建てた家の中で少し歩いています。彼らがここにいてくれて本当に嬉しいです。ノヴァさんは素晴らしいお母さんで、私を信頼して抱っこしてくれます。うちには5人の乱暴な男の子と4人の小さな女の子がいます。少年たちはすでに毛布を引き裂きたいかのように引っ張っています。」

「あなたがどうやってそれらを持っているか興味深いです、そして私はシーラを持っていました。」

「飼い主のランディとグレースは、子犬が生まれる数日前にその場で決断を下しました。彼らがここに住ませようとさえ考えていたとは知りませんでした。でも確かに好きですよ。それは私の心を癒すのに役立ちます。」

「ブルブルズがこれと何か関係があると思いますか？」

「たぶん、彼は静かに、まるで敬虔なささやきのように言った。」

彼女が去ってからさらに数日後、私は BrambleBerry が私にそうすることを望んでいないように感じました。悲しむ。彼女は私がいなくて寂しかったし、私が悲しんでいるのを見て悲しんでいました。

次の日の夕方、私は夕方の渋滞の中、赤信号の海の中に座っていたとき、彼女のことを思い出し、ブルブルベリー・ローズが戻ってきてくれたことに大声で感謝しました。すぐに私の心の中に彼女の美しく柔らかい声が聞こえました。「私はあなたのために二度戻ってきました。」

うわあ！それはソフトパンチのようなものだった。

私は彼女の言葉について考え、彼女はこの人生で私と一緒にいたのだろうかと思いました。うちの猫アース、ブルブルベリー・ローズになる前、彼女が意図的に地球として私の元に戻ってきた可能性はありますか？彼女が言ったとき、それはそういう意味でしたか？

今、私は自分の深みから大きく外れていました。私たちは複数の人生を生きていると思いますか？正直に言うと、分かりません。私たちがそうでないことを私は知っていますか？いいえ。。。それについての私の考えは変わる可能性があります。



この喪失感がどのように感じられるかを多くの人が知っています。それらを失うと、それは大丈夫ではなく、常に傷つきます。涙が止まらなかった。私は悲しみに打ちひしがれました。

一日後、私の悲しみは少し和らぎました。そして私は、死は人生にとって特別なものだったのではないかと思い始めました。BrambleBerry Rose への優しさ — ジェニー博士から電話があったとき。

「ブルブルズさんの解剖により、私たちが彼女に投与した抗関節炎薬が判明しました。彼女のACL断裂は機能しませんでした。彼女の股関節は関節炎で損傷していました。」

"何？"私はショックを受けました。私は彼女を助けていたと思いながら、あの数ヶ月、そして日々のことを思い出しました。

「私が見た限りでは、彼女が私たちのもとを去った当時、彼女は症状もなく生きていました。しかし、それは将来彼女に多大な苦痛を与えることになるかもしれません。」

それを聞いたクリストファーも同様にショックを受けた。「あの薬も、あれも全部。まあ！彼女がいなくなったのはとても残念ですが、いい！」。それが彼女にとって最善のことであったかもしれません。何年もできないよ。彼らが苦しんでいることを考えると立ち上がってください

彼はプロジェクトの重要な場所において、多層構造のフレームは巨大で、本当に素晴らしく見えたと言いました。私はヘイリー・スカイウォーカーと二人きりで、ひどい沈黙がありました。

「私は感じている悲しみを振り払うことができません。」クリストファーは言った。「ブランブルベリー・ローズが本当に私たちの元を去ったのか、未だに信じられません。もしかしたら、私があなたと一緒にいなかったから、彼女がいなくなってしまったということを感じるのが難しいのかもしれませんが。家に帰れなくて本当にごめんなさい。」

「ここに来られなくて残念ですが、悪く思わないでください。わかった。私は何度も建設現場に行ってきたので、地面から建物を引き上げるときは、その場にいなければならぬことを知っています。ノヴァもあなたを必要としていると思います。」

「あの子犬たちはとても早く成長しています。もう小さなジャガイモではありません！」

最初の数週間以内に、私は自分が問題に直面していることに気づきました。私のこれまでの長年の愛と喪失の歴史の中で、私は20匹以上の愛された子猫と成長した猫、2人の親しい友人、そして両親を埋葬してきました。死は私たちにとって未知のことではありませんでしたが、私は自分が経験している悲しみの深さに対して準備ができていませんでした。もう一度猫と一緒にいたかったです。

この絶望感は今まで感じたことはありませんでした。とても寂しい気持ちになりましたが、それは私にとって新しい感覚でした。私は死にたくなかった——それは私の考えではなかった——ただもう一度彼女に会いたかっただけだ。生と死の境がティッシュペーパーのように薄くなったのを感じました。私の思考は暗くて深くなり、これまで行ったことのない場所に私を引き込みました。慣れないもので、そこから抜け出す方法がわかりませんでした。

私は、一緒に仕事ができる悲嘆を専門とする地元の専門家を探し始めました。

ちょうどその頃、通りの向かいに住む隣人のスティーブンから電話がありました。彼は、家の売却が予定よりも早く終わってしまったので、私と一緒に数日間滞在してもいいだろうかと思ったと言いました。物事の仕組みは面白いと思いませんか？

クリストファーに何が起きているのかを知らせると、彼はこう言いました。ここにあと数週間滞在できれば、休暇をとって一週間ほど家に帰ることができます。スティーブンはあなたの良い仲間になるでしょう。」

私は彼に「どういたしまして」と言いましたが、スティーブンにも事前に警告しました。

「もちろん、好きなだけ滞在してください。クリストファーは数週間は戻ってきません。でも、知っておいてほしいのですが、私はまだブランブルベリー・ローズを失ったことに苦しんでいて、一日中いつでも自然に泣いてしまいます。他の人たちと付き合うのが難しくなります。ああ、もう一つあります。家の中を歩き回ったり、死ぬほど大声で話したりします。時々私はその怪物に向かって叫びます。」

"あなたは何と言いますか？"

「彼女はあなたのものではありません。あなたは彼女を盗んだのです！あなたは彼女の世話をしませんでした。あなたは決して彼女を愛していました！あなたは愛する方法さえ知りません！彼女は光と私のものです！あなた泥棒です。あなたは痛みを引き起こし、あなたを破壊します！あなたが持っているものは何もあなたのものではありません。あなたは…だうそつき！彼女は決してあなたのものではありません。彼女を引き留めることはできません！あなたが敗者です；あなたが知っている光については何もありません。たぶん、あなたは光に行くべきです - そこがあなたを見つける場所です愛と救い。彼女は私のものであり、あなたが何をしてもそれを変えることはできません！」

スティーブンの反応にはこれ以上驚くことはできませんでした。

「そうすべきだ。それはあなたと彼女の身を守るものです。 。 。 一歩踏み出してほしいさらに遠く。闇の支配者に、彼は本物ではなく、死も本物ではないと伝えてください。」

そこで、「バン！」

自分の言葉で死の怪物を殴ることができるような気がし始めた。

スティーブンは、私が彼に会う何年も前から、彼の最愛の少年猫、プーについて再び私に話してくれました。「プーがいなくて寂しいです。 。 。 年月が経つにつれて痛みが減っていきました。」

それは私が死に向かって叫ぶのを助けました。また、このようなサポートがあることを知ることもできました。癒しながら創造的になるよう励ましてくれました。

このような深い喪失の後に心を癒すプロセスは個人的なものであり、タイムスケジュールではありません。いたるところに辛い思い出があり、私の環境はそうでしたプービートラップに陥った。スーパーに行くと野菜の前を通り過ぎたとき、彼女のためにほうれん草ともやしを見つけてください。 。 。 ああ、痛かった。それは私を驚かせました。私にはその準備ができていませんでした。

クリストファーの仕事は予定どおりに進み、子犬たちは順調に進み、スティーブンはそのまま残りました。数週間にわたって役立ちます。彼の友情と理解のおかげで、日々はそれほど悲しいものでもなくなりました、そして私は暗闇から抜け出す方法を探し始めました。私はまだ死に向かって話しましたが、今はこう付け加えました。「ブラムベリー・ローズの死が私の気持ちを弱めることは決してありません。あなたは何も勝っていないのです！」



妹が去って間もなく、彼女の意志に反して、ヘイリー・スカイウォーカーは次のようになった。完全に室内飼いの猫。うちの子猫たちはしばらくの間は安全でしたが、私にはそれさえできませんでした。彼女が外で傷つくというコンセプトを楽しんでください。そして今、ナバル・スターがなぜそうしていたのか理解しました。ずっと前のあの日、自分が噛まれることを許した。私は大声で彼に感謝しました。

ヘイリー・スカイウォーカーが愛し、世話をしてくれたことにとても感謝しました。彼女なしでは私は信じている正気を失っていたかもしれない。これは誇張ではありません。彼女のおかげで私は続けることができたBrambleBerry が置いたままのベッド。しまってた赤ちゃんのおもちゃを全部出してきました

猫たちは大きくなり、クライミングタワーやキティU、さらにはブランブルベリーが使ったことなかったヘイリーのベビーカーまでが我が家に戻ってきました。私には、BrambleBerry Rose とともに私たちの生活の一部となっていたものが必要でした。彼女の色付きのふわふわしたボールのおもちゃが私の床に座って、投げしてほしいと願っている、あるいは誤って押しつぶされていることさえ見たかったです。ベルのおもちゃを床に転がすときの音を聞くのが大好きでした。

以前、私は、ヘイリー・スカイウォーカーが子猫の幼稚園に行き詰まっている間、ブランブルベリー・ローズは猫になる方法について2つの博士号を取得していると言いました。そんなことは関係なかった。たとえ彼らがまったく異なる生き物だったとしても、ヘイリー・スカイウォーカーは私を安定させるのに役立ちました。

そして、ブランブルベリー・ローズを連れて帰りたいかったです。

私は家でも庭でも彼女の名前を言いました。彼女のことを他の人に話すと、まだ泣いてしまうかもしれないので、彼女のことは話さないようにしていました。

目が覚めるとお腹が凝っていました。毎日彼女がなくて寂しかったです。それほど頻繁ではありませんでしたが、それでも涙が私を見つけました。

「あなたと一緒にいたとき、人生がとても楽しくなりました。」私は彼女に言いました。「少なくとも私はあなたが安全であることを知っています。あなたは安全です。もしあなたが私から離れなければならないなら、少なくとも私にはそれがあります。」

私は何日もかけて BrambleBerry Rose の写真を眺めていました。たとえ彼女の長い尻尾だけのものもあったにもかかわらず、私は自分が撮ったものを一つ一つ見つけようとしていました。写真アルバムに入っていたものもあったので、スキャンしてパソコンに取り込みました。私はすぐに、彼女と過ごした長年にわたるお気に入りの大切な写真のコレクションを手に入れました。私はそれらをループ上に置き、いつでも好きなときに、好きなだけ座って見ることができました。

家の周りにはすでにブランブルベリー・ローズの写真が何枚もフレームに入っていました。彼女の赤ちゃんの写真を拡大して、手作りの金と黒の木製フレームに入れてもらいました。そうすれば、目が覚めたときに彼女を見ることができました。だから、日の出に私のお腹が揺れたとき、彼女の美しい目とその優しい顔が見えました。

そして私は旅の日記を書きました。起こったことすべてを思い出したかった。私は彼女が私とコミュニケーションを取っている兆候を探す必要があることを知っていました。私は、彼女がどのようにして生と死の境界を越え、彼女の美しい話し方で私とコミュニケーションをとったのかについて記録したすべての瞬間を何度も読み返しました。

ヘイリーは室内飼いの子猫だったので、セラミック水を放っておいても安全だと思いました。私たちの庭にある小さなレンガの台座に置かれた皿です。ある晩、彼女は私たちに訪問者が来たお知らせしてくれました。彼女は私のオフィスの広い窓の棚に座っていましたが、突然頭を下げ、尻尾を垂らして毛羽立たせ、庭を見つめました。5、6頭のアライグマが水皿で手を洗い、その周りの柔らかい土を掘っているのが見えました。一人はもっと大きかったので、彼女が彼らの母親だと思いました。小さな子どもたちは大はしゃぎで、お互いを追いかけたり、木に駆け上がったたり、飛び降りて新しい水源に水をかけたりしていました。

日中、家の庭の鳥たちが水辺を訪れるだろうかと思いました。翌朝、私はとても汚れた手作りの陶器の皿を洗い、小さな灰色のシジウカラの群れが飛んできて、皿の端を飛び越えて、すぐに飛び去るのを眺めました。（私はそれらをとんがり頭と呼んでいました。）足の指を広げて地面に飛び乗る茶色い小さな鳥も何羽か現れました。私はそれらを見るのが大好きでした。

ママ・ビューティーとベイビー・バックは、愛らしいジギーと一緒に、ほとんどの日訪れました。スカンク家族はほとんど夕方に現れて、とても可愛かったです。私はそれらを見るのが大好きでした。どうやらヘイリーもそうだったようだ。彼女は広い窓の棚に座って彼らを見つめ、彼らの一挙手一投足を観察した。彼女は警戒していましたが、彼らが庭にいることに完全に冷淡でした。

彼女が地球と私の抱擁をすり抜けてから何週間も経ってから、私は日記にこう書きました：ブランブルベリー・ローズが恋しいです。彼女が私の腕や足の上で寝ていて、私の隣で優しい顔をして丸まって私を見つめていたのが懐かしいです。私が彼女に電話したときに来てくれたこと、彼女の穏やかな性質、彼女が私と分かち合った彼女の人生の魔法の宇宙が懐かしいです。私、ブランブルベリーさん。薔薇。





13. 愛は勝つ。損失は損失です。

悲しみや悲しみから立ち直りつつある人々を担当するカウンセラーが、痛みは消えるだろうと私に告げたとき、それは一部の人には当然のことのように聞こえるかもしれませんが、私は安心しました。彼女は、私を吹き抜ける柔らかな風のように感情を漂わせて、ありのままの感情を受け入れて、必要ときに泣いてください、なぜなら涙は私たちの心と体を癒すのに役立つからです、と言いました。彼女は私の気持ちは時間とともに変わるだろうと言いました。

彼女が言ったことを聞く必要がありました。「喪失から立ち直るプロセスに正しい方法も間違った方法もありません。この悲しみの向こう側には新しい命があることを確信してください。」

ふう 私はこの痛みを伴う移行に意識的に参加する方法を見つけました。

「BrambleBerry Rose の聖地を作りたいと思うかもしれません。アルバム、日記帳、お気に入りのお。それは写真でも構いませんもちゃが入った思い出の箱。。。あるいは、庭に新しい花を植えてもいいかもしれません。」

私は彼女についてこの話を書こうと思った。なんと美しい。これらのページは私の場所でした
愛猫がまた生き返るかもしれない。ここは私にとって BrambleBerry Rose の聖地になります。

悲しみや悲しみは欠乏感や喪失感から生じることを学びました。感謝と愛は欠如や喪失に対する解毒剤なので、私はブランブルベリー・ローズと一緒に過ごした年月がどれだけ感謝しているか、彼女が私にとってどれほど素晴らしいか、そして永遠に彼女を愛していることを大声で言い始めました。

「このプロセスは心理的なものだけではありません」とカウンセラーは語った。「それは肉体的なことでもある。あなたの体細胞レベルで変化するには時間が必要です。」

それは今まで聞いたことがありませんでした。

「なぜこれがそんなに痛いのですか？まるで呼吸の仕方を自分に思い出さなければいけないみたいだ！」

「あなたとブランブルベリー・ローズは無条件の愛を知っていました。それは私たちが感じる事ができる最も強力なエネルギーです。通常、人間では起こりませんが、動物では起こる可能性があります。それは決してあなたから離れることはありませんが、それを経験したとき、それを失った悲しみは深いです。」

うちの猫のブランブルベリー・ローズが私とコミュニケーションを取ったのだと思うと彼女に話したとき、
彼女は黙って私を変な目で見なかった。

「ブランブルベリーは何と言った？」

私はブランブルベリーが提案した3つのことと、その他のいくつかについて彼女に話しました。
彼女が言ったこと。

カウンセラーは少しの間立ち止まりました。 。彼女の目には反射的な表情が浮かんだ。「ブラン 。その後
ブルベリー・ローズは啓発されているようで、とても楽しそうにしています」とふざけて笑いながら答えた。
明確に言う。 。猫のために！」

「これは単純な真実であり、啓発的なものであり、私たちは皆、それを生活の中で活用することができます。彼女はそうしなければなりません
一緒に暮らすのが楽しい猫でした。あなたは彼女を愛せて幸運で光栄でした。」

彼女はこう締めくくった。「深く愛すると、喪失の痛みも深く感じます。その
愛することの代償。悲しみは愛です。愛は勝つということを常に覚えておいてください。負けは負けだ。」





14. ミステール

数日後、私は地元の写真美術店で BrambleBerry のお気に入りの写真を拡大してもらいました。新しいクリエイティブなカラープロセスを手伝ってくれた女性、ダイアナは彼女に恋をしました。彼女は私がこれまで聞いたことのないことを私に言いました。「BrambleBerry Rose はとにかく愛らしいです。彼女を私と共有してくれてありがとう！彼女の目には古い魂があることがわかります。」

その日遅く、私はウィリアムに、誰かが古い魂を持っているかどうか写真からわかるかどうか尋ねました。彼がそれができると答えたとき、私はダイアナが言ったことを彼に話し、どうすればそれがわかるのか尋ねました。

「動物の友人の目を見て、その目の奥に何かが見えたら、それは古い魂のしるしです。」

私は彼に、私が取り組んでいた BrambleBerry Rose の写真を送りました。彼が同意したと言ったときダイアナが感じたことを聞いて、私は尋ねました。「古い魂を持っているということは、ブルンベルリー・ローズがこの世の早い段階で別の猫として私と一緒にいたかもしれないということですか？」

彼の答えは私に興味をそそりました。「確かに、それはそういう意味かもしれませんが。そうです、彼女は以前にもあなたと一緒にいたことがあります。」

「この一生で？」

"はい。"

"わかった。。。何？"

「彼女は他の人生でもあなたと一緒にいたかもしれませんが。という感覚はありましたか？以前から彼女のことを知っていたの？」

そこにありました。また！

「あなたはおそらく、私が彼女に会った最初の夜のことを覚えているでしょう、そして私が彼女を抱きしめたとき、私は自分の声を聞きました。言っておきます、私はあなたのことを以前から知っていました！そして、彼女は私のアビシニアン猫、アースのように緑色のブドウを取り出しました。。。。そしてその夜、帰った後、彼女が私に二度も迎えに来てくれたと私に言ったのです！」

ウィリアムは立ち止まり、静かな声でこう言った。「彼女はあなたとの関係が終わっていないのです。」

あなたの世界を変えるようなことを誰かに言われたことがありますか - その瞬間 - いい意味で？その日、それが私に起こりました。

さらに数週間が経過し、クリストファーはついに家に戻りました。彼が通り過ぎたとき
玄関を出ると、ヘイリーは私のオフィスの大きな窓の一つに座っていて、立派な番猫でした。私にキスした後、彼は彼女を抱き上げましたが、
彼女はそんなことは何もしていませんでした。彼女は身を引いて、彼の目をまっすぐに見つめました。彼女の耳は後ろに下がり、大きなミットで押し
しのけました。

「おお、彼女は激しいですね。どうしたの？」

彼は彼女が腕から飛び出ないようにすぐに彼女を床に置きました、そして彼女は
逃げた。

「そのシャツを着たまま子犬を抱いたことはありますか？」

"おお。。。。おそらく、それが彼女を怒らせていると思いますか？

「そうだ、彼女はおそらくあなたを裏切り者だと思っているでしょう！」

彼はシャワーを浴びて服を着替えた後、挨拶しようとヘイリーを探しに行きました
また。彼女は私のオフィスに戻り、彼が入ってきたとき私の椅子で眠っていました。「ねえ、小さな子、あなたがなくて寂しかったよ。」

彼は彼女の横の机の上に座り、手を伸ばして彼女の頭のとっぺんを撫でた。ちょっとの間
彼女は頭を後ろに引っ張り、目は大きく丸くなりました。しかしその後、彼女の顔は変わり、彼の手に頭を押しつけました。

「はあ！ああ、いいね。"彼は彼女を迎えに来た。"君はまだ僕のことを愛している！"彼は私たちの玄関ドアの上半分を開け
て、彼女を抱いてそこに立っていました。「この庭全体はあなたのものです。あなたが見るものはすべてあなたのものです。」

「それは効きそうですね！」ヘイリーが目に見える世界すべてを自分のものにしたいと思っている様子に、私は魅了されずにはいら
れませんでした。

彼は私たちのリビングルームを見回して、ほとんどいたるところにブルブルズのおもちゃを見つけました。「寂しい
彼女も！彼女のおもちゃとキティ RV を再び見ることができてとてもうれしいです。守ってくれてよかったです。」

午後遅く、私たちは敷地内を散歩しましたが、私は再びオランダカイウの群落に驚きました。「以前はこんなにたくさんの方がいたの
を覚えていません。」

私は彼が考えているのを見ていた。

"私はそれを持っている！何色か植えてみましょう。カラス。ガール。グレイのファイアフラワーとハックルベリーのワイルドフラワー
の間で育つことができます。彼らは私たちの感謝の庭でなんと驚くべきワイルドなグループを作らしましょう。私たちの赤ちゃんにとっては色とりど
りの花の一族のようなものです。」

英国の庭師の魂は、野生で手つかずの花園への愛を現しており、私たちの感謝の庭はすでに非対称性と抽象的な色の見事な混合物でした。仕事の中で、彼は「家族」と呼ぶグループに花、植物、木を植えました。それが彼がそれらを見た方法であり、ブルブルズのために、彼は深い紫、柔らかいバラの色、深いバラ、そして白いオランダカイウユリを見つけました。

花が植えられて間もなく、彼と私はランチに向かう途中、家の近くの森の近所を車で通っていました。私道に駐車した車の後部のナンバープレートが私の注意を引きました。青と白の刻印が施された金属片には、「Mystère」という文字が刻まれていました。

ナンバープレートにこの言葉が書かれているのを見たことがある人がどれだけのいるかわかりません。そうでした。まずは私にとって。





15. アイ・ノウ・ハウ・トゥ・セイ・アイ・ラブ・ユー

数日後、私は再びブランブルベリー・ローズの存在を感じたとき、ダイアナとウィリアムが古い魂について言ったことを考えていました。

「私は自分自身について話すことができます。。。 私はあなたを愛していると言う方法を知っています。」

それは私に笑顔を与えてくれました。

「あなたを悲しませたくないの、彼女の声は柔らかくて優しかった。"愛しています。。。 私の愛を感じていただければ幸いです。愛を伝えてほしい。」

確かに彼女は愛についてよく話しますね、と私は思いました。

「あなたには自分の人生を楽しんでほしいのです」と、ブランブルベリーはその美しい口調で続けた。「ここでは学べなくても、そこでは学べることもある。」

私たちの感謝の庭のまだらの日差しの中で、優美なレッドドラゴンカエデ、ガールグレイファイアフラワー、地元の豊富な野生の花や背の高い草、そして今ではさまざまな紫やバラ色のオランダカイウに囲まれて座っていると、私は再びこう思いました。愛するブランブルベリー・ローズとの静かな会話。そして再び彼女は、共有したいいくつかの賢明な考えとともに画像を私に送ってくれました。

「私たちの人生は簡単なものではありません。」ブランブルベリーが明かした。私は彼女がどうだったかを振り返った。彼女は負傷し、ワイルドで高所を飛行するパフォーマンスで家族を楽しませる能力を失いました。

「また一緒になろうね。右。」。。。私を見つけることは心配しないでください。時間が来たら見つけます

再び、継続の糸が繰り返されました。

この世で私の猫として戻ってくるという意味だったのだろうか？それとも向こう側で私を待っていますか？

「タイミングを決定する高次の力があります」と彼女は付け加えた。

「あなたが私があなたと一緒にいると思っているとき、私はいるということを知ってください。」_____

私は彼女が無事だったかどうか静かに疑問に思いました。「ここには私を愛してくれる人しかいないの」と彼女が言うのが聞こえました。「私は愛に囲まれています。ここに居る誰もが私を愛しています。」

それは私の心を元気づけ、私を笑顔にさせました。「もちろんそうですよ」と私は大声で笑いながら彼女に言いました。「あなたはとても美しいです。」

これはまるで人間との会話のようでした。

私は彼女が兄弟や姉妹に会ったことがあるのだろうかと思った。「猫の家族に会ったことがあります」と彼女は言いました。と答えた。「今、自分が霊的になっていることが分かりました。」少し沈黙があり、彼女はこう続けた。それは私の時間でした。ここは美しいですね。私は今幸せを感じていますし、あなたを愛しています。」

「私はスピリチュアルな旅の途中です」とブランブルベリー・ローズは締めくくった。「あなたもそうですよ。」



BrambleBerry Rose が教えてくれたことに取り組んでいます。ただし、それは絶え間ない挑戦です。彼女の言葉のおかげで、クリストファーと私の友人たちは私が変わったと言いました。彼らは私がより気楽になり、許し、前に進むことができると言います。また、気になることについても話します。それは私にとって初めてのことであり、難しいこともあります。そして、問題について怒りを込めて話すのではなく、愛情を持って話すように最善を尽くしています。私は友人たちに私と同じ信念を共有することを求めません。彼らが私の信念を変えたり、同意したり、さらには受け入れたりすることを期待していません。

私は宇宙の創造主にこのすべてについての助けを求めます。毎日。

だんだん上手になってきました。

そして私は覚えています。私は精神的な旅の途中です。

クリストファー、友人たち、そして私はよく言います、「これはスピリチュアルな旅だ」。





16. 終わり？

まず、私はこう尋ねます。終わりはあるのでしょうか？

愛に対して心をオープンにすればするほど、BrambleBerry Roseに近づくことができます。

彼女が私のものであることはわかっています、そしてまた会いましょう。

彼女は安全です、そして彼女は私を愛しています。

私は彼女を愛している。

愛は他のすべてよりも強いです。すべて！

彼女は続けます。

続けます。

結局のところ、愛こそがすべてなのです。





17. 彼女の名前:

ブランブルベリー
ブランブルベリー ローズ
ヘビーブランブルズ
ベイビーB
ブランブルズ
ブランビー
ブランビー
ブランバリー
B
ブランビーベア、クマ
ブランブルベリー
ブランブルベリーローズ
& クリストファーのお気に入り: Miss B

世界で最も優れたもの、最も美しいものは見ることも触れることもできません。それらは心で感じなければなりません。

-ヘレン・ケラー-





18. 物語を伝える写真を見つけました

このラブストーリーを書いた後、BrambleBerry の忘れ去られていた写真を見つけました。ローズとヘイリー・スカイウォーカーはまだ若かった。ある写真では、兄弟のナバー・スターがお気に入りの場所のひとつであるガレージの屋根に座って、裏庭でブランブルベリーがヘイリーをネコ科の動物で仕留めるのを眺めていた。ブランブルベリー・ローズさんは、その小さな猫を完全に押さえつけられ、首の後ろを噛まれていました。

野生では、これは致命傷だったでしょう。

驚きましたか？絶対に！

最初の数か月間、彼女が弟との猫の関係における権力の地位を主張していたとは知りませんでした。

攻撃的な優位性の誇示の後、ブランブルベリー ローズは平和に暮らしました。ヘイリー・スカイウォーカーとともに13年以上、常に非暴力を貫いてきた。

この遡及的な知識により、私の愛する BrambleBerry Rose に対する私の敬意はさらに高まりました。彼女は大好きな活動、つまりリスと一緒に枝に登ったり飛び跳ねたりすることをやめただけでなく、彼女に危害を加えようとする猫と同じ家族で暮らし、王道を歩んだのです。

彼女は平和を作り出す人でした。毎日。

彼女は美しいガキの妹をいつ潰してもおかしくなかった。これは、私が知り愛する特権に恵まれた貴重な美しさは優れた存在であるという、宇宙からのもう一つのメッセージでした。彼女はとても美しく優しいレッスンを私に残してくれました。彼女がいなくなったことで、私が心と精神に平安を感じたのはこの頃でした。

今では、彼女は驚くほど貴重な人生を送り、自分が選んだ通りに生きて信じています。出発するとき、彼女は安心していました。どういうわけか、彼女は自分がどこへ行くのか知っていたからです。彼女は続けます、そして私もそうです、そして彼女は大丈夫です、次の人生まで。彼女はレースを走り、高みに挑戦し、谷を乗り越え、そして今も残っています。素晴らしく強く、自信に満ちていて、そして驚くほど美しい！

この知識を自分の生活に取り入れ、必要なときに知ることができればと願うばかりです
次。

BrambleBerry Roseが脱退してから1年以上経ってからこの写真を見つけました。この話を読むと、私が他の猫を亡くしたことがわかります。。。。そして、どれだけ彼女がいなくて寂しかったかということに驚きました。まだ。彼女は私の心の中でとても大きな部分を占めていました。

クマのブーさんが言ったように、時々、最も小さなことがあなたの心の中で最も大きなスペースを占めます。

—AA・ミルン





19. 私の治癒に役立ったリソースのリストの一部

『天国は本当だ: 小さな男の子の天国への旅と帰還の驚くべき物語』トッド・バーポ著 著者の息子、コルトン・バーポが天国には
たくさんの動物がいると言っているのが大好きです。

犬の目的: 人間のための小説犬の旅W. ブルース・
キャメロン著

レベッカ・スプリンガー著 『Within Heaven's Gates』
YouTube にナレーション付きバージョンがあります: <https://www.youtube.com/watch?v=v-9htSG6jRQ> 長いバージョンはhttps://www.youtube.com/watch?v=IDoyCyqB_lvgにあります。他の啓発的な物語の中でも、彼女はかわいい子猫についての素晴らしい物語を語ります。

Your Talking Cat (ペーパーバック) - 1991/1/1 ジャック リ
ヒター

地元の悲しみ回復グループ。多くは教会や病院と提携しています。

ナンシー・ウィンドハート: 異種間の認識と知恵 <https://nancywindheart.com/>

動物保護サイト: 毎日無料でクリックし

て動物を助けます [https://](https://theanimalrescuesite.greatergood.com/clickToGive/ars/home)

theanimalrescuesite.greatergood.com/clickToGive/ars/home

米国動物愛護協会動物を助ける団体に貢献したいと思うかもしれません。たくさんあります。

私がサポートしているのは次のとおりです: <https://www.humanesociety.org/how-you-can-help>

そして、Humane Society International
<https://www.hsi.org/how-you-can-help/>





愛する人からのメッセージ日記

愛する人から連絡があった日付、曜日、場合によっては時刻を入力して日記を始めるとよいでしょう。それは感情、あなたが見たり聞いたりするもの、香り、映画やラジオの歌かもしれません。拾い物かもしれません。それはハチドリ、蝶、あるいは鷹かもしれません。あなたが考えたり、知ったり、信じたりする出来事はいつでも、それが動物であろうと人間であろうと、向こう側にいるあなたの大切な人からの愛のメッセージです…それはそうです。





著者について

私は純粋で素朴な猫を愛していましたが、彼女が死んだとき、私は未知の暗闇に遭遇しました。同時に、私の心の中で、彼女は私とコミュニケーションを取り始めました。彼女の愛の言葉が心の中で感じられ、救われました。

私は自分自身を助けるために彼女の話を書きました。彼女の愛の言葉があなたを助けることを願っています。あなたの知っている誰かが、愛を失い、同じ破壊的な闇に出会った人です。

BrambleBerry Rose に出会う前、クリストファーと私はカスタム ホーム デザインおよび建築会社を運営していました。私たちは受賞歴のある住宅を建て、当時のサンディエゴ・パドレスのオーナーのためにスカイボックスを改装しました。オーナーのためにこれらの家を建てている間、私たちはハワイを含む国の西側に沿った 3 つの州に住んでいました。クリストファーは天才的な住宅および庭園デザイナーです。それが一般的になる前に、彼はパッシブソーラー住宅を設計し、建設しました。他の革新的な対策の中でも、彼はカリフォルニア州ビッグサーに持続可能な住宅を建設しました。これは、雨水の収集、太陽光発電、浄化された室内空気、野生動物と安全に暮らすための非脅威的な対策、自然の気流の利用を利用したものです。冷却と循環に。

BrambleBerry Rose が若かった頃、クリストファーと私は 1Sun4All を設立しました。ウェブサイトそれはクリーン エネルギーと私たちが直面している気候問題の解決策に焦点を当てていました。ウェブサイトの管理とすべての記事の編集を担当しました。また、Cleantechnica.com にも寄稿しました。ここでは、私の記事の多くを今でも見つけることができます。いくつかは太陽光発電のみを使用して世界中を回るソーラー・インパルス飛行を追って書かれたもので、他のものは米国エネルギー省のソーラー・デカトロンのために書かれたものです。私は『Scientific American』誌に 3 回掲載されました。1回はソーラー インパルスがサンフランシスコのゴールデン ゲート ブリッジ上空を飛行していたとき、そして 2 回は私が作成したクリーン エネルギーのインフォグラフィックでした。また、ソーラー デカトロンでの取り組みが米国エネルギー省からも認められました。

心の中では私はアーティストです。キャンバスにアクリル絵の具を描いています。私にはいくつかの異なるスタイルがあり、その中には私の現在の情熱である抽象表現主義も含まれます。私の金箔と銀箔で描いた十字架の絵は、私たちの町の地元のミッションバシリカでキャンドルを灯すテゼの祈りの礼拝中に展示されました。クリストファーと私は子猫や猫を保護し、そのほとんどが私たちと一緒に暮らしていました。長年にわたり、私たちは30匹以上の保護猫たちを愛し、一緒に暮らしてきました。 BrambleBerry Roseは貴重な宝石であり、他に類を見ないものでした。

他の言語では愛という言葉の選択肢があると読んだことがあります。英語には 1 つしかありません。そこで私は、私が知っている人について書きます。それは私を高揚させ、より良い人間にしてくれて、他にはアクセスできない魔法の世界を私に見せてくれました。そしてそれが物理的に終わったとき、私は私を投げ倒し、押しつぶされました。

私は再び飛ぶことを学ばなければなりません。私の魂はそれを求めています、そして私にそれができる唯一の方法は、ブランブルズと私が知っていた愛を受け入れることでした。その時、私は彼女と私が時間以上に長いことを知りました。重力よりも強い。私たちは愛したからこそ、無限に触れたのです。

私たちは。

そして、なるでしょう。

永遠に。

